

科学技術に関する国民意識調査  
— 人的国際交流について —

2023 年 1 月

文部科学省 科学技術・学術政策研究所

第1調査研究グループ

細坪護拳 加納圭 渡邊英一郎

本 DISCUSSION PAPER は、所内での討論に用いるとともに、関係の方々からの御意見を頂くことを目的に作成したものである。

また、本 DISCUSSION PAPER の内容は、執筆者の見解に基づいてまとめられたものであり、必ずしも機関の公式の見解を示すものではないことに留意されたい。

The DISCUSSION PAPER series are published for discussion within the National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP) as well as receiving comments from the community.

It should be noticed that the opinions in this DISCUSSION PAPER are the sole responsibility of the author(s) and do not necessarily reflect the official views of NISTEP.

#### 【調査研究体制】

細坪護拳	科学技術・学術政策研究所 第1調査研究グループ 上席研究官
加納 圭	科学技術・学術政策研究所 客員研究官 滋賀大学教育学部教授
渡邊英一郎	科学技術・学術政策研究所 第1調査研究グループ 総括上席研究官

#### 【Contributors】

HOSOTSUBO Moritaka Senior Research Fellow,  
1st Policy-Oriented Research Group,  
National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP), MEXT.

KANO Kei Affiliated Fellow, NISTEP, MEXT.  
Professor, Department of Education, Shiga University.

WATANABE Eiichiro Director, 1st Policy-Oriented Research Group,  
NISTEP, MEXT.

本報告書の引用を行う際には、以下を参考に出典を明記願います。  
Please specify reference as the following example when citing this paper.

細坪護拳, 加納圭, 渡邊英一郎, 「科学技術に関する国民意識調査—人的国際交流について—」, *NISTEP DISCUSSION PAPER*, No.218, 文部科学省科学技術・学術政策研究所.

DOI: <https://doi.org/10.15108/dp218>

HOSOTSUBO Moritaka, KANO Kei and WATANABE Eiichiro, “Public Attitudes to Science and Technology – About international human exchange –” *NISTEP DISCUSSION PAPER*, No.218, National Institute of Science and Technology Policy, Tokyo.

DOI: <https://doi.org/10.15108/dp218>

## 科学技術に関する国民意識調査－人的国際交流について－

文部科学省 科学技術・学術政策研究所 第1調査研究グループ

細坪護挙 加納圭 渡邊英一郎

### 要旨

15歳から69歳までの男女合計6,600人に対し、我が国の科学技術分野における人的国際交流はどの程度行われているかについて質問したところ、性別に関係なく、比較的否定的な見解の方が強いように思われる(男性((あまり)十分には行われていない53%、女性((あまり)十分には行われていない51%)、わからない、男性24%、女性33%)。一方、性別では男性((まあ)十分に行われている23%)の方が女性((まあ)十分に行われている16%)よりも高い一方、年代別では若い世代(24歳以下)で高いことが判明した。

人的国際交流の意義について訊いたところ、こちらも性別に関係なく、男女ともに、お互いに刺激し合うことにより、より豊かな科学技術が創造され、世界の科学技術の向上につながる(男女ともに47%)、日本と諸外国との間の相互理解や信頼関係が深まり、国際関係の安定につながる(男性34%、女性30%)などで高くなっている。

人的国際交流を進めることについて、重点を置くべきかについて訊いたところ、性別では男性((どちらかといえば)重点を置くべきだ66%)は女性((どちらかといえば)重点を置くべきだ60%)と比べて大きい。また、年代別に見ても年齢が高くなるにつれて、(どちらかといえば)重点を置くべきだ、の回答者の割合が高くなっている。25-29歳が最も低く、65-69歳が最も高くなっている。

Public Attitudes to Science and Technology - About international human exchange -

HOSOTSUBO Moritaka, KANO Kei and WATANABE Eiichiro

1st Policy-Oriented Research Group, NISTEP, MEXT

### ABSTRACT

When we asked a total of 6,600 male and female between the ages of 15 and 69 to what extent international exchanges of people in science and technology field is held in Japan, irrespective of gender, negative view makes up the relative majority of the group (male (53% who are (relatively) insufficient and 24% who don't know), female (51% who are (relatively) insufficient, and 33% who don't know). On the other hand, by gender, male (23% who are (relatively) sufficient) are more likely than female (16% who are (relatively) sufficient), and it was found that the younger generation (under 24 years old) is higher by age.

When the significance of international human exchange is asked, irrespective of gender, the response alternative "through stimulating each other, a great number of achievement of science and technology will be created and this leads to the improvement of science and technology in the world" (47% for both male and female), and "deepening mutual understanding and relationship of trust between Japan and other countries and this leads to stable international relations" (34% for male, 30% for female) are at high rates of the response.

When it is asked whether we should emphasize the promotion of international human exchanges, by gender, male (66% should (relatively) emphasize) are more than female (60% should (relatively) emphasize). Also, when looking at age groups, the higher the age, the higher the percentage of respondents who (relatively) should emphasize, namely, the lowest is among those 25-29 aged and the highest is among those 65-69 aged.

## 目次

概要	i ~ x x ii
1. はじめに	1
2. 調査の概要	1
(1) 調査対象	1
(2) 調査期間及び調査方法	1
(3) 調査時点	1
(4) 調査項目	1
3. 調査結果	
(1) 人的国際交流に関する国民の意識に関する調査結果	2
(2) 人的国際交流の科学技術政策に関する国民の意識に関するクロス分析	26
(3) 人的国際交流以外の科学技術政策に関する意識	40
4. おわりに	60
5. 参考文献	60
質問票	61
インターネット調査質問票その1	63
インターネット調査質問票その2	88



# 概要



## 【概要】

### (1) はじめに

科学技術・学術政策研究所(以下 NISTEP)では、科学技術に関する国民意識データを収集し、科学技術イノベーション政策の立案・推進に資することを目的として、2009年度から、「科学技術に関する国民意識調査」を実施している。

本 2022 年度調査(2022 年 10 月調査)は、15 歳から 69 歳までの男女合計 6,600 人にインターネットを使って調査したものである。

### (2) 調査の概要

本調査は、科学技術イノベーション政策の立案・推進に資する基礎データの提供を目的として、2009 年度以来、NISTEP が科学技術に関する国民意識を把握するために継続的に実施している。

#### 1) 調査対象

インターネット調査会社にモニター回答者として登録している者である。

#### 2) 調査期間及び調査方法

2022 年 10 月にインターネットによって実施した。

サンプル数は N=6,600 で、回答者年齢は 15-69 歳、サンプリングの層化として、男女同数(男性 3,300 名、女性 3,300 名)、15-19 歳、20-24 歳、25-29 歳…60-64 歳、65-69 歳で同数(11 の年齢層、1 年齢層当たり 600 名)とした。

#### 3) 調査時点

2022 年 10 月 14 日から 10 月 26 日にかけて実施した。

#### 4) 調査項目

今般の調査では特に人的国際交流に対する重要度を把握することが目的である。

### (3) 調査結果の概要

概要では、調査結果のうち、1)人的国際交流に関する国民の意識の主な結果について示すとともに、2)人的国際交流の科学技術政策に関する国民の意識に関するクロス分析についても紹介する。

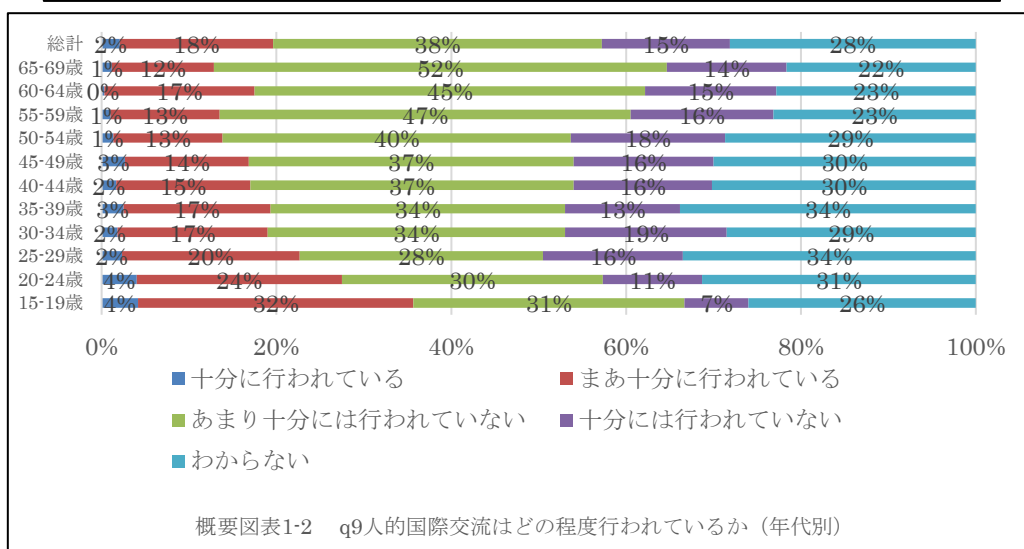
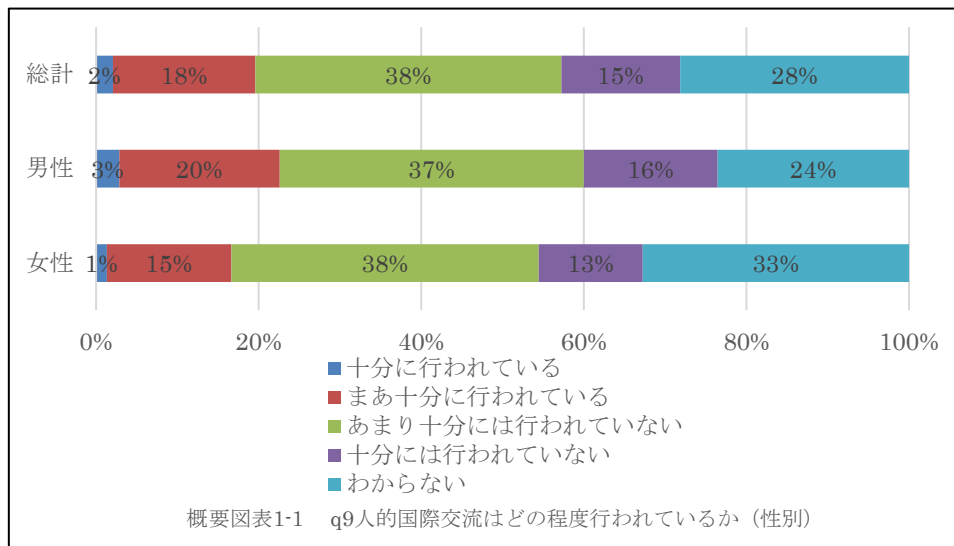
本稿の質問では q1 から q8 までは過去から継続した質問、q9 から q16 までを「国際文化交流に関する世論調査」<sup>[1]</sup>を参考に作成した。q17 から q22 は NISTEP 独自で検討した質問である。

## 1) 人的国際交流に関する国民の意識

### ① 人的国際交流が行われている程度

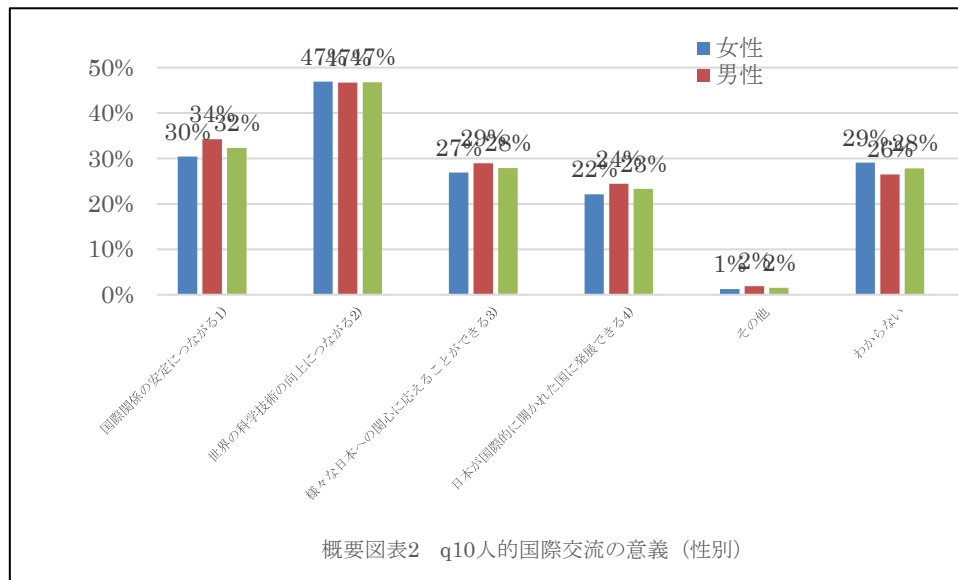
人的国際交流はどの程度行われているかについて伺ったところ、「性別」(概要図表 1-1)では男性((まあ)十分に行われている 23%)の方が女性((まあ)十分に行われている 16%)よりも高い。また、否定的な見解についても、男性((あまり)十分には行われていない 53%)の方が女性((あまり)十分には行われていない 51%)とほぼ同じである。わからない、については男性が 24%、女性が 33%該当している。こうしてみると比較的否定的な見解の方が強いように思われる。

一方、「年代別」(概要図表 1-2)では若い世代(29 歳以下)で「(まあ)十分に行われている」が高いことが判明した。



## ② 人的国際交流の意義

人的国際交流の意義について訊いたところ、こちらも「性別」(概要図表 2)に関係なく、男女ともに「お互いに刺激し合うことにより、より豊かな科学技術が創造され、世界の科学技術の向上につながる」(男女ともに47%)、「日本と諸外国との間の相互理解や信頼関係が深まり、国際関係の安定につながる」(男性34%、女性30%)などで高くなっている。

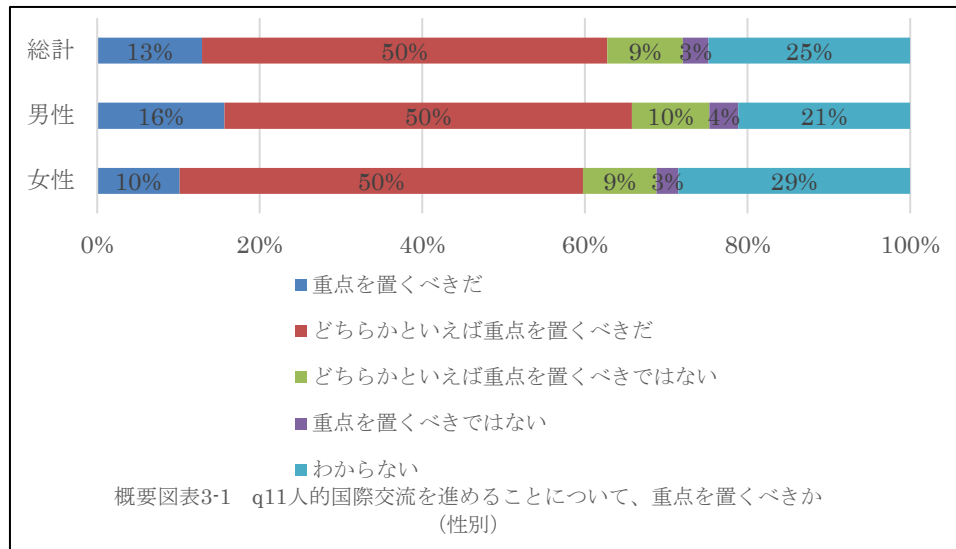


選択肢対応関係:

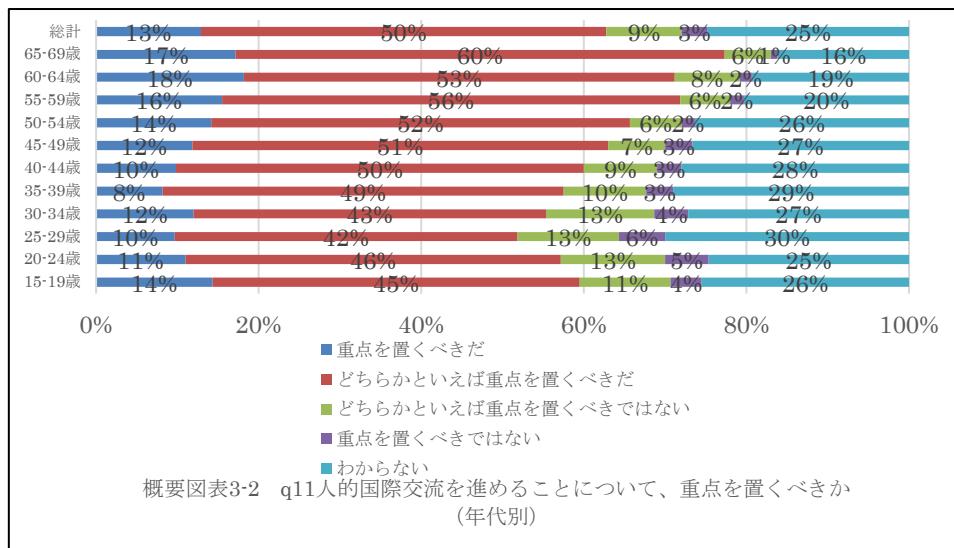
- 1)日本と諸外国との間の相互理解や信頼関係が深まり、国際関係の安定につながる
- 2)お互いに刺激し合うことにより、より豊かな科学技術が創造され、世界の科学技術の向上につながる
- 3)人的国際交流を通じて、日本の科学技術の状況を世界に発信でき、日本の国際地位の向上につながるとともに、世界各国で高まりつつある様々な日本への関心に応えることができる
- 4)日本の国際化が進み、日本が国際的に開かれた国に発展できる

## ③ 人的国際交流の重点的实施

人的国際交流を進めることについて、重点を置くべきかについて訊いたところ、「性別」(概要図表 3-1)では男性((どちらかといえば)重点を置くべきだ 66%)は女性((どちらかといえば)重点を置くべきだ 60%)と比べて大きい。

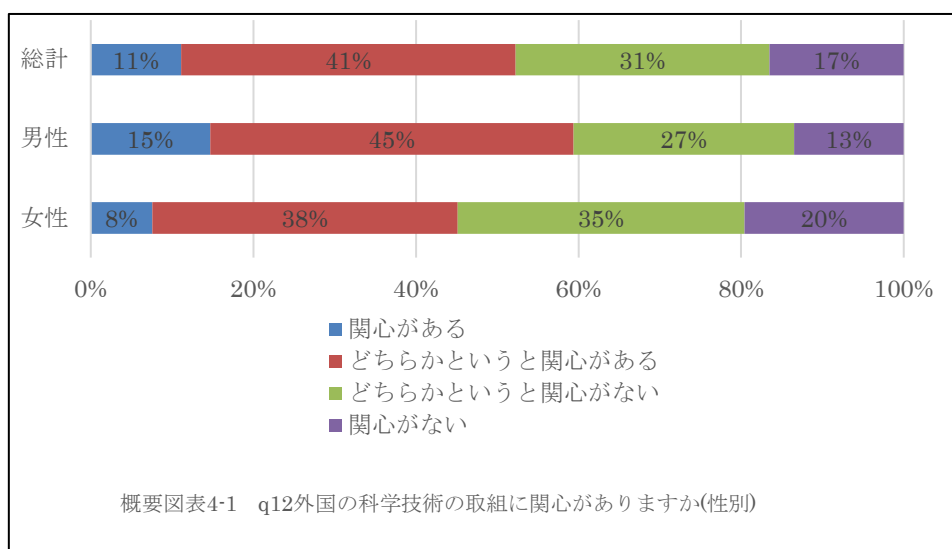


また、年代別に見ると(概要図表 3-2) 25 歳以上では年齢が高くなるにつれて、(どちらかといえば)重点を置くべきだ、の回答者の割合が高くなっているが、24 歳以下では逆に年齢が低い方が割合が高くなっている。

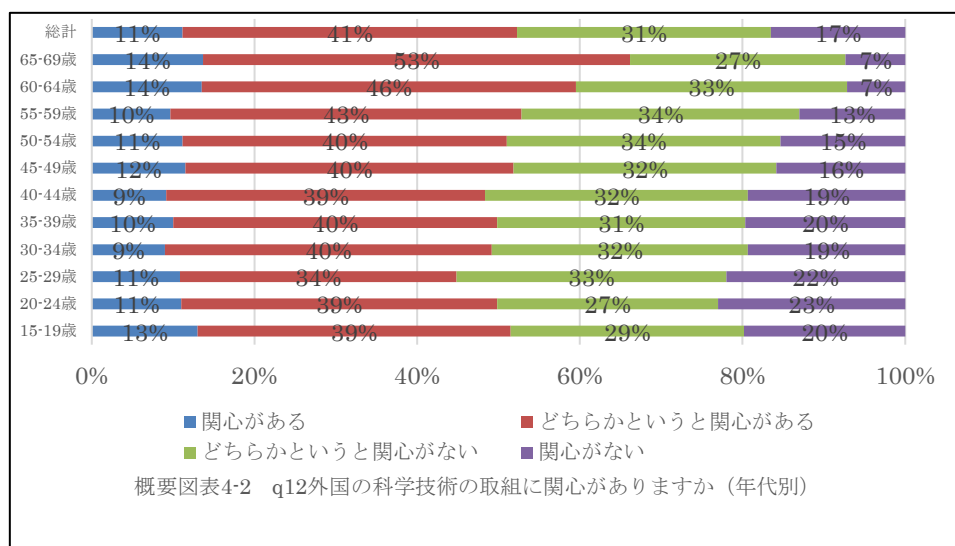


④ 外国の科学技術の取組への関心の有無

外国の科学技術の取組に関心がありますかについて訊いたところ(概要図表 4-1)、「性別」で見ると、男性((どちらかというと)関心がある 60%)は女性((どちらかというと)関心がある 46%)を上回っている。



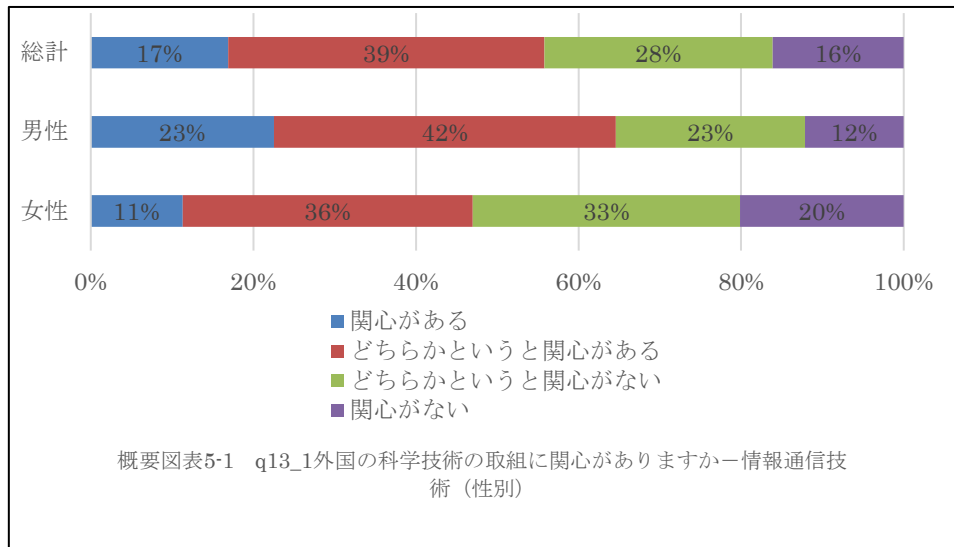
年代別で見ると(概要図表 4-2)、60歳以上は、他の世代よりも外国の科学技術に関心がある。



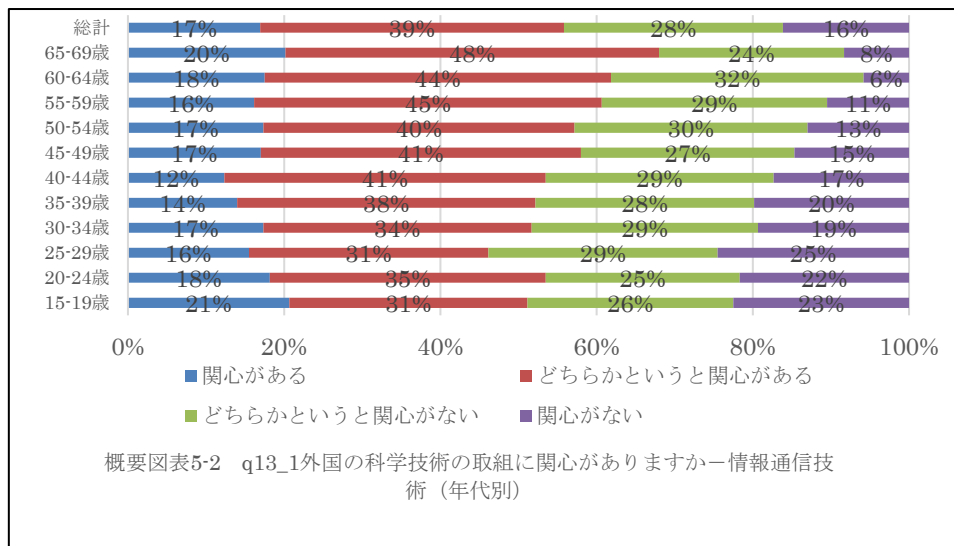
### ⑤個別分野の取組への関心の有無

外国の科学技術に対する取組について、国民の関心が高いと思われる個別分野(情報通信技術分野、生命科学分野(感染症対策を含む)、宇宙・海洋分野、気象・防災分野、エネルギー分野(原子力を含む))と当該国固有の科学技術に対する取組への関心の有無を伺ったところ、以下の結果を得た。

情報通信技術に関しては概要図表 5-1 となり、男性((どちらかというど) 関心がある 65%)は女性((どちらかというど) 関心がある 47%)を上回っている。

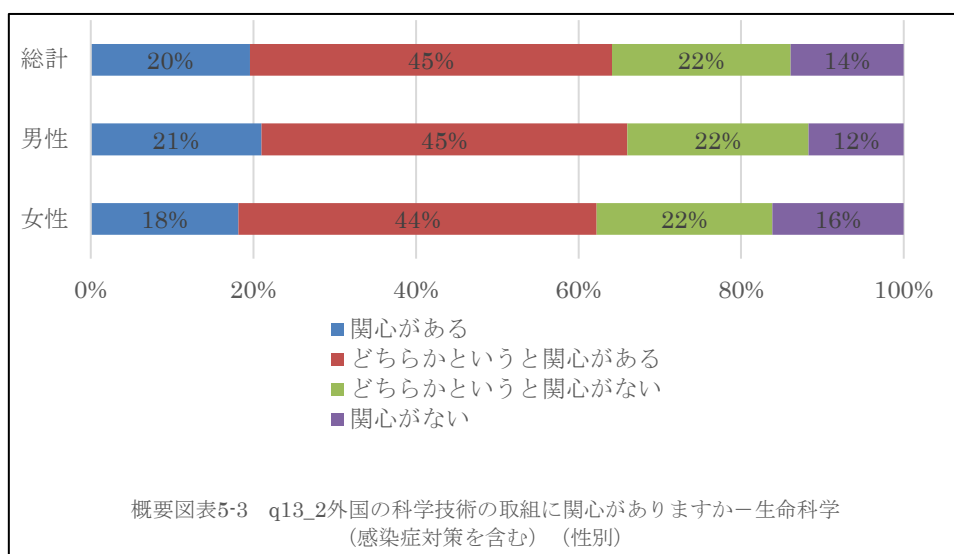


年代別で見ると(概要図表 5-2)、25 歳以上においては、概ね年代が上がるほど外国の情報通信技術に関心がある。

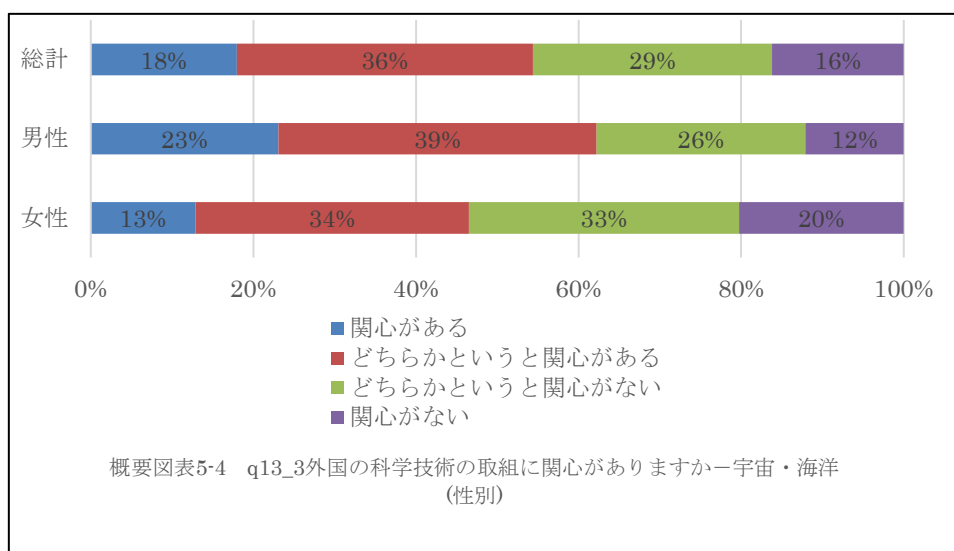


生命科学(感染症対策を含む)に関する性別では概要図表 5-3 となり、男性((どちらかという)興味がある 66%)は女性((どちらかという)興味がある 62%)を僅かに上回っている。

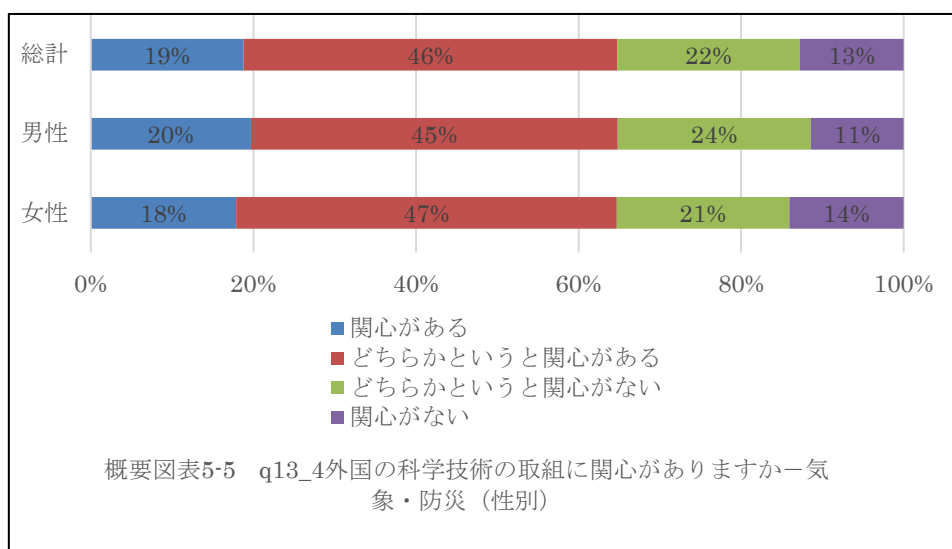




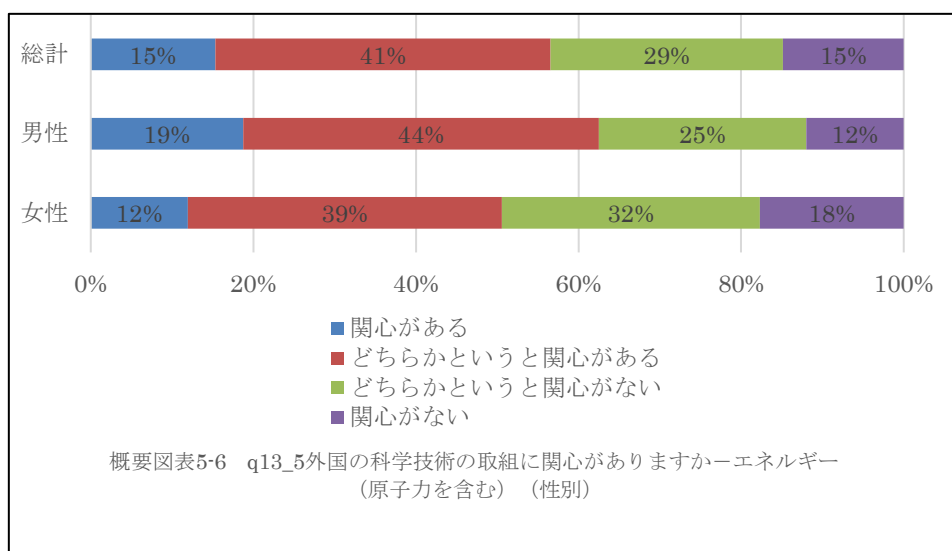
宇宙・海洋に関する性別では概要図表 5-4 となり、男性((どちらかという) 関心がある 62%)は女性((どちらかという) 関心がある 47%)を上回っている。



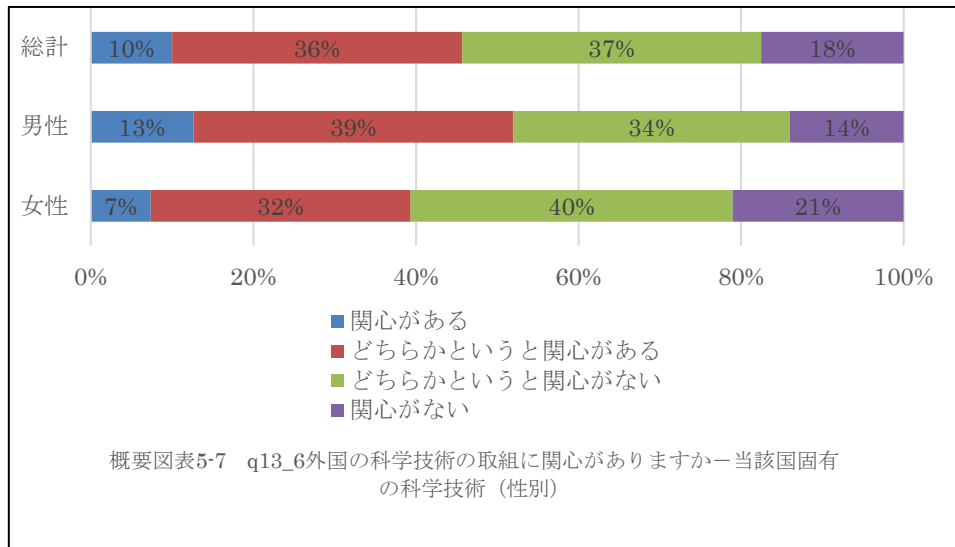
気象・防災に関する性別では概要図表 5-5 となり、男性((どちらかという) 関心がある 65%)は女性((どちらかという) 関心がある 65%)とほぼ変わらない。



エネルギー（原子力を含む）に関する性別では概要図表 5-6 となり、男性（（どちらかという）関心がある 63%）は女性（（どちらかという）関心がある 51%）より大きい。



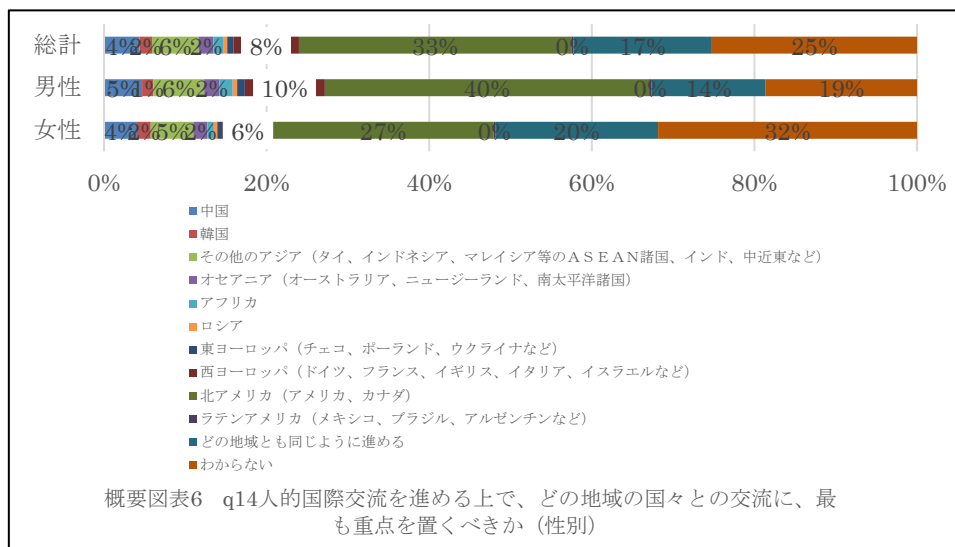
当該国固有の科学技術に関する性別では概要図表 5-7 となり、男性（（どちらかという）関心がある 52%）は女性（（どちらかという）関心がある 39%）より大きい。



また、分野間で比べて、女性の割合が相対的に高いのは、生命科学（感染症対策を含む）と気象・防災である。一方、男性の割合が高いのは、情報通信技術、宇宙・海洋、エネルギー（原子力を含む）、当該国固有の科学技術である。

#### ⑥ 人的国際交流を進める上で、最も重点を置くべき地域

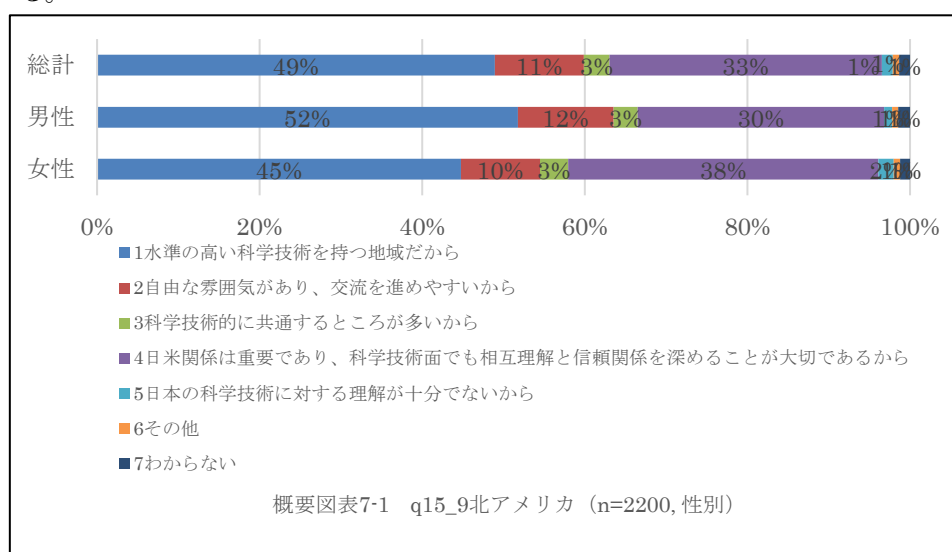
人的国際交流を進める上で、どの地域の国々との交流に、最も重点を置くべきかを訊いたところ、概要図表 6 となり、男性では北アメリカが 40%と最も高く、次いでわからない(19%)、どの地域とも同じように進める(14%)、西ヨーロッパ(10%)、その他のアジア(6%)、中国(5%)などとなる一方、女性ではわからない(32%)が最も高く、次いで北アメリカ(27%)、どの地域とも同じように進める(20%)、西ヨーロッパ(6%)、その他のアジア(5%)、中国(4%)などとなった。



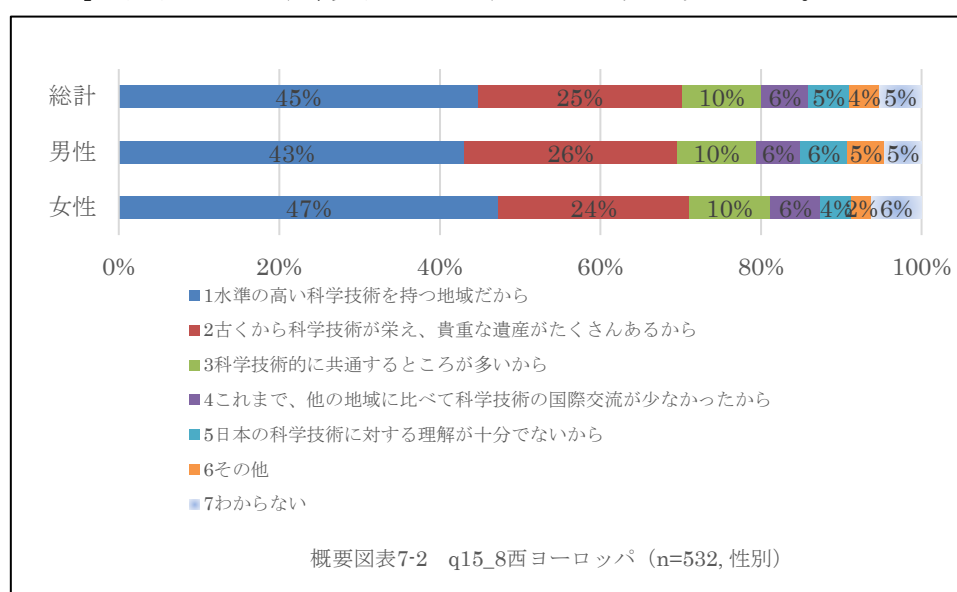
それぞれの地域を選択した理由について訊いた。なお、理由の選択肢は地域によって少し変え

た。中国・韓国・その他のアジアについては、「日本はアジアの一員であり、地理的にも近いから」や「歴史的なつながりが深いから」などを選択肢として入れた。一方、北アメリカについては「自由な雰囲気があり、交流を進めやすいから」や「日米関係は重要であり、科学技術面でも相互理解と信頼関係を深めることが大切であるから」などを選択肢として入れた。さらに西ヨーロッパについては、「古くから科学技術が栄え、貴重な遺産がたくさんあるから」などを選択肢として入れた。

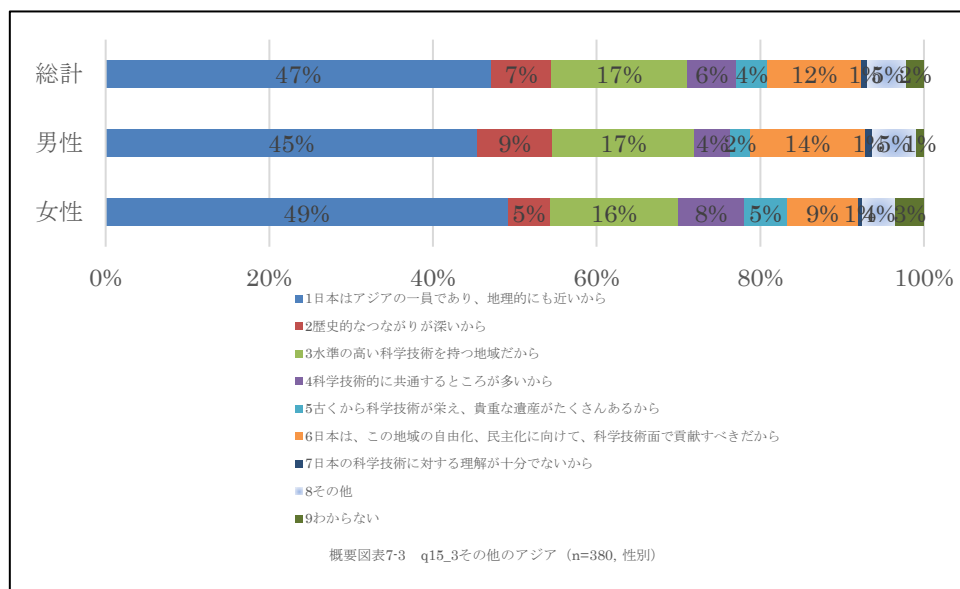
北アメリカの場合(概要図表 7-1)、「水準の高い科学技術を持つ地域だから」が男性では52%、女性では45%がそのように考えている。次いで、「日米関係は重要であり、科学技術面でも相互理解と信頼関係を深めることが大切であるから」が男性では30%、女性では38%がそのように考えている。



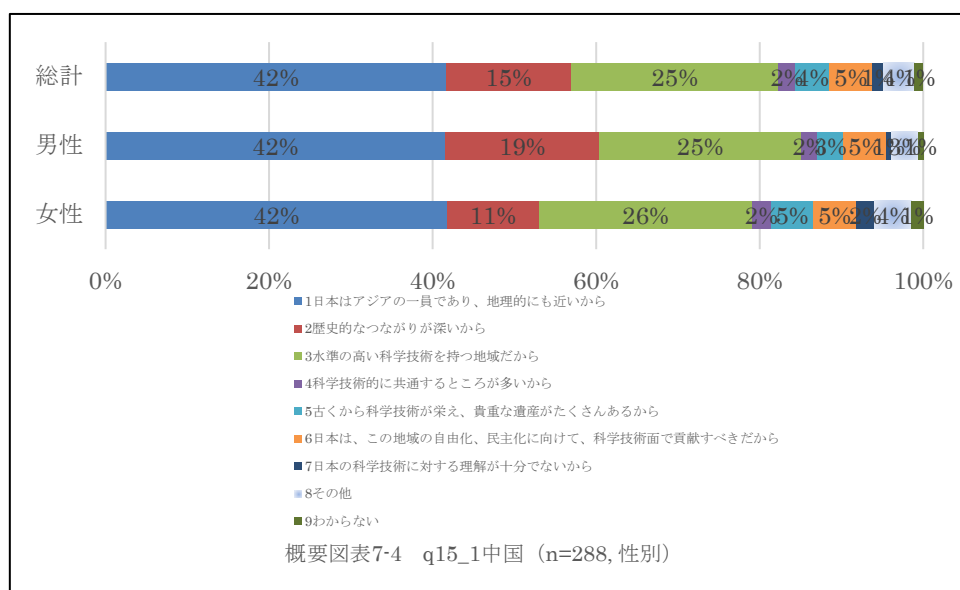
西ヨーロッパの場合(概要図表 7-2)、「水準の高い科学技術を持つ地域だから」が男性では43%、女性では47%がそのように考えている。次いで、「古くから科学技術が栄え、貴重な遺産がたくさんあるから」が男性では26%、女性では24%がそのように考えている。



その他のアジアの場合(概要図表 7-3)、「日本はアジアの一員であり、地理的にも近いから」は男性の45%、女性の49%がそのように考えている。「水準の高い科学技術を持つ地域だから」は男性では17%、女性では16%がそのように考えている。次いで、「日本は、この地域の自由化、民主化に向けて、科学技術面で貢献すべきだから」が男性では14%、女性では9%がそのように考えている。

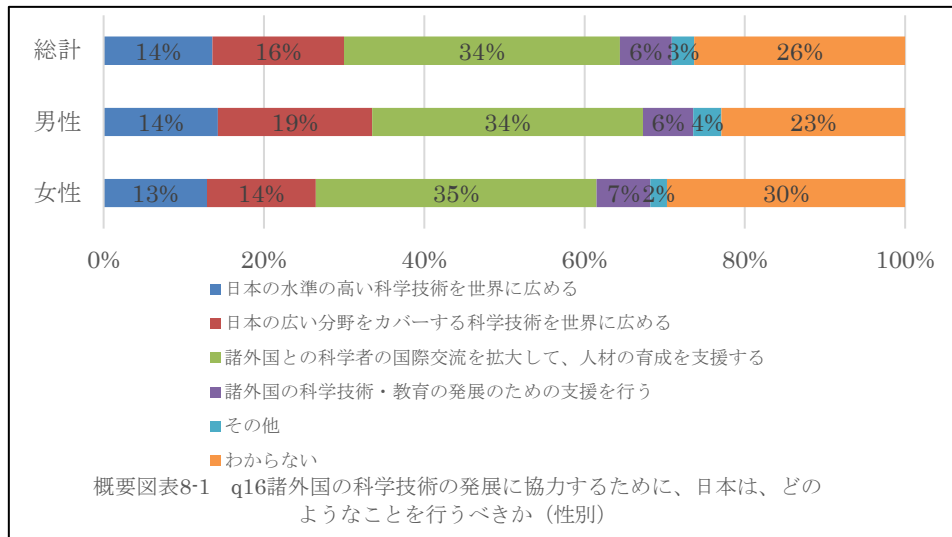


中国が概要図表 7-4 となり、中国と選んだ人の男女ともに42%が「日本はアジアの一員であり、地理的にも近いから」としている。次いで、男性の25%、女性の26%が「水準の高い科学技術を持つ地域だから」としている。

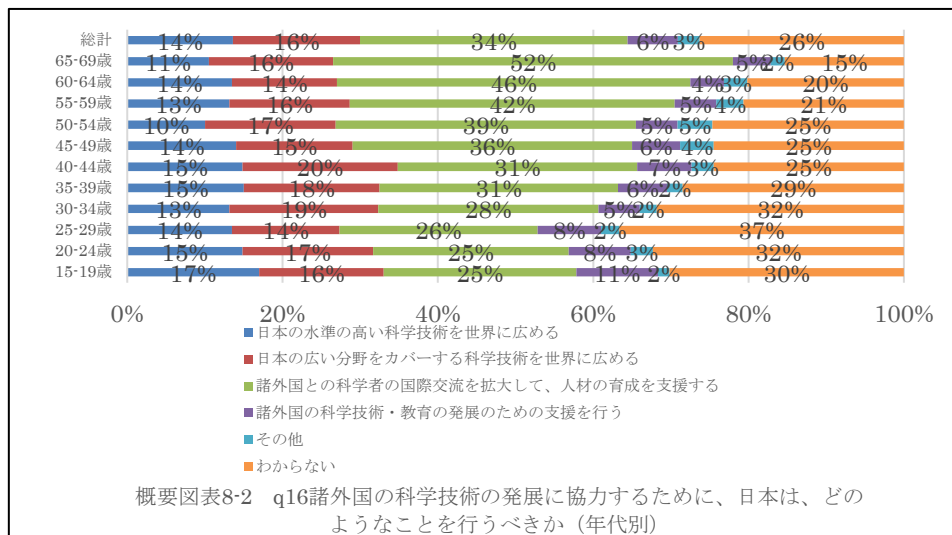


⑦ 諸外国の科学技術の発展に協力するために、日本が行うべきこと

次に諸外国の科学技術の発展に協力するために、日本は、どのようなことを行うべきかについて訊いたところ概要図表 8-1 となり、「諸外国との科学者の国際交流を拡大して、人材の育成を支援する」が男性では 34%、女性では 35%がそのように考えている。次いで、「わからない」が男性では 23%、女性では 30%がそのように考えている。更に、「日本の広い分野をカバーする科学技術を世界に広める」が男性では 19%、女性では 14%がそのように考えている。



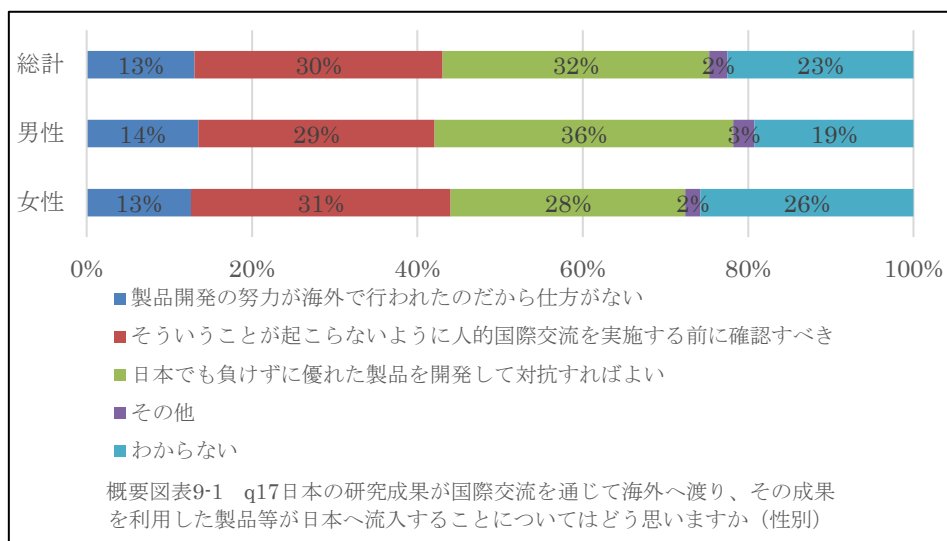
年代別に見ると概要図表 8-2 となり、年代が上がるにつれて、「諸外国との科学者の国際交流を拡大して、人材の育成を支援する」の割合が増加している。一方、「わからない」の割合が減少していく。



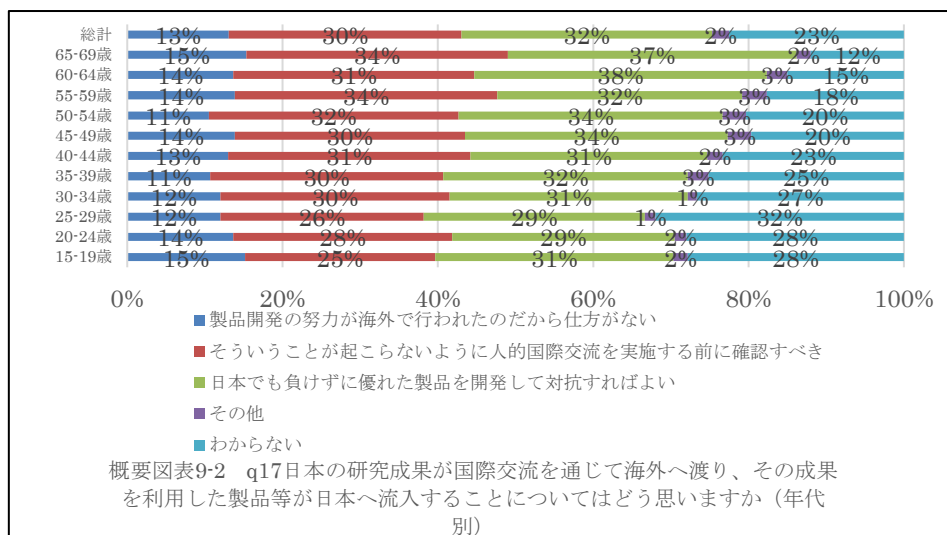
### ⑧ 日本の研究成果を利用した製品等の日本への流入

次に日本の研究成果を利用した製品等が日本へ流入することについてはどう思いますかを訊いたところ、概要図表 9-1 となり、「日本でも負けずに優れた製品を開発して対抗すればよい」が男性では 36%、女性では 28%がそのように考えている。次いで、「そういうことが起こらないように人的国際

交流を実施する前に確認すべき」が男性では 29%、女性では 31%がそのように考えている。

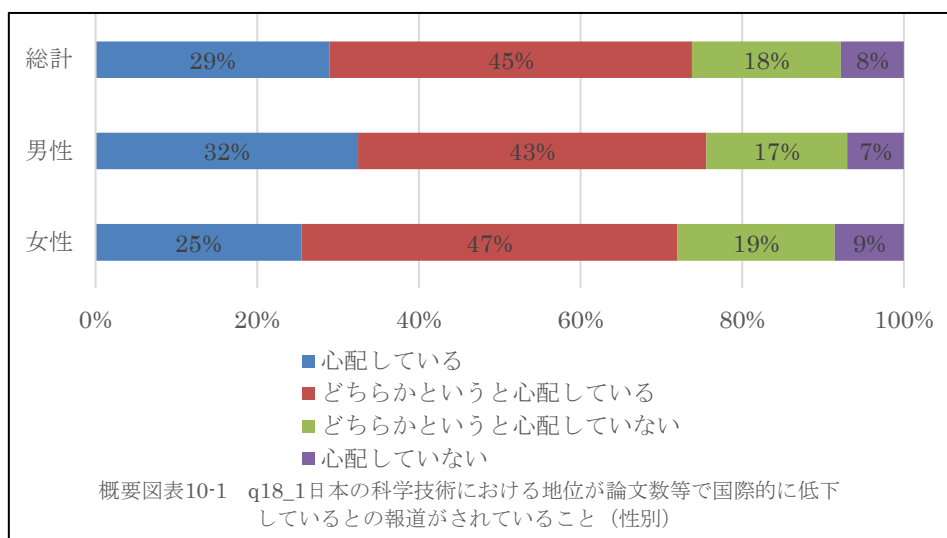


年代別に見ると(概要図表 9-2)、年代が上がるほど、「日本でも負けずに優れた製品を開発して対抗すればよい」の割合が僅かではあるが高くなっており、「わからない」が減少している。

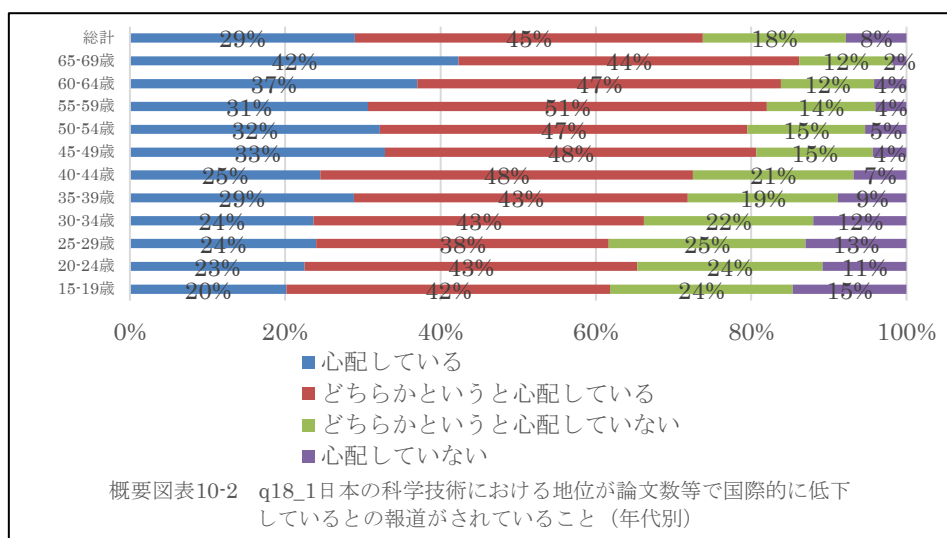


### ⑨ 論文数等における日本の科学技術における地位低下

次に日本の科学技術における地位が論文数等で国際的に低下しているとの報道がされていることについて訊いたところ、概要図表 10-1 となり、男性((どちらかというと)心配している 75%)は女性((どちらかというと)心配している 72%)よりも僅かに高いが、全体で7割を超える人が(どちらかというと)心配している。

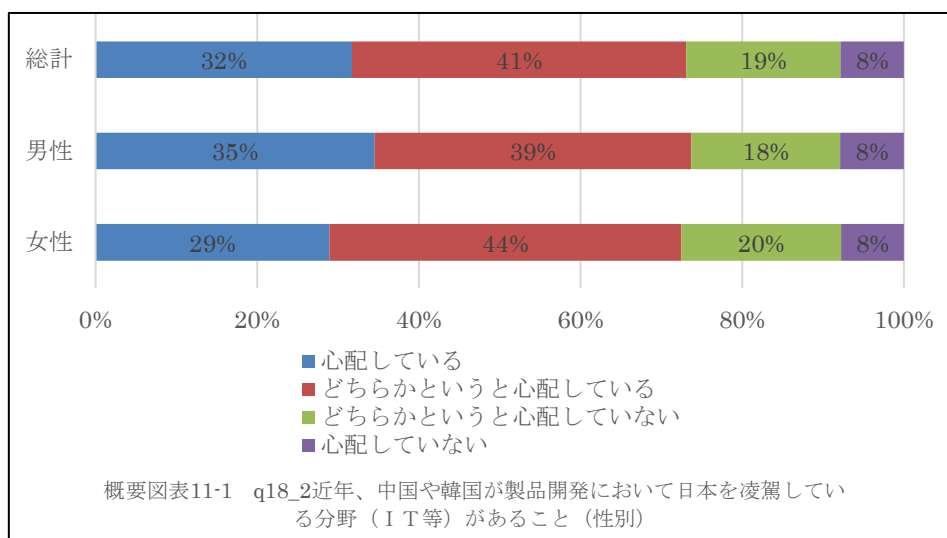


また年代別に見ると(概要図表 10-2)年代が上がるほど、心配している人の割合が高くなっていることが分かる。

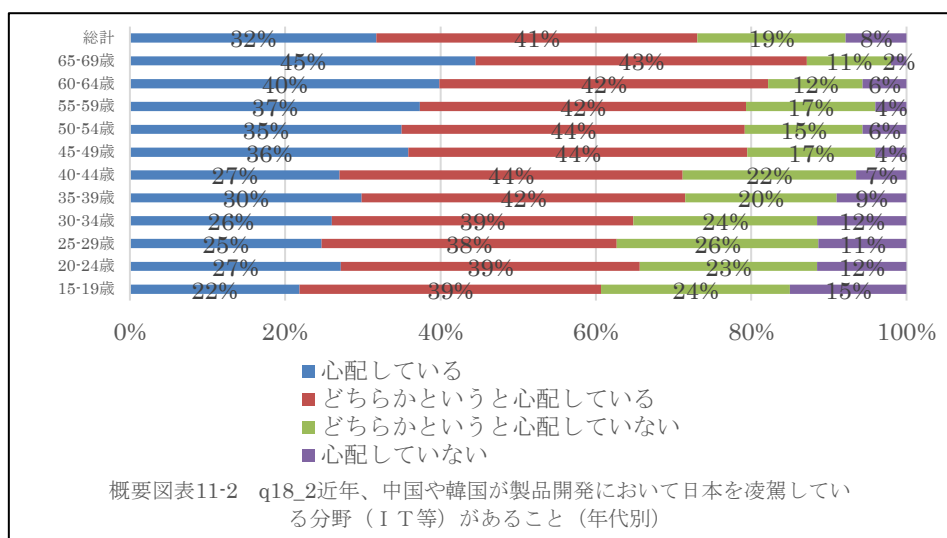


⑩ 中国や韓国が製品開発において日本を凌駕している分野(IT等)があること  
次に近年、中国や韓国が製品開発において日本を凌駕している分野(IT等)があることについて訊いたところ、概要図表 11-1 となり、男性((どちらかという)心配している 74%)は女性((どちらかという)心配している 73%)とほぼ同じであるが、全体で7割を超える人が(どちらかという)心配している。



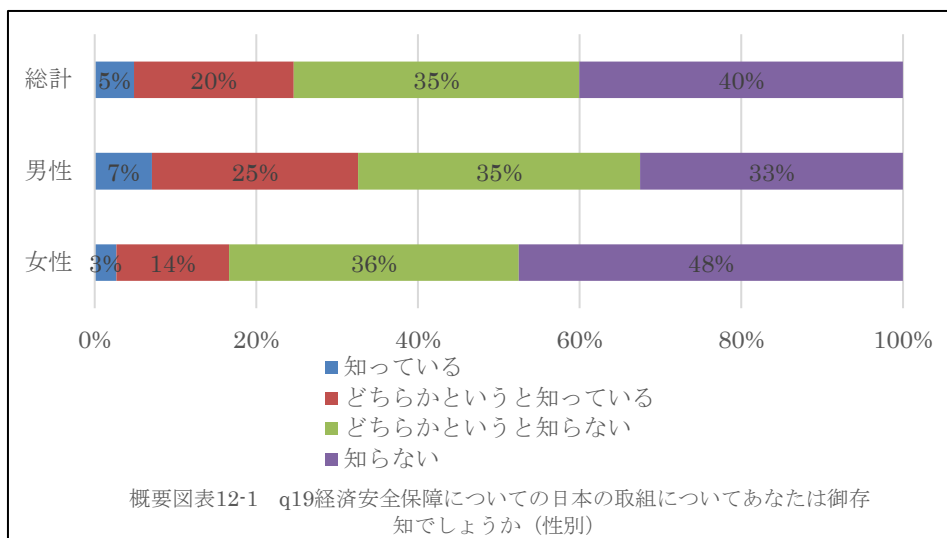


また年代別に見ると(概要図表 11-2)年代が上がるほど、心配している人の割合が高くなっていることが分かる。

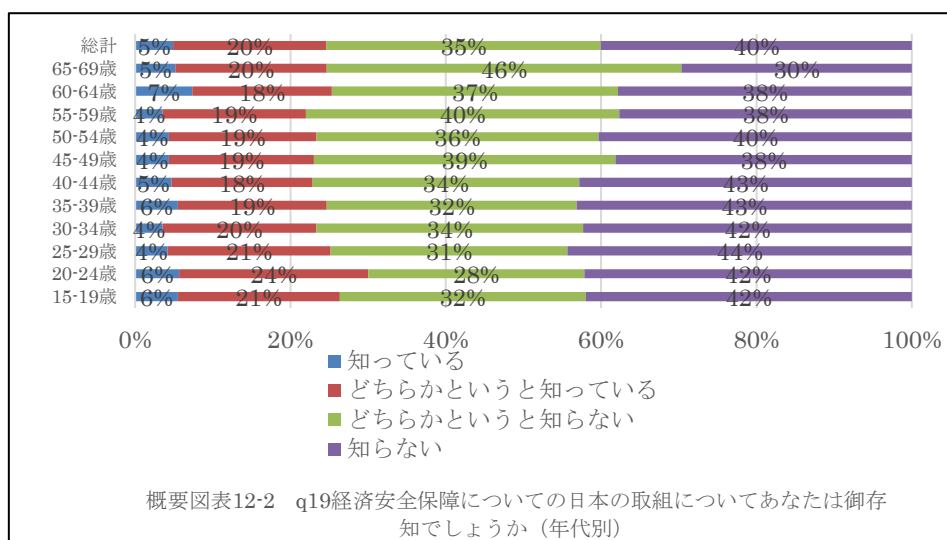


### ⑪ 経済安全保障についての日本の取組

次に経済安全保障についての日本の取組についてあなたは御存知でしょうかについて訊いたところ、概要図表 12-1 となり、全体では 75%の人が(どちらかという)知らない。男性((どちらかという)知っている 32%)は割合としては低いものの、女性((どちらかという)知っている 17%)よりかは高いことが分かる。

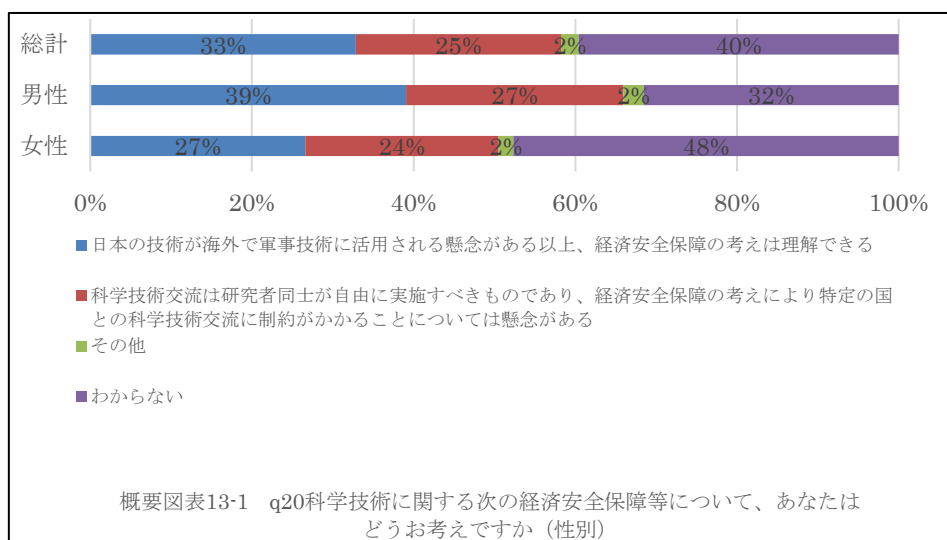


年代別に見ると概要図表 12-2 となり、世代間の差はあまり見られないことが分かる。

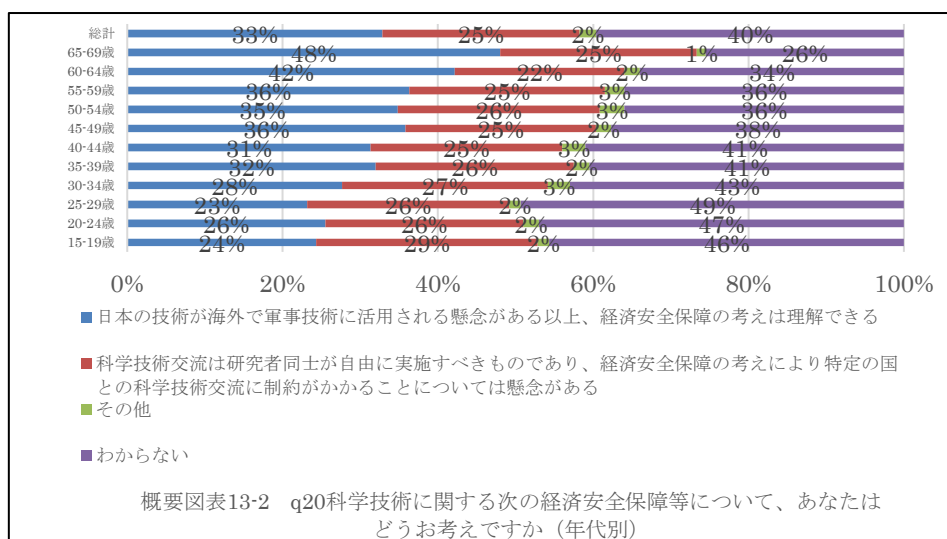


## ⑫ 科学技術に関する経済安全保障

次に、科学技術に関する次の経済安全保障等について、あなたはどうお考えですかを訊いたところ、概要図表 13-1 となり、「わからない」が最多を占める一方、「日本の技術が海外で軍事技術に活用される懸念がある以上、経済安全保障の考えは理解できる」が男性では 39%、女性では 27% がそのように考えている。「科学技術交流は研究者同士が自由に実施すべきものであり、経済安全保障の考えにより特定の国との科学技術交流に制約がかかることについては懸念がある」が男性では 27%、女性では 24% がそのように考えている。

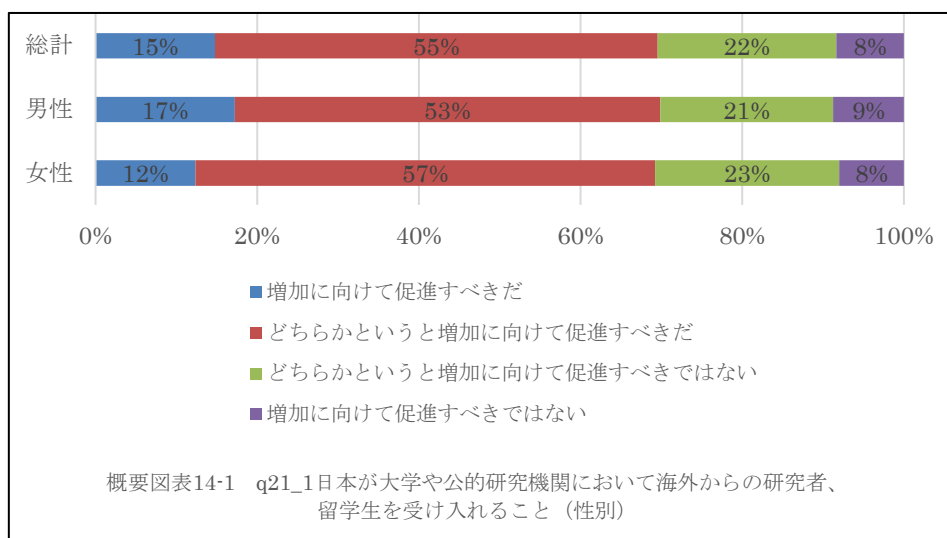


年代別に見ると概要図表 13-2 となり、年代が上がるにつれて、「日本の技術が海外で軍事技術に活用される懸念がある以上、経済安全保障の考えは理解できる」と回答する者の割合が高くなっていることが分かる。

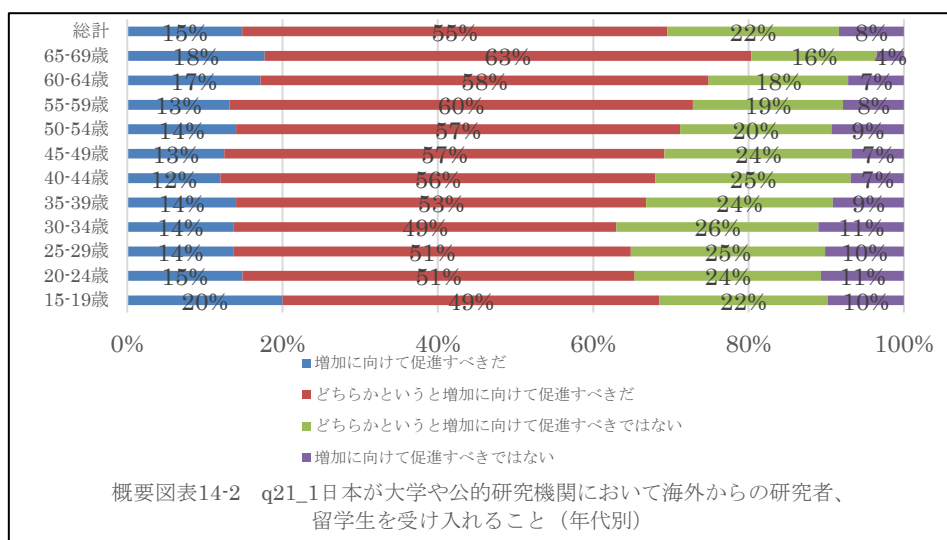


### ⑬ 海外からの研究者、留学生の受け入れ

次に、日本が大学や公的研究機関において海外からの研究者、留学生を受け入れることについて訊いたところ、概要図表 14-1 となり、男性（(どちらかという)増加に向けて促進すべきだ 70%）は女性（(どちらかという)増加に向けて促進すべきだ 69%）とほぼ変わらない。

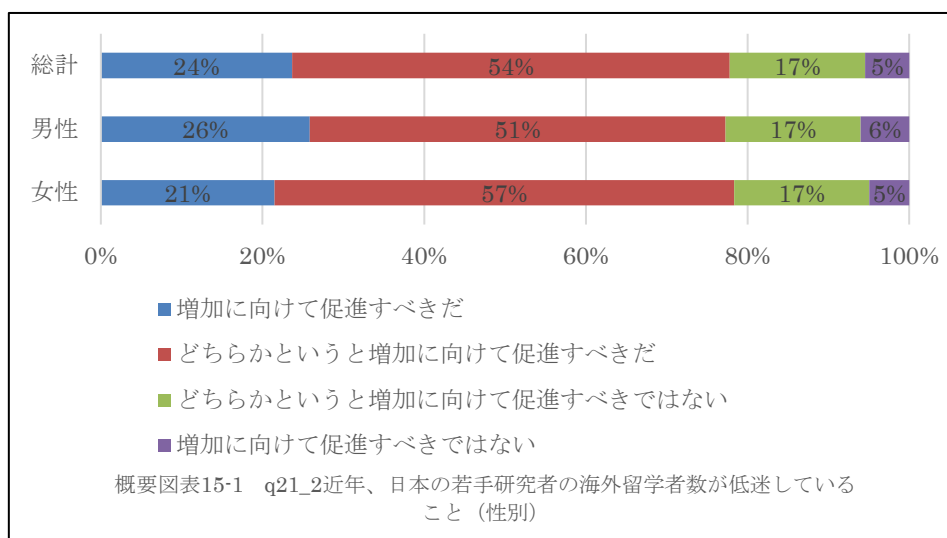


年代別に見ると、概要図表 14-2 となり、年代が上がるにつれて（どちらかという）増加に向けて促進すべきだという考えを持った人の割合が高くなっていることが分かる。

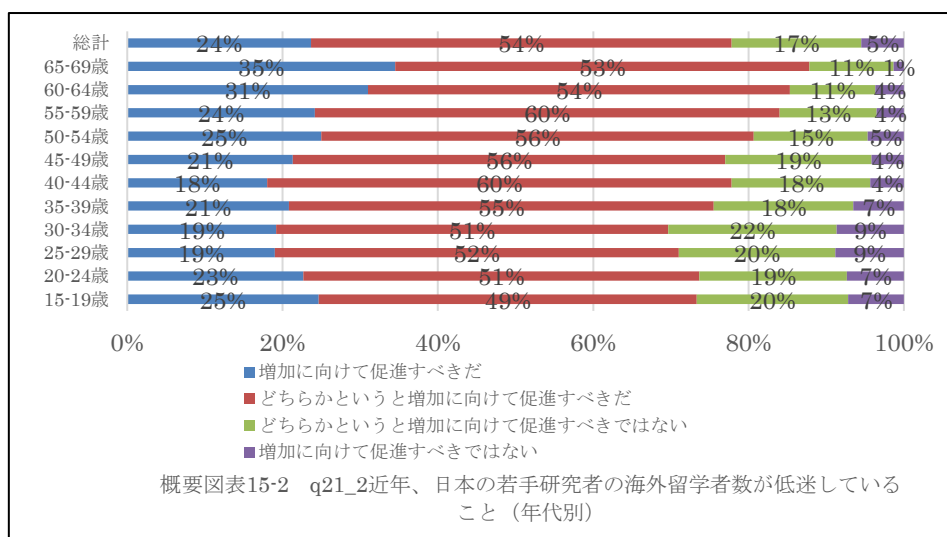


#### ⑭ 日本の若手研究者の海外留学者数の低迷

次に、近年、日本の若手研究者の海外留学者数が低迷していることについて訊いたところ、概要図表 15-1 となり、男性（（どちらかという）増加に向けて促進すべきだ 77%）は女性（（どちらかという）増加に向けて促進すべきだ 78%）とほぼ変わらない。

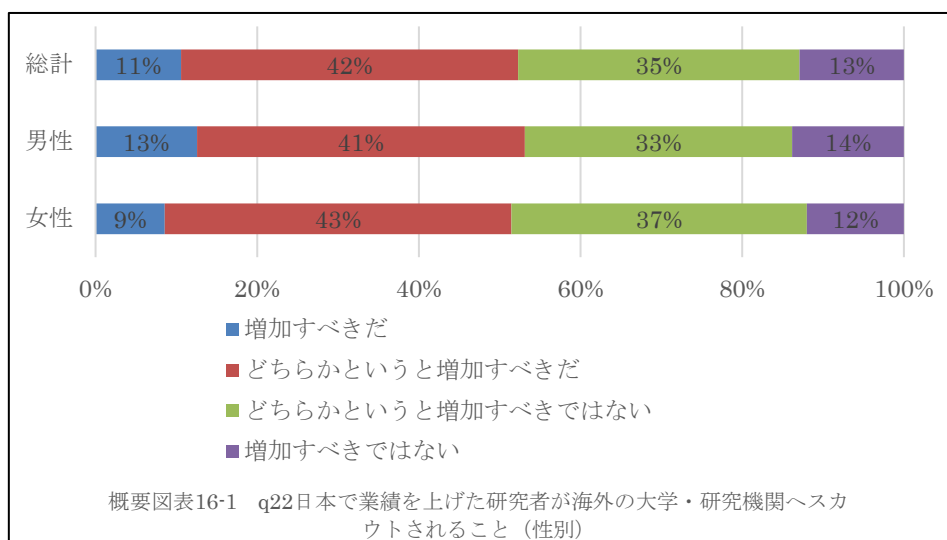


年代別に見ると、概要図表 15-2 となり、年代が上がるにつれて（どちらかという）増加に向けて促進すべきだという考えを持った人の割合が高くなっていることが分かる。

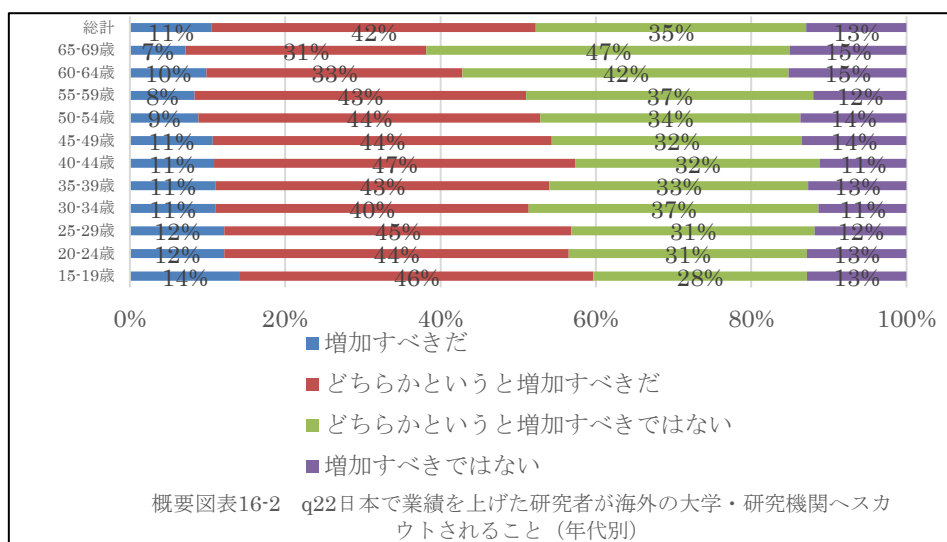


### ⑮ 海外の大学・研究機関へのスカウト

日本で業績を上げた研究者が海外の大学・研究機関へスカウトされることについて訊いたところ、概要図表 16-1 となり、男性（（どちらかという）増加すべきだ 54%）は女性（（どちらかという）増加すべきだ 52%）とほぼ変わらない。



年代別に見ると概要図表 16-2 となり、年代が上がるにつれて、(どちらかという)増加すべきだと回答する人の割合が低くなっていることが分かる。



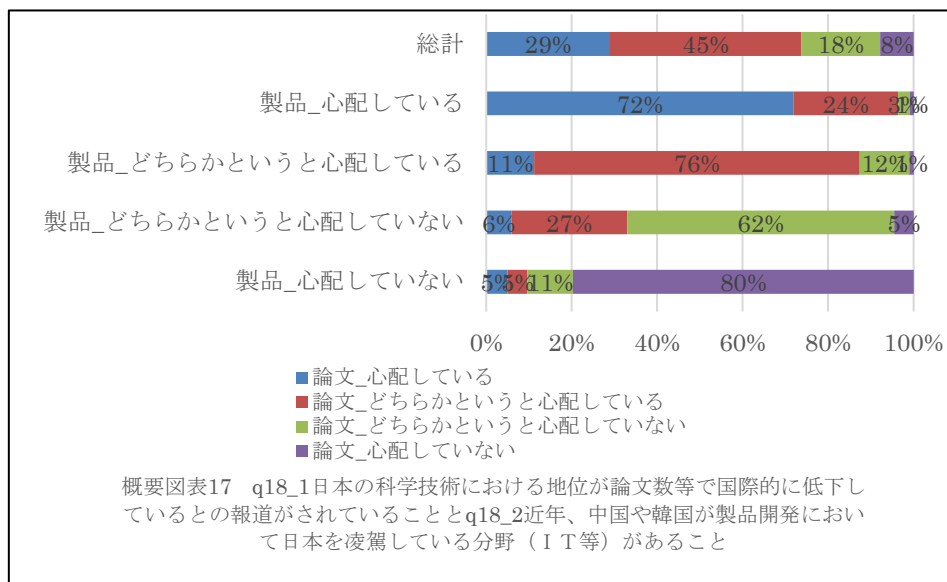
## 2)人的国際交流の科学技術政策に関する国民の意識に関するクロス分析

本調査では、クロス表の分析を行っており、本概要では、ガンマ値が大きいもの等3つのクロス表を紹介する。

以下の①②では、行列ともに順序尺度である場合、グッドマンとクラスカルのガンマ(以下、ガンマという)を行列の相関の強さの指標として導入する。ガンマは-1 から 1 までの値を得られることができ、値が大きいほど強い正の相関がある。一方、③では統計学的な順序性がない尺度を使っているためガンマは計算できない。

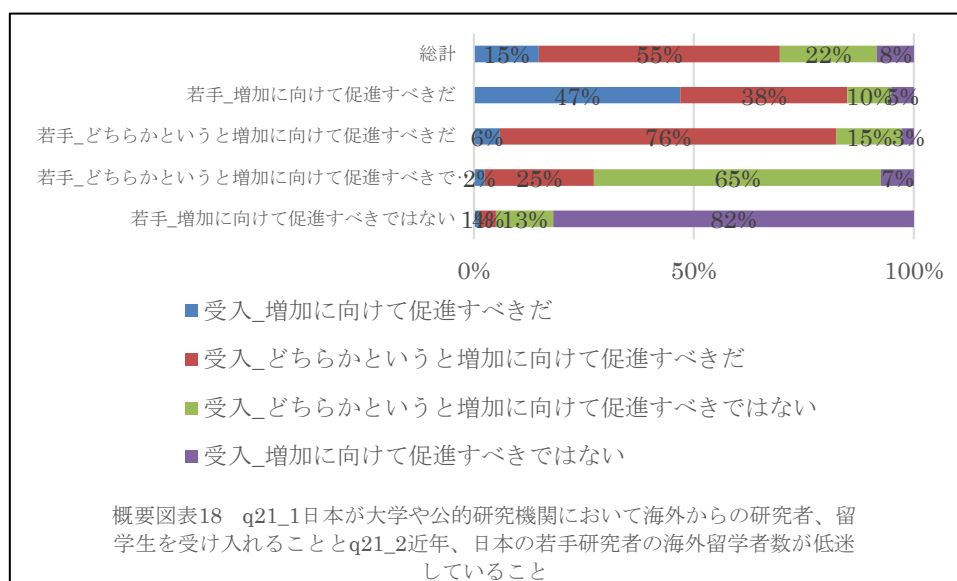
- ① q18\_1 日本の科学技術における地位が論文数等で国際的に低下しているとの報道がされていること(論文)×q18\_2 近年、中国や韓国が製品開発において日本を凌駕している分野(IT等)があること(製品)

q18\_1 日本の科学技術における地位が論文数等で国際的に低下しているとの報道がされていることと q18\_2 近年、中国や韓国が製品開発において日本を凌駕している分野 (IT等) があることを調べると概要図表 17 となり、ガンマは 0.849 と極めて高い。論文数の国際的な低下への心配と日本を凌駕している分野 (IT等) があることへの心配に強い正の相関があることが分かった。逆に両方ともに心配していないとする意見も強くなっていることが分かる。



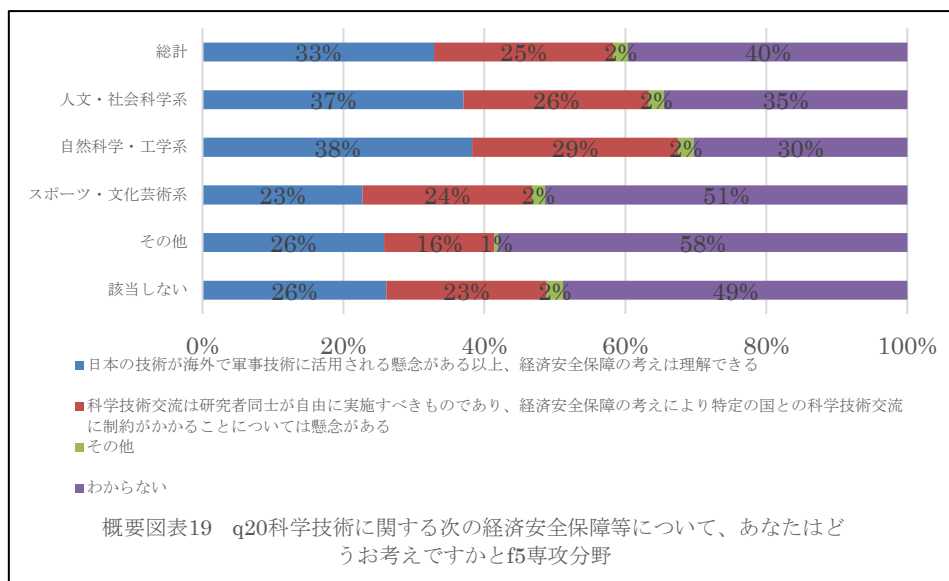
② q21\_1 日本が大学や公的研究機関において海外からの研究者、留学生を受け入れること× q21\_2 近年、日本の若手研究者の海外留学者数が低迷していること

q21\_1 日本が大学や公的研究機関において海外からの研究者、留学生を受け入れることと q21\_2 近年、日本の若手研究者の海外留学者数が低迷していることについて調べたところ、概要図表 18 となり、ガンマは 0.720 と高い。よって、海外からの研究者、留学生の受け入れ数と日本の若手研究者の海外留学者数を双方とも増加すべきとの意見は①ほど強力ではないが強い。逆に両方ともに増加すべきではないとする意見も強くなっていることが分かる。



③ q20 科学技術に関する次の経済安全保障等について、あなたはどうお考えですか×f5 専攻分野

平均すると理工系出身の方が経済安全保障の考えは理解できるのではないかという仮説を立てた。q20 科学技術に関する次の経済安全保障等について、あなたはどうお考えですかと f5 専攻分野について示したのが概要図表 19 である。確かに「経済安全保障の考えは理解できる」割合が最も高いのは「自然科学・工学系」となっており、38%である。次いで、「人文・社会科学系」でも37%は「経済安全保障の考えは理解できる」としており、両者の差は小さい。



(4) おわりに

本調査の実施に際し、多大な御協力を頂いた皆様をはじめとする関係者の方々に心から感謝申し上げます。

(5) 参考文献

[1] 「国際文化交流に関する世論調査」(平成5年2月27日～平成5年3月9日)、内閣府



本文



## 1. はじめに

科学技術・学術政策研究所(以下 NISTEP)では、科学技術に関する国民意識データを収集し、科学技術イノベーション政策の立案・推進に資することを目的として、2009 年度から、「科学技術に関する国民意識調査」を実施している。

本 2022 年度調査(2022 年 10 月調査)は、15 歳から 69 歳までの男女合計 6,600 人にインターネットを使って調査したものである。

## 2. 調査の概要

本調査は、科学技術イノベーション政策の立案・推進に資する基礎データの提供を目的として、2009 年度以来、NISTEP が科学技術に関する国民意識を把握するために継続的に実施している。

### (1) 調査対象

インターネット調査会社にモニター回答者として登録している者である。

### (2) 調査期間及び調査方法

2022 年 10 月にインターネットによって実施した。

サンプル数は N=6,600 で、回答者年齢は 15-69 歳、サンプリングの層化として、男女同数(男性 3,300 名、女性 3,300 名)、15-19 歳、20-24 歳、25-29 歳…60-64 歳、65-69 歳で同数(11 の年齢層、1 年齢層当たり 600 名)とした。

### (3) 調査時点

2022 年 10 月 14 日から 10 月 26 日にかけて実施した。

### (4) 調査項目

今般の調査では特に人的国際交流に対する重要度を把握することが目的である。

## 3. 調査結果

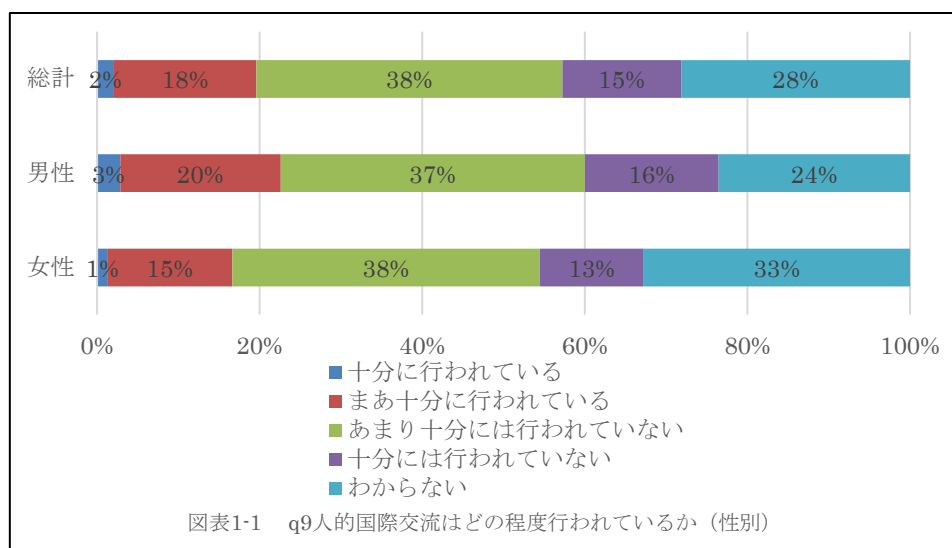
調査結果のうち、人的国際交流に関する国民の意識について示すとともに、人的国際交流以外の科学技術政策に関する意識についても紹介する。

本稿の質問では q1 から q8 までは過去から継続した質問、q9 から q16 までは「国際文化交流に関する世論調査」<sup>[1]</sup>を参考に作成した。q17 から q22 は NISTEP 独自で検討した質問である。

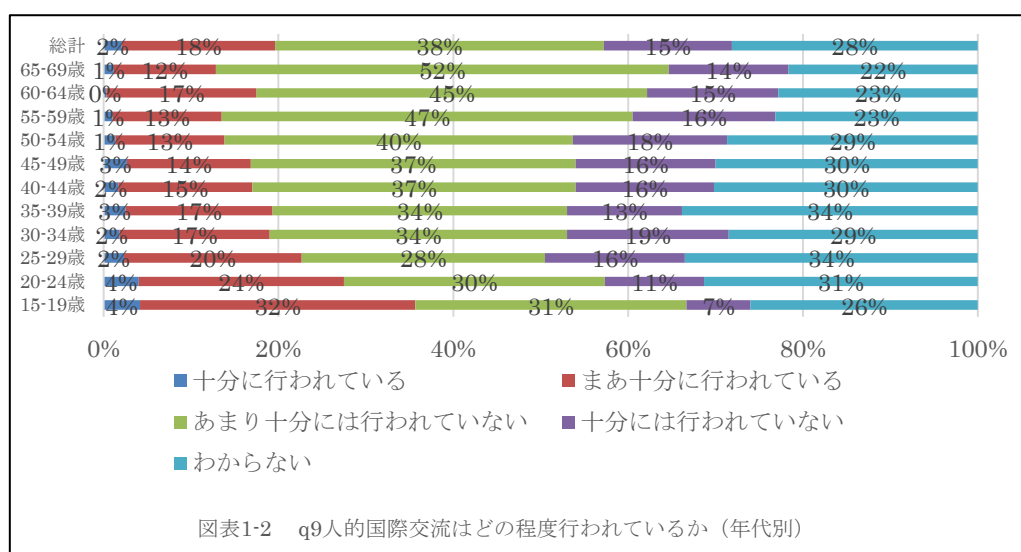
## (1) 人的国際交流に関する国民の意識

### ① 人的国際交流が行われている程度

人的国際交流はどの程度行われているかについて伺ったところ、「性別」(図表 1-1)では男性((まあ)十分に行われている 23%)の方が女性((まあ)十分に行われている 16%)よりも高い。また、否定的な見解についても、男性((あまり)十分には行われていない 53%)の方が女性((あまり)十分には行われていない 51%)とほぼ同じである。わからない、については男性が 24%、女性が 33%該当している。こうしてみると比較的否定的な見解の方が強いように思われる。一方、「年代別」(図表 1-2)では若い世代(29 歳以下)で「(まあ)十分に行われている」が高いことが判明した。



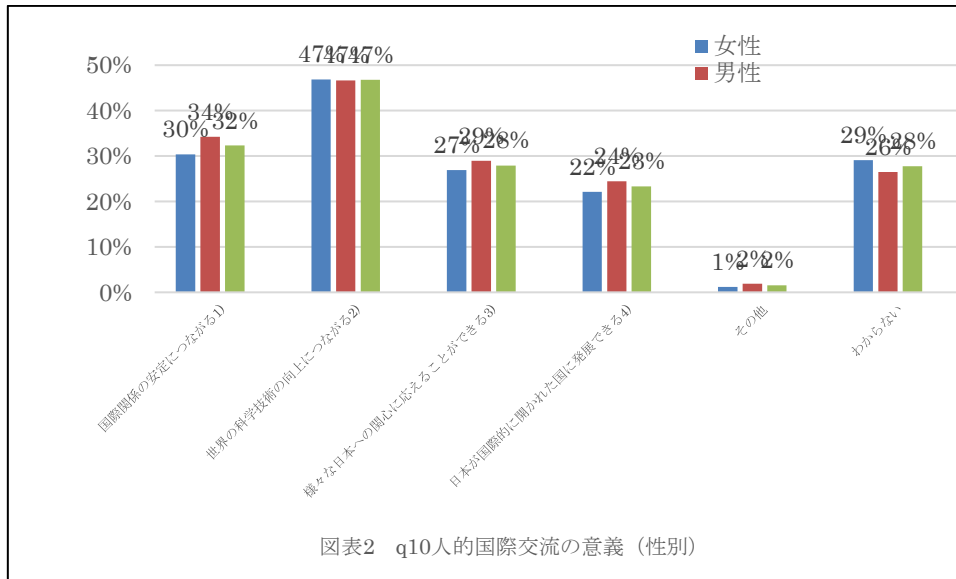
図表 1-1 q9人的国際交流はどの程度行われているか (性別)



図表 1-2 q9人的国際交流はどの程度行われているか (年代別)

## ② 人的国際交流の意義

人的国際交流の意義について訊いたところ、こちらも「性別」(図表 2)に関係なく、男女ともお互いに刺激し合うことにより、より豊かな科学技術が創造され、世界の科学技術の向上につながる(男女ともに 47%)、日本と諸外国との間の相互理解や信頼関係が深まり、国際関係の安定につながる(男性 34%、女性 30%)などで高くなっている。

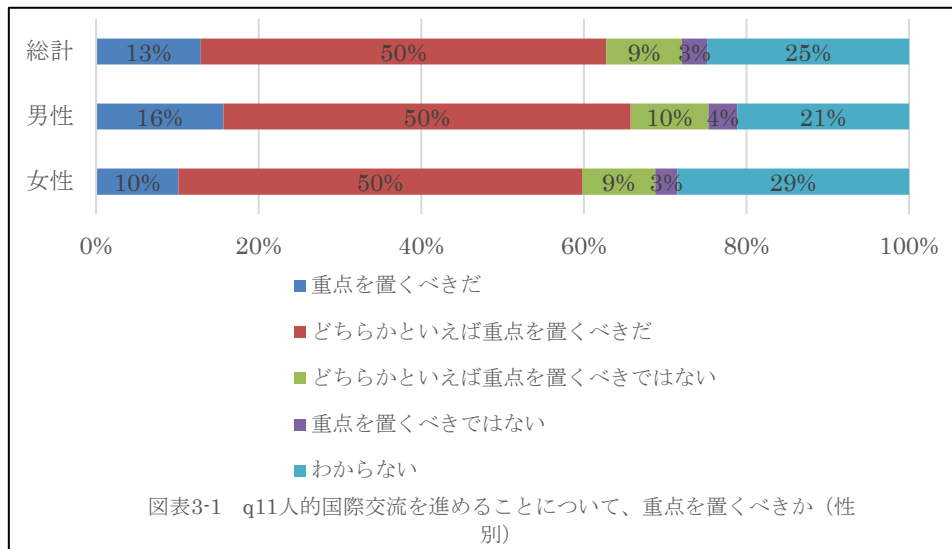


選択肢対応関係:

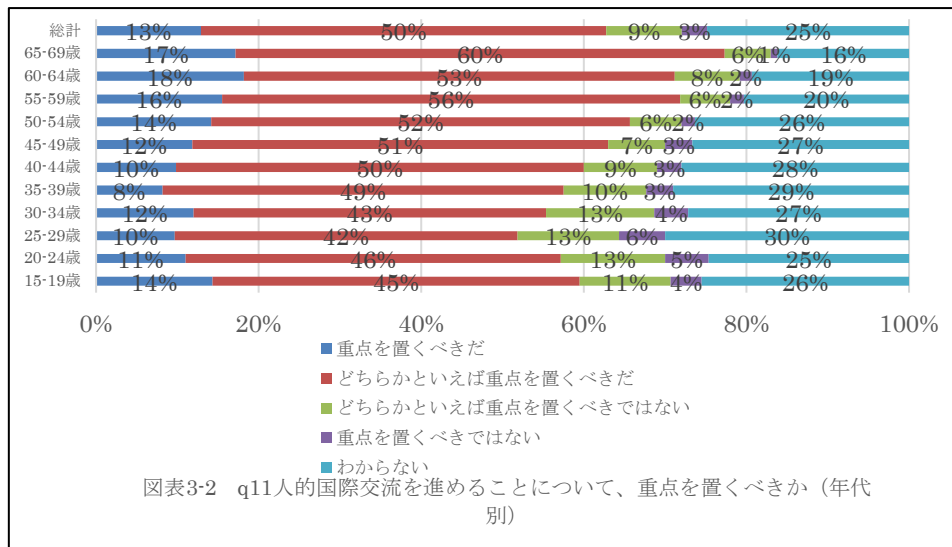
- 1)日本と諸外国との間の相互理解や信頼関係が深まり、国際関係の安定につながる
- 2)お互いに刺激し合うことにより、より豊かな科学技術が創造され、世界の科学技術の向上につながる
- 3)人的国際交流を通じて、日本の科学技術の状況を世界に発信でき、日本の国際地位の向上につながるとともに、世界各国で高まりつつある様々な日本への関心に応えることができる
- 4)日本の国際化が進み、日本が国際的に開かれた国に発展できる

## ③ 人的国際交流の重点的实施

人的国際交流を進めることについて、重点を置くべきかについて訊いたところ、「性別」(図表 3-1)では男性((どちらかといえば)重点を置くべきだ 66%)は女性((どちらかといえば)重点を置くべきだ 60%)と比べて大きい。

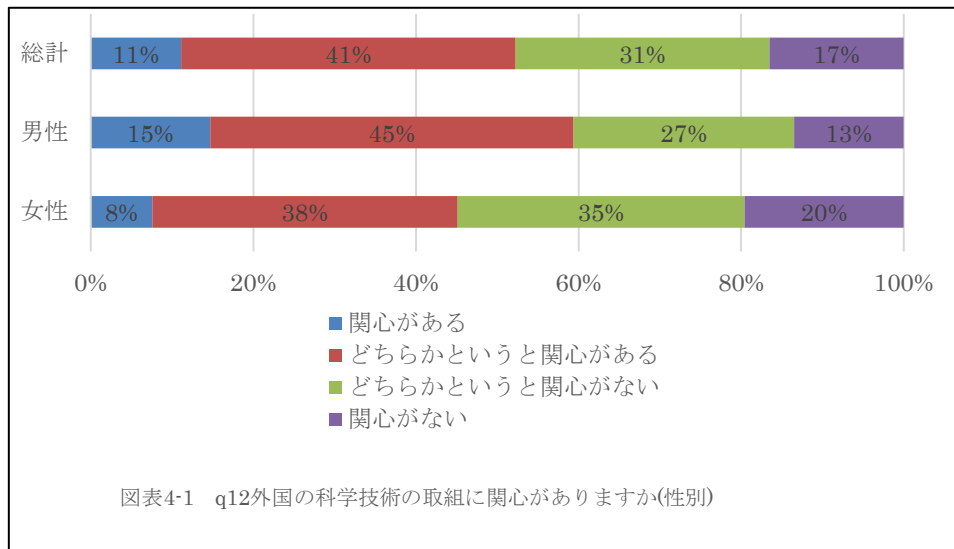


また、年代別に見ると(図表 3-2)25 歳以上では年齢が高くなるにつれて、(どちらかといえば)重点を置くべきだ、の回答者の割合が高くなっているが、24 歳以下では逆に年齢が低い方が割合が高くなっている。

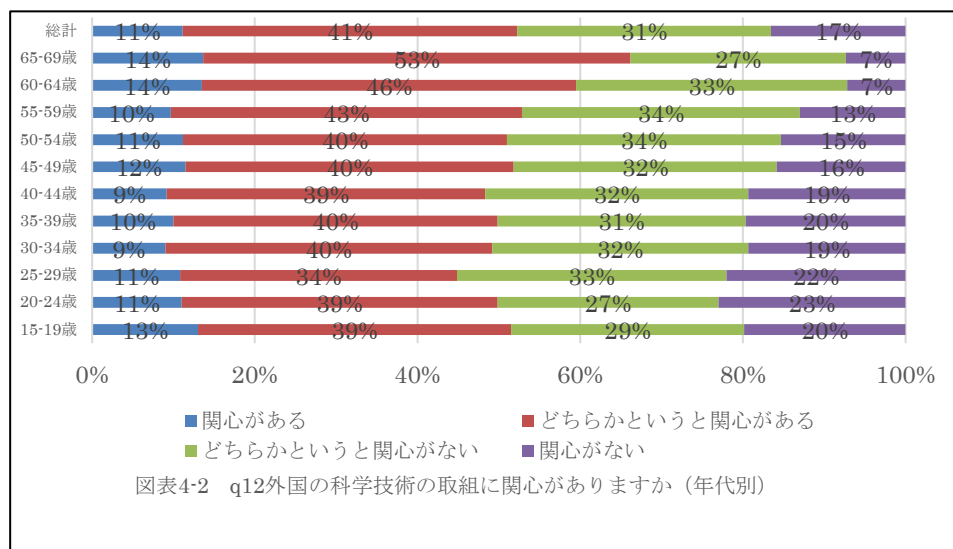


④ 外国の科学技術の取組への関心の有無

外国の科学技術の取組に関心がありますかについて訊いたところ、「性別」で見ると、図表 4-1 となり、男性((どちらかという)と)関心がある 60%)は女性((どちらかという)と)関心がある 46%)を上回っている。



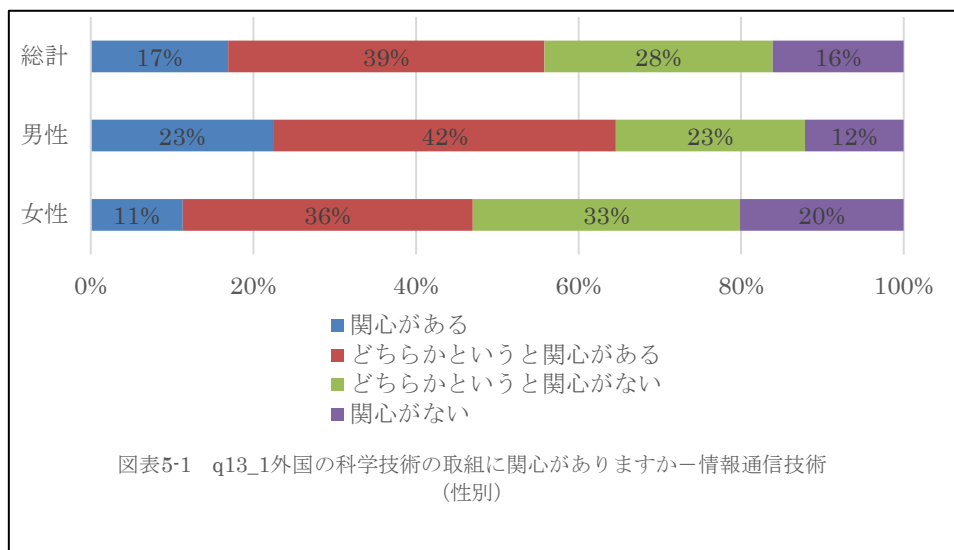
年代別で見ると(図表 4-2)、60 歳以上は、他の年代よりも外国の科学技術に関心がある。



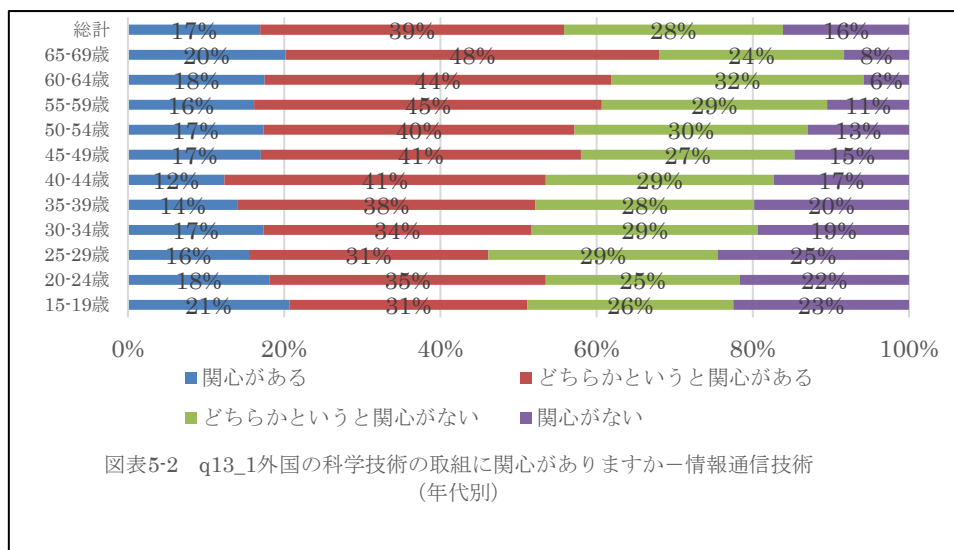
#### ⑤個別分野の取組への関心の有無

外国の科学技術に対する取組について、国民の関心が高いと思われる個別分野(情報通信技術分野、生命科学分野(感染症対策を含む)、宇宙・海洋分野、気象・防災分野、エネルギー分野(原子力を含む))と当該国固有の科学技術に対する取組への関心の有無を伺ったところ、以下の結果を得た。

情報通信技術に関しては図表 5-1 となり、男性((どちらかという)関心がある 65%)は女性((どちらかという)関心がある 47%)を上回っている。

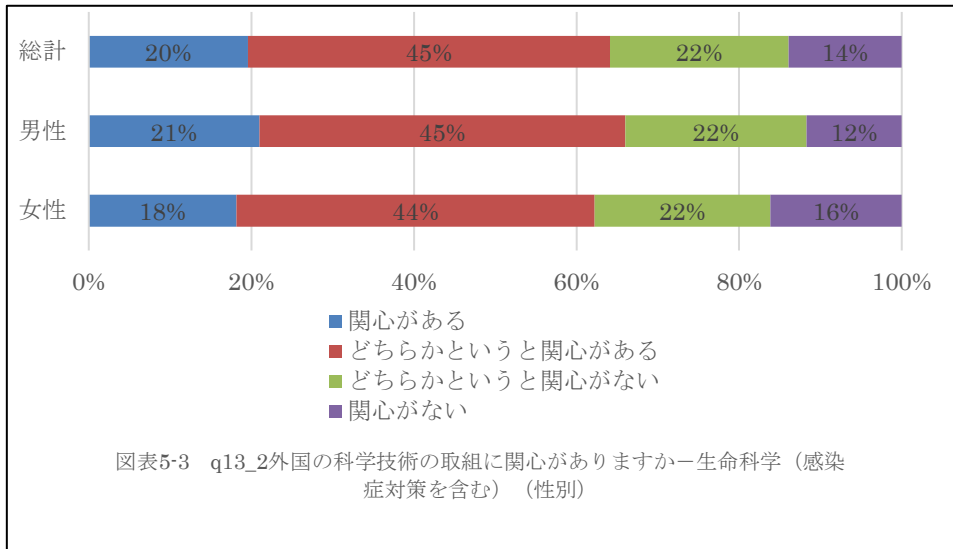


年代別で見ると(図表 5-2)、25 歳以上においては、概ね年代が上がるほど外国の情報通信技術に関心がある。

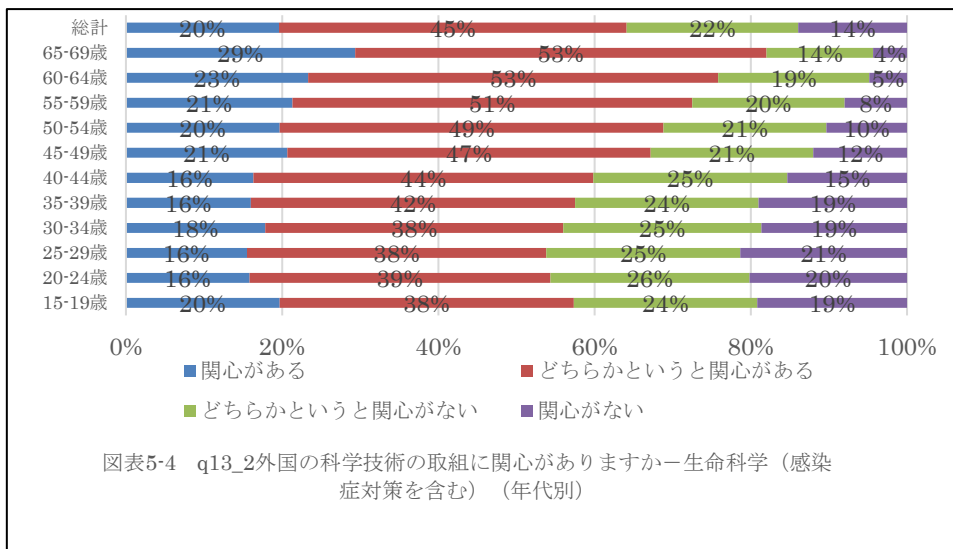


生命科学(感染症対策を含む)に関する性別では図表 5-3 となり、男性((どちらかというど)関心がある66%)は女性((どちらかというど)関心がある62%)を上回っている。

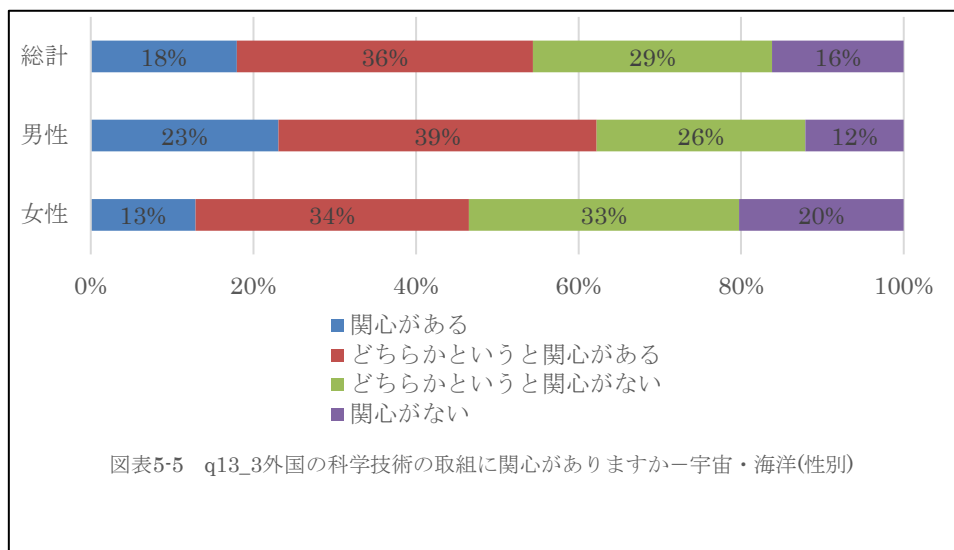




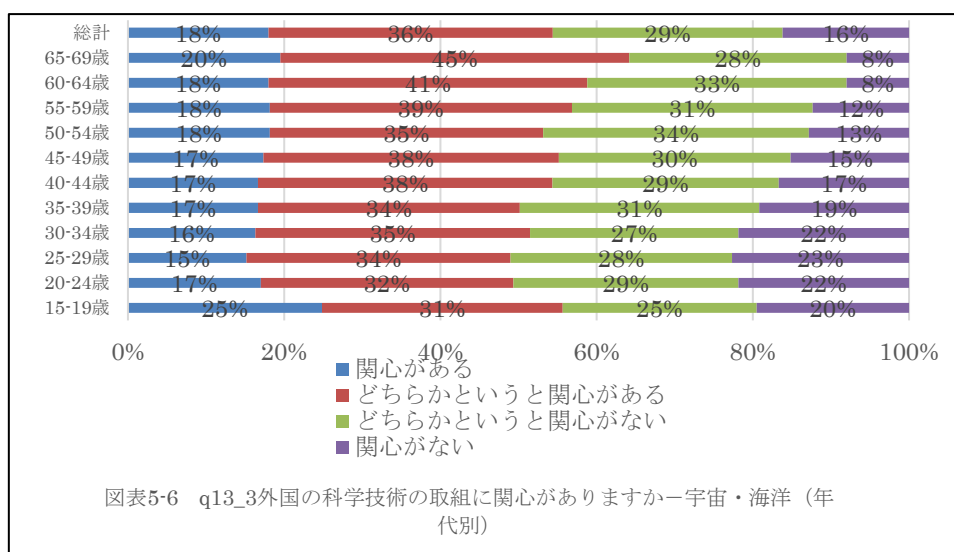
年代別で見ると(図表 5-4)、25 歳以上においては、概ね年代が上がるほど外国の生命科学(感染症対策を含む)に関心がある。



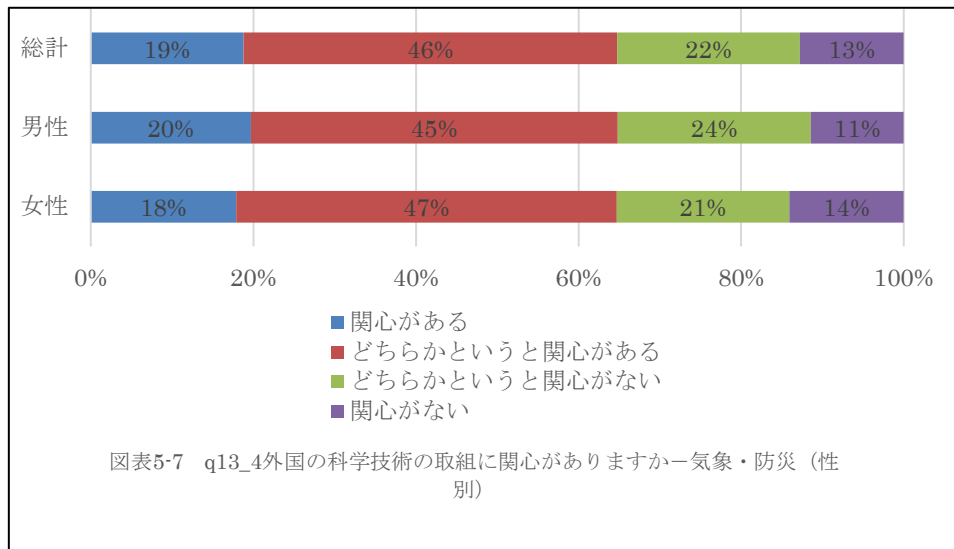
宇宙・海洋に関する性別では図表 5-5 となり、男性((どちらかという)関心がある 62%)は女性((どちらかという)関心がある 47%)を上回っている。



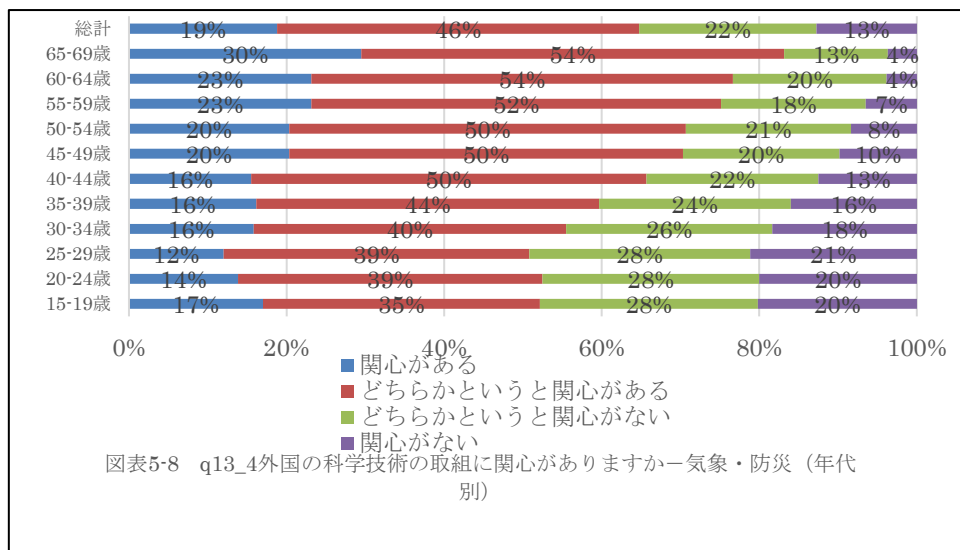
年代別で見ると(図表 5-6)、25 歳以上においては、概ね年代が上がるほど外国の宇宙・海洋に関心がある。



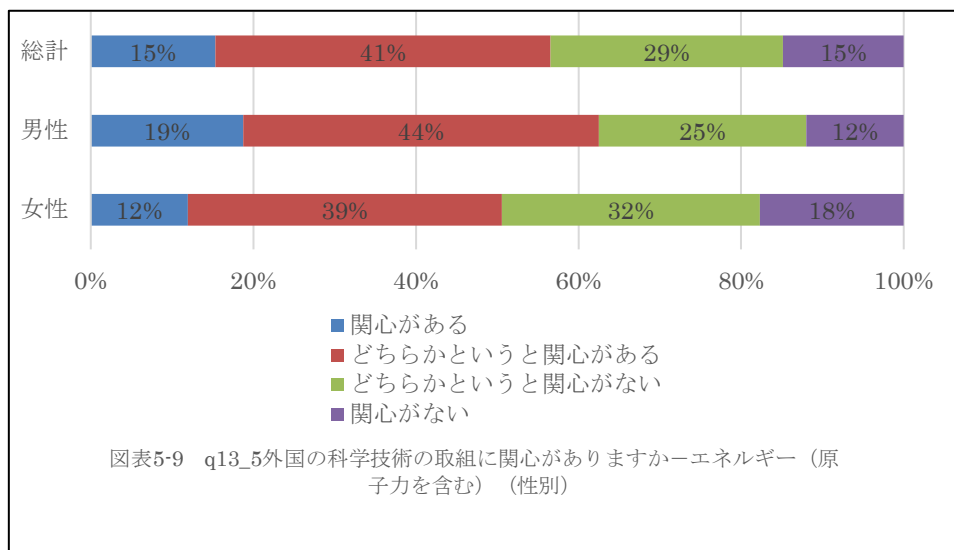
気象・防災に関する性別では図表 5-7 となり、男性((どちらかという)興味がある 65%)は女性((どちらかという)興味がある 65%)とほぼ変わらない。



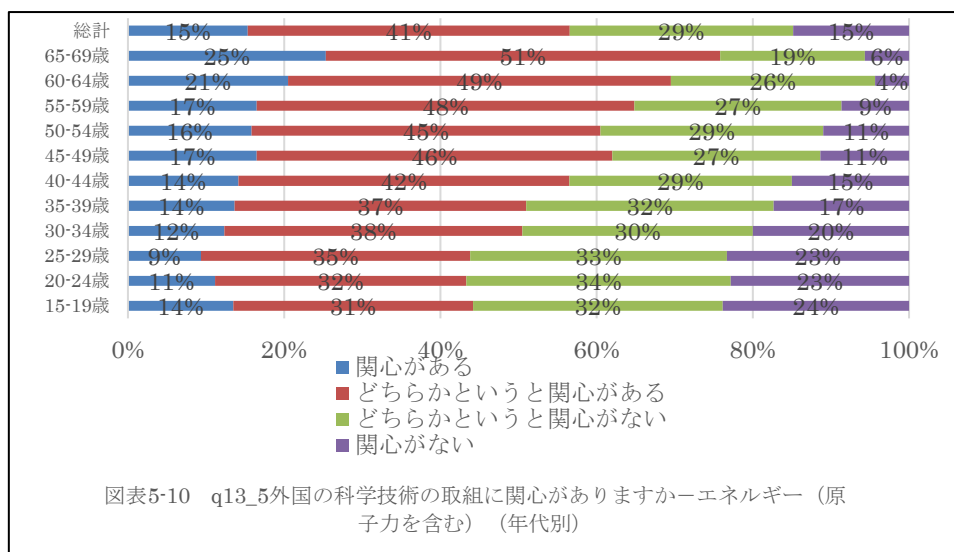
年代別で見ると(図表 5-8)、25 歳以上においては、概ね年代が上がるほど外国の気象・防災に関心がある。



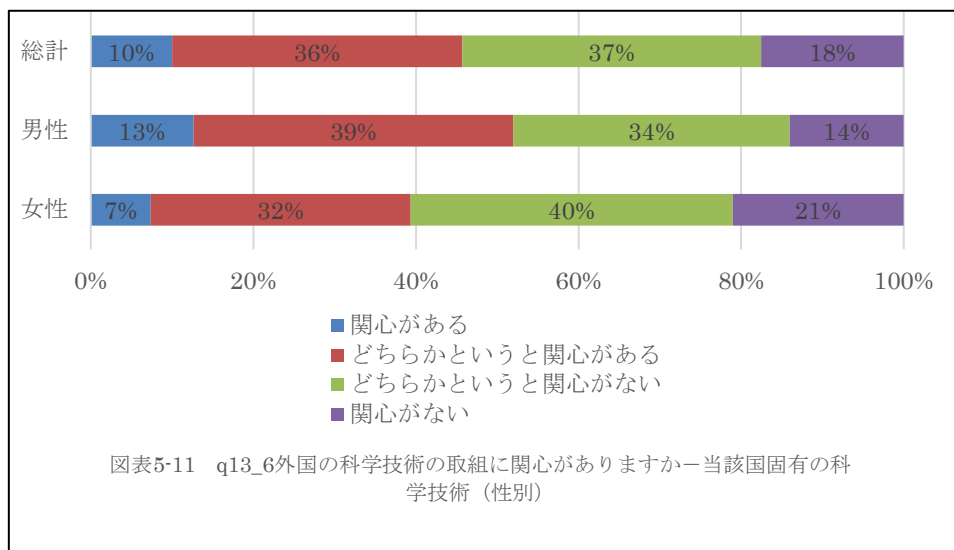
エネルギー(原子力を含む)に関する性別では図表 5-9 となり、男性((どちらかという)関心がある 63%)は女性((どちらかという)関心がある 51%)より大きい。



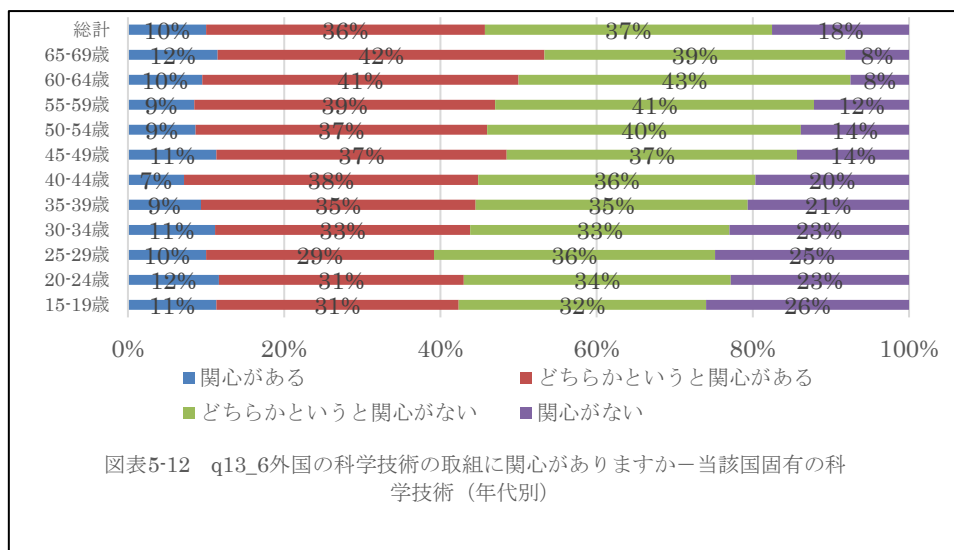
年代別で見ると(図表 5-10)、25 歳以上においては、概ね年代が上がるほど外国のエネルギー（原子力を含む）に関心がある。



当該国固有の科学技術に関する性別では図表 5-11 となり、男性((どちらかという)関心がある 52%)は女性((どちらかという)関心がある 39%)より大きい。



年代別で見ると(図表 5-12)、25 歳以上においては、概ね年代が上がるほど外国の当該国固有の科学技術に関心がある。

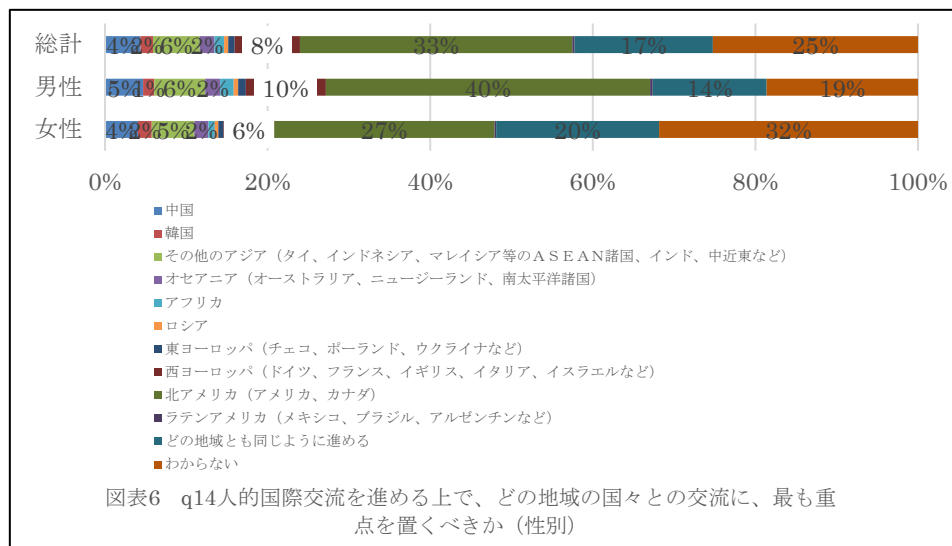


また、分野間で比べて、女性の割合が相対的に高いのは、生命科学(感染症対策を含む)と気象・防災である。一方、男性の割合が高いのは、情報通信技術、宇宙・海洋、エネルギー(原子力を含む)、当該国固有の科学技術である。

#### ⑥ 人的国際交流を進める上で、最も重点を置くべき地域

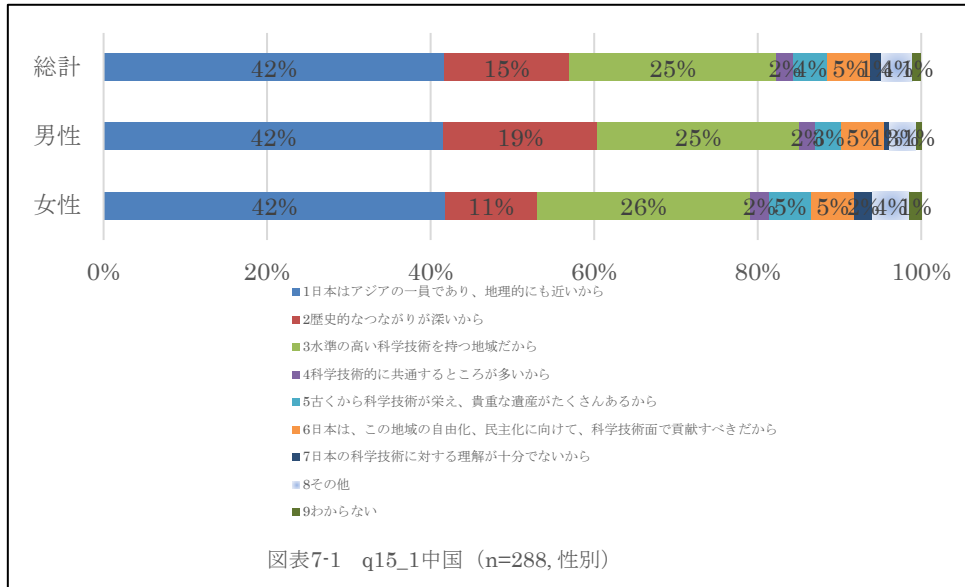
人的国際交流を進める上で、どの地域の国々との交流に、最も重点を置くべきかを訊いたところ、図表 6 となり、男性では北アメリカが 40%と最も高く、次いでわからない(19%)、どの地域とも同じように進める(14%)、西ヨーロッパ(10%)、その他のアジア(6%)、中国(5%)などとなる一方、女

性ではわからない(32%)が最も高く、次いで北アメリカ(27%)、どの地域とも同じように進める(20%)、西ヨーロッパ(6%)、その他のアジア(5%)、中国(4%)などとなった。

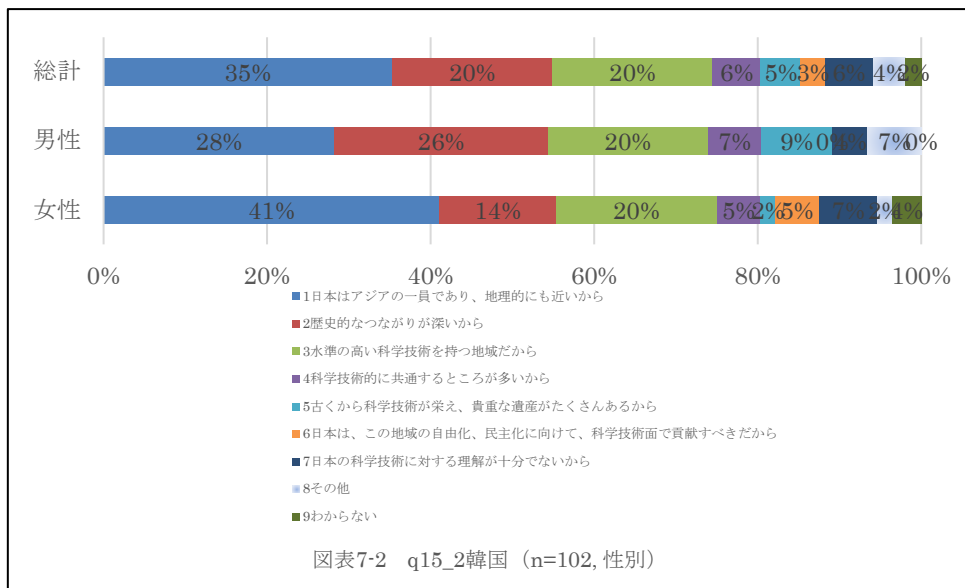


それぞれの地域を選択した理由について訊いた。なお、理由の選択肢は、地域によって少し変えた。中国・韓国・その他のアジアについては、「日本はアジアの一員であり、地理的にも近いから」や「歴史的なつながりが深いから」などを選択肢として入れた。一方、北アメリカについては「自由な雰囲気があり、交流を進めやすいから」や「日米関係は重要であり、科学技術面でも相互理解と信頼関係を深めることが大切であるから」などを選択肢として入れた。さらに西ヨーロッパについては、「古くから科学技術が栄え、貴重な遺産がたくさんあるから」などを選択肢として入れた。

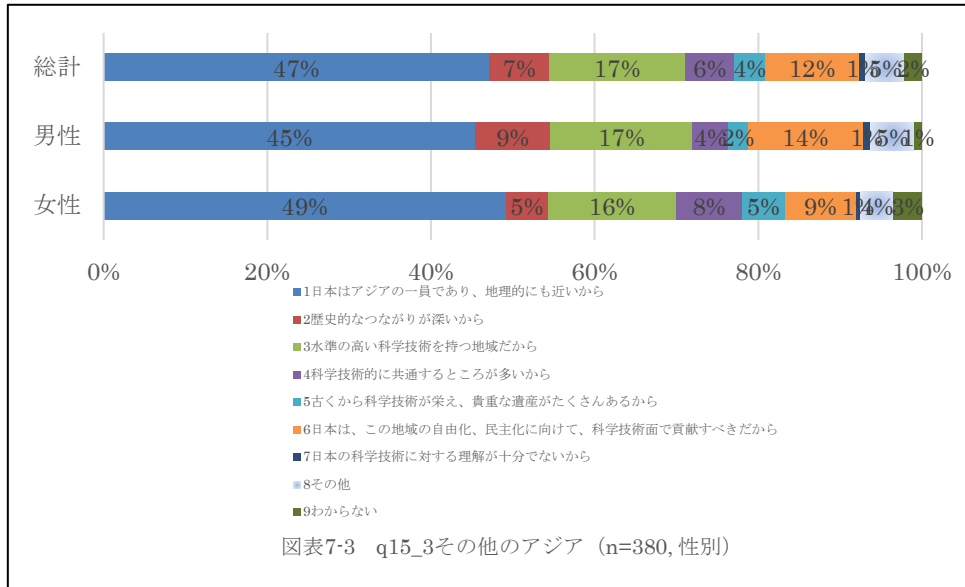
中国が図表 7-1 となり、中国と選んだ人の男女ともに 42%が「日本はアジアの一員であり、地理的にも近いから」としている。次いで、男性の 25%、女性の 26%が「水準の高い科学技術を持つ地域だから」としている。



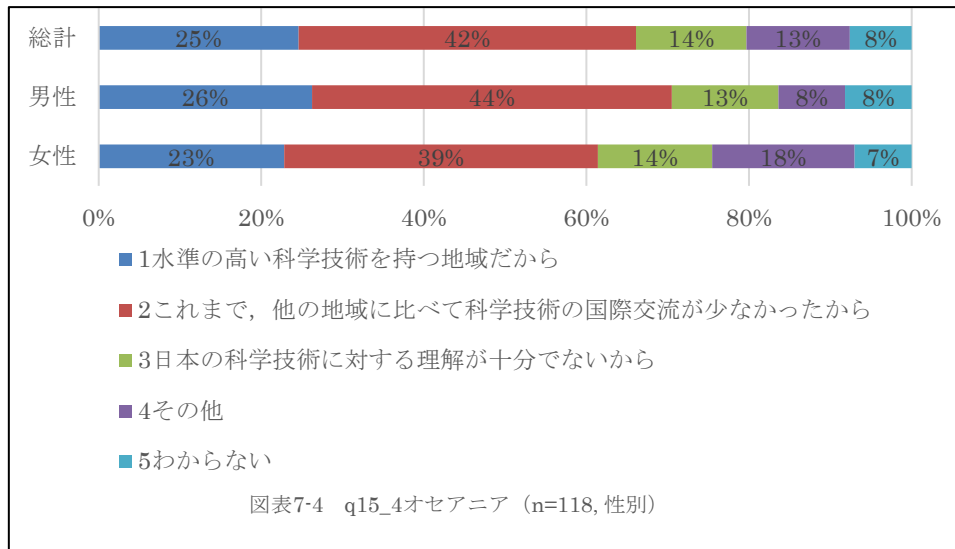
韓国の場合(図表 7-2)、「日本はアジアの一員であり、地理的にも近いから」は男性の28%、女性の41%がそのように考えている。男性の26%が「歴史的なつながりが深いから」とする一方、女性は14%しかいない。「水準の高い科学技術を持つ地域だから」は男女ともに20%がそのように考えている。



その他のアジアの場合(図表 7-3)、「日本はアジアの一員であり、地理的にも近いから」は男性の45%、女性の49%がそのように考えている。「水準の高い科学技術を持つ地域だから」は男性では17%、女性では16%がそのように考えている。次いで、「日本は、この地域の自由化、民主化に向けて、科学技術面で貢献すべきだから」が男性では14%、女性では9%がそのように考えている。

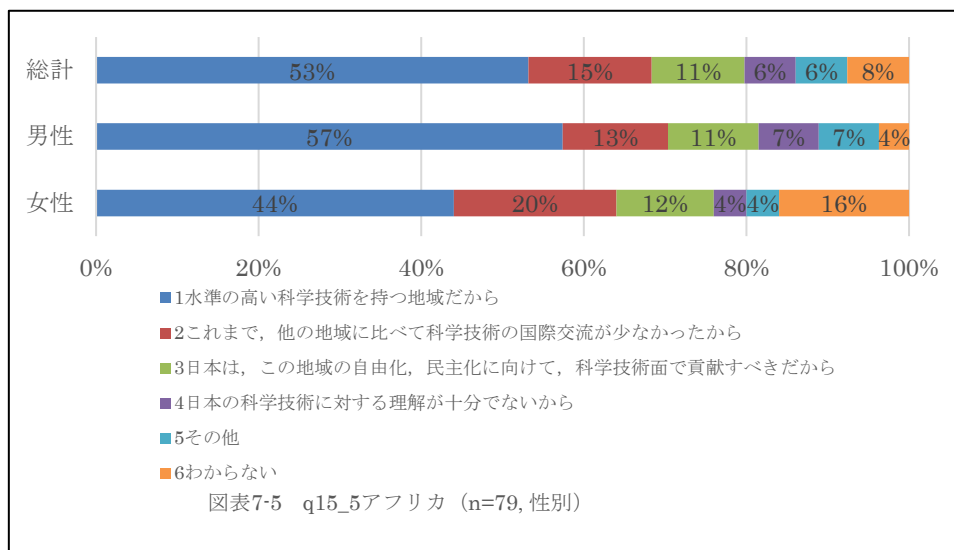


オセアニアの場合(図表 7-4)、「これまで、他の地域に比べて科学技術の国際交流が少なかったから」が男性では44%、女性では39%がそのように考えている。次いで、「水準の高い科学技術を持つ地域だから」が男性では26%、女性では23%がそのように考えている。

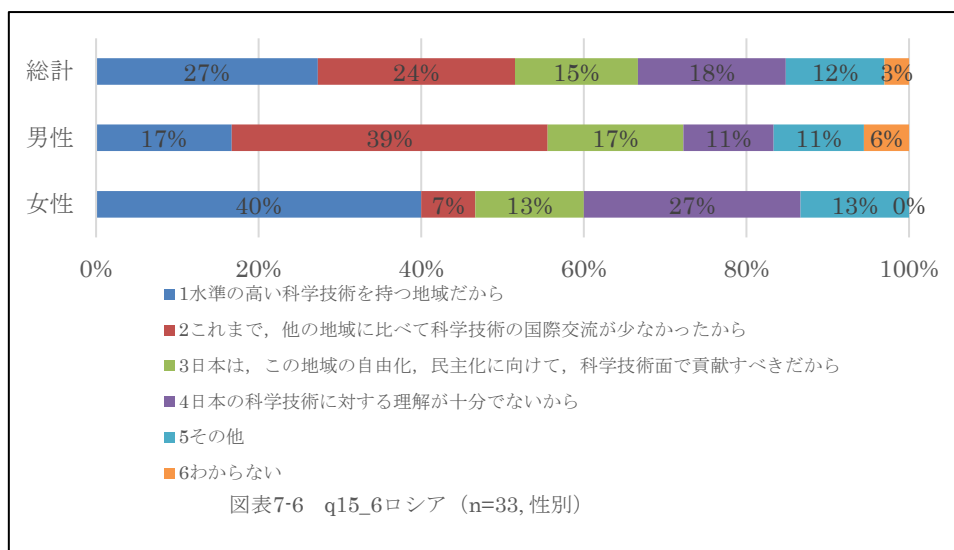


アフリカの場合(図表 7-5)、「水準の高い科学技術を持つ地域だから」が男性では57%、女性では44%がそのように考えている。「これまで、他の地域に比べて科学技術の国際交流が少なかったから」が男性では13%、女性では20%がそのように考えている。

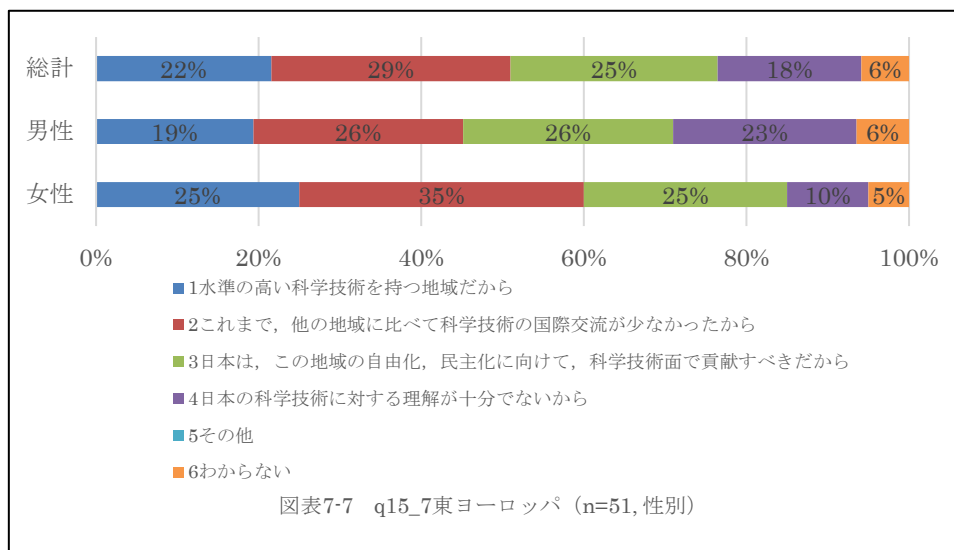




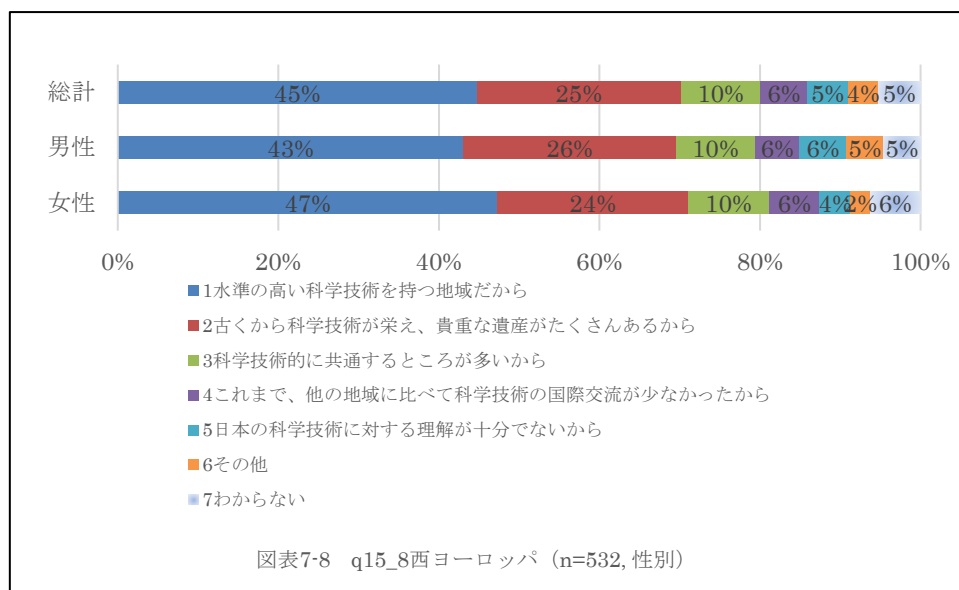
ロシアの場合(図表 7-6)、「水準の高い科学技術を持つ地域だから」が男性では 17%、女性では 40%がそのように考えている。「これまで、他の地域に比べて科学技術の国際交流が少なかったから」が男性では 39%、女性では 7%がそのように考えている。



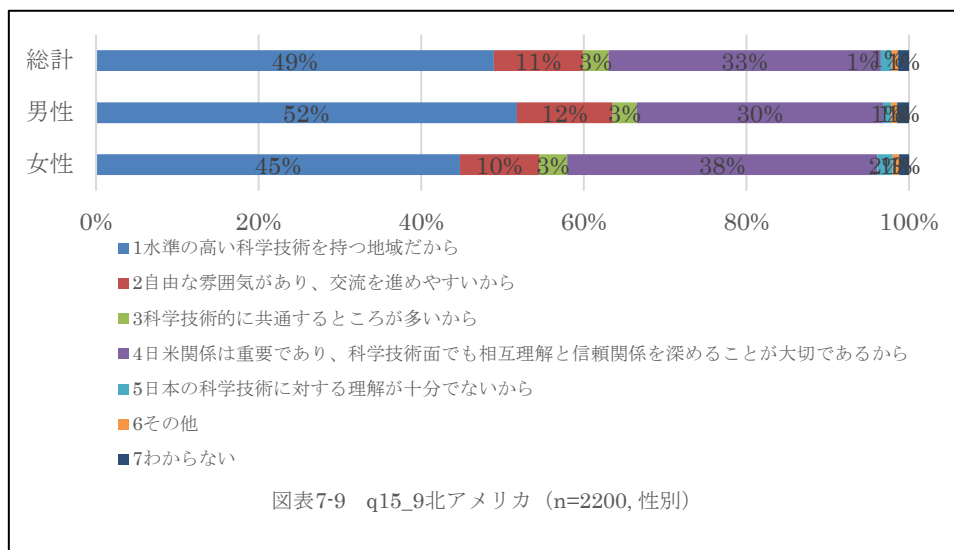
東ヨーロッパの場合(図表 7-7)、「これまで、他の地域に比べて科学技術の国際交流が少なかったから」が男性では 26%、女性では 35%がそのように考えている。次いで、「日本は、この地域の自由化、民主化に向けて、科学技術面で貢献すべきだから」が男性では 26%、女性では 25%がそのように考えている。



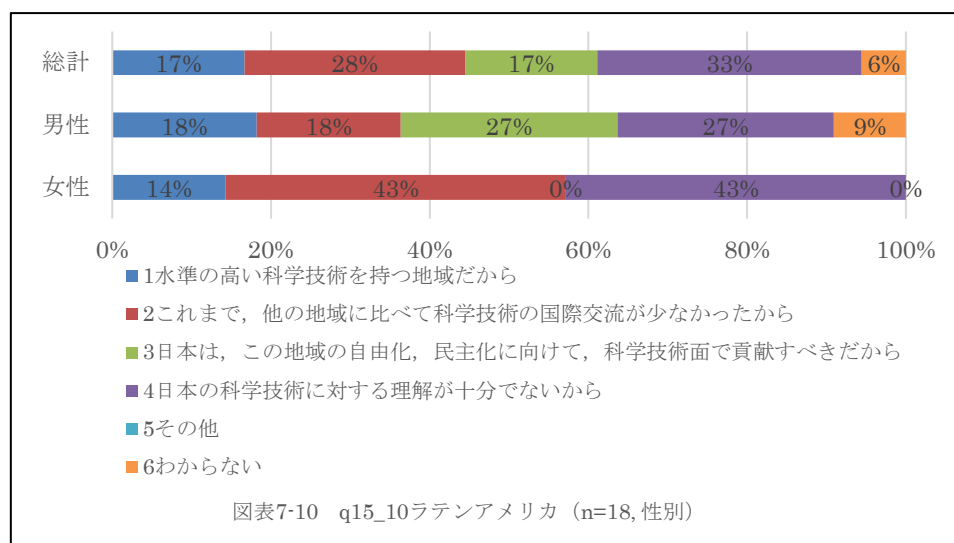
西ヨーロッパの場合(図表 7-8)、「水準の高い科学技術を持つ地域だから」が男性では 43%、女性では 47%がそのように考えている。次いで、「古くから科学技術が栄え、貴重な遺産がたくさんあるから」が男性では 26%、女性では 24%がそのように考えている。



北アメリカの場合(図表 7-9)、「水準の高い科学技術を持つ地域だから」が男性では 52%、女性では 45%がそのように考えている。次いで、「日米関係は重要であり、科学技術面でも相互理解と信頼関係を深めることが大切であるから」が男性では 30%、女性では 38%がそのように考えている。

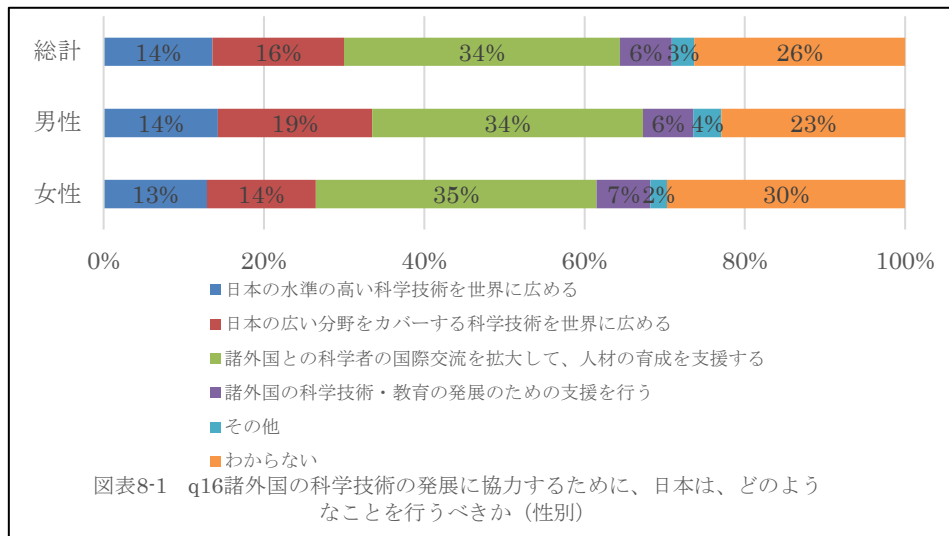


ラテンアメリカの場合(図表 7-10)、「日本の科学技術に対する理解が十分でないから」が男性では 27%、女性では 43%がそのように考えている。次いで、「これまで、他の地域に比べて科学技術の国際交流が少なかったから」が男性では 18%、女性では 43%がそのように考えている。

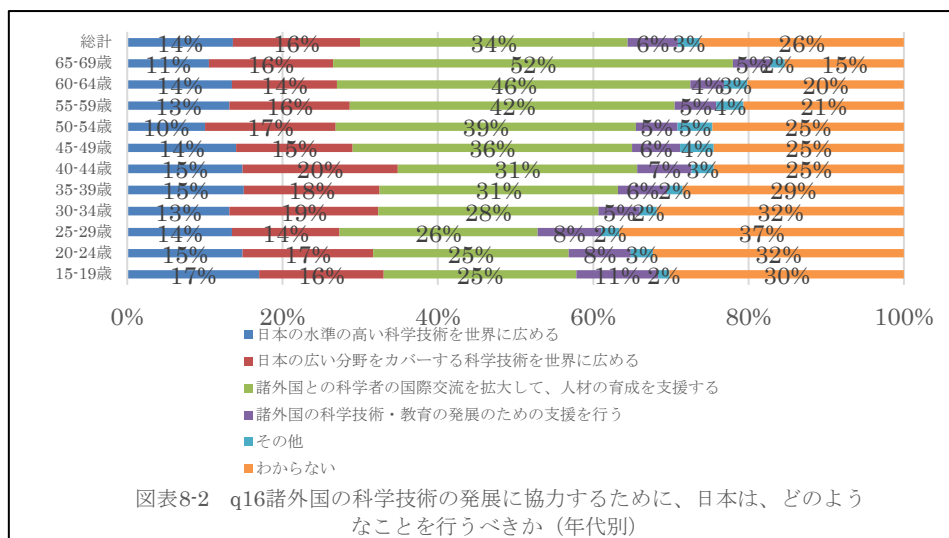


⑦ 諸外国の科学技術の発展に協力するために、日本が行うべきこと

次に諸外国の科学技術の発展に協力するために、日本は、どのようなことを行うべきかについて訊いたところ図表 8-1 となり、「諸外国との科学者の国際交流を拡大して、人材の育成を支援する」が男性では 34%、女性では 35%がそのように考えている。次いで、「わからない」が男性では 23%、女性では 30%がそのように考えている。更に、「日本の広い分野をカバーする科学技術を世界に広める」が男性では 19%、女性では 14%がそのように考えている。

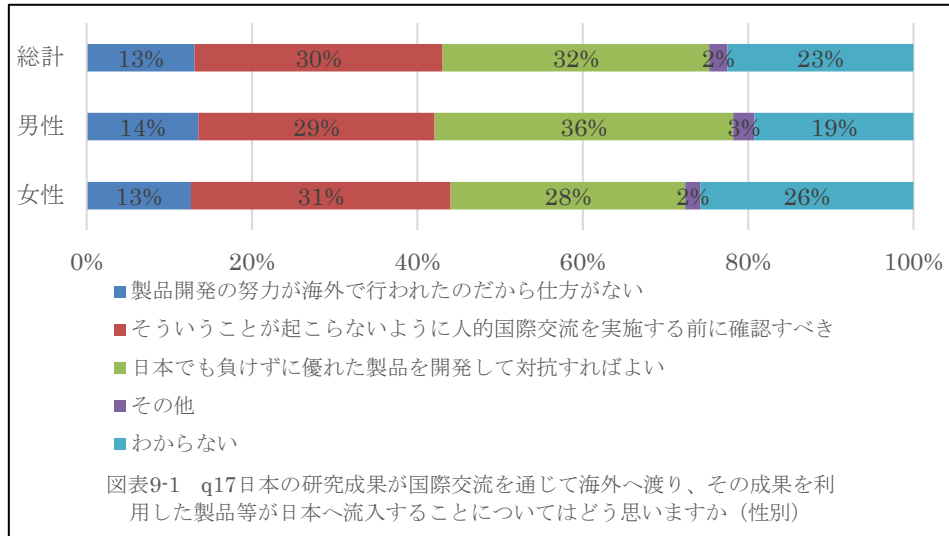


年代別に見ると図表 8-2 となり、年代が上がるにつれて、「諸外国との科学者の国際交流を拡大して、人材の育成を支援する」の割合が増加している。一方、「わからない」の割合が減少していく。

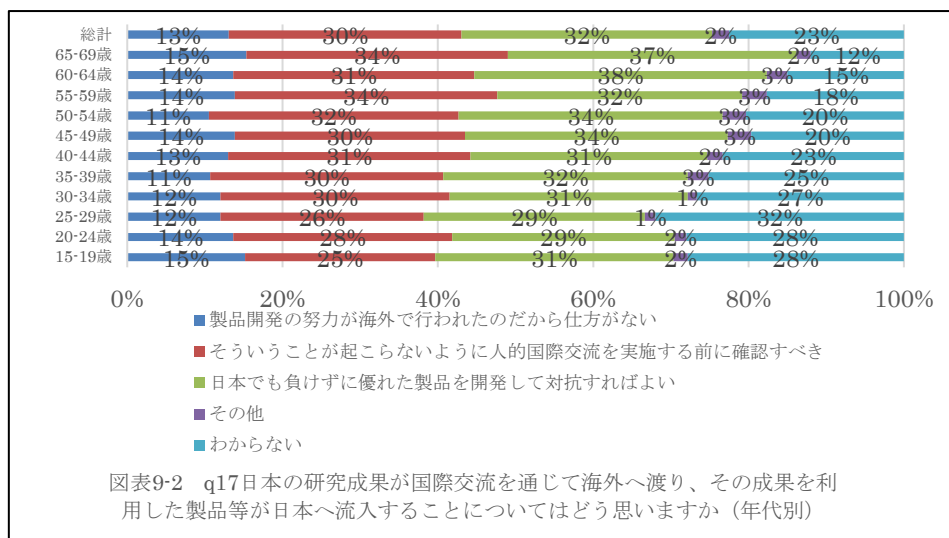


### ⑧ 日本の研究成果を利用した製品等の日本への流入

次に日本の研究成果を利用した製品等が日本へ流入することについてはどう思いますかを訊いたところ、図表 9-1 となり、「日本でも負けずに優れた製品を開発して対抗すればよい」が男性では 36%、女性では 28%がそのように考えている。次いで、「そういうことが起こらないように人的国際交流を実施する前に確認すべき」が男性では 29%、女性では 31%がそのように考えている。

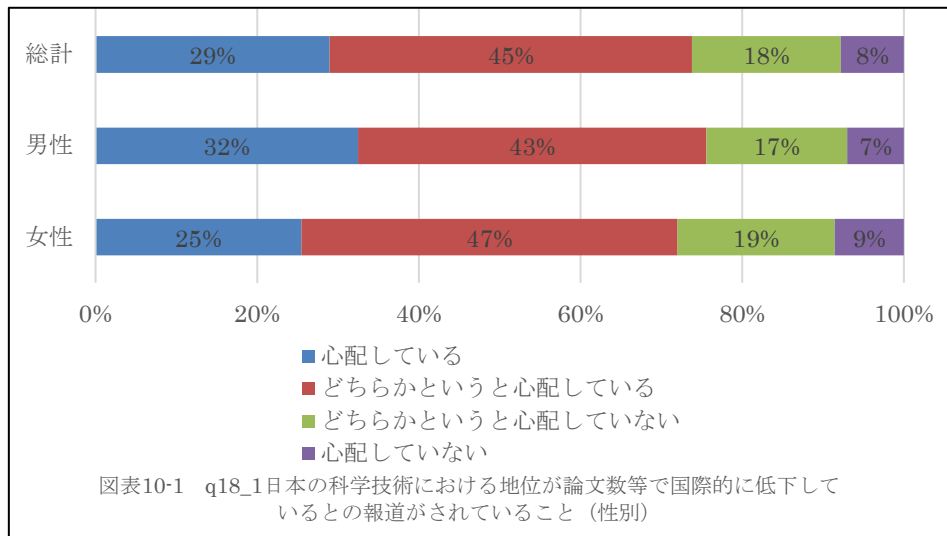


年代別に見ると、図表 9-2 となり、年代が上がるほど、「日本でも負けずに優れた製品を開発して対抗すればよい」の割合が僅かではあるが高くなっており、「わからない」が減少している。

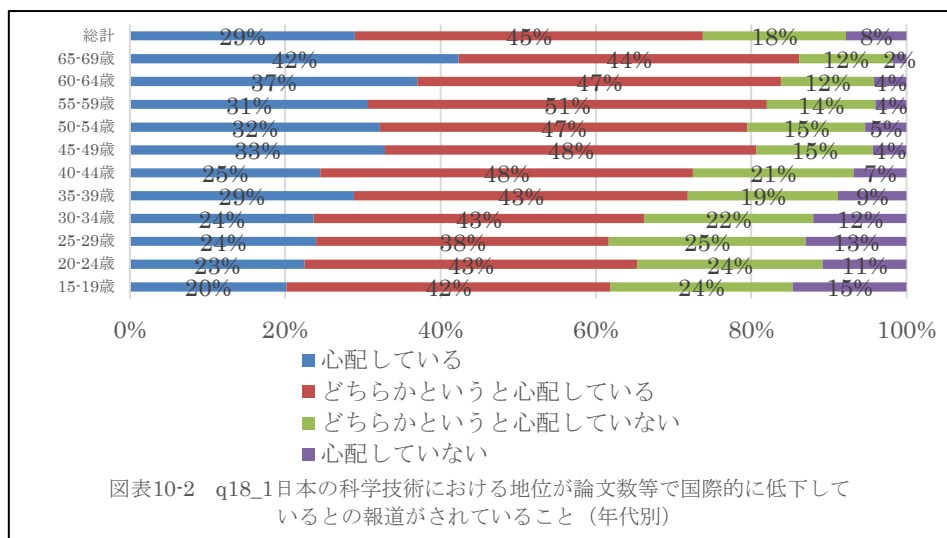


### ⑨ 論文数等における日本の科学技術における地位低下

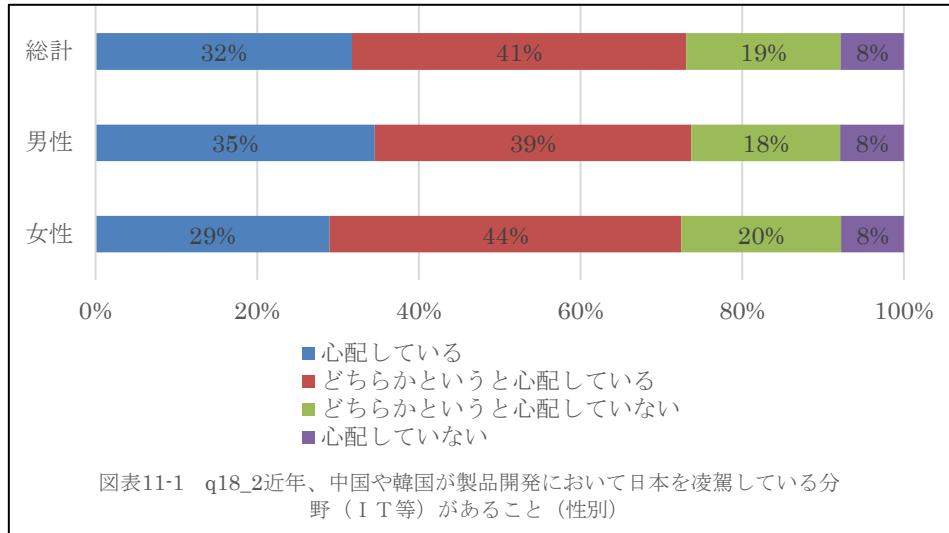
次に日本の科学技術における地位が論文数等で国際的に低下しているとの報道がされていることについて訊いたところ、図表 10-1 となり、男性（(どちらかという)心配している 75%）は女性（(どちらかという)心配している 72%）よりも僅かに高いが、全体で 7 割を超える人が（どちらかという）心配している。



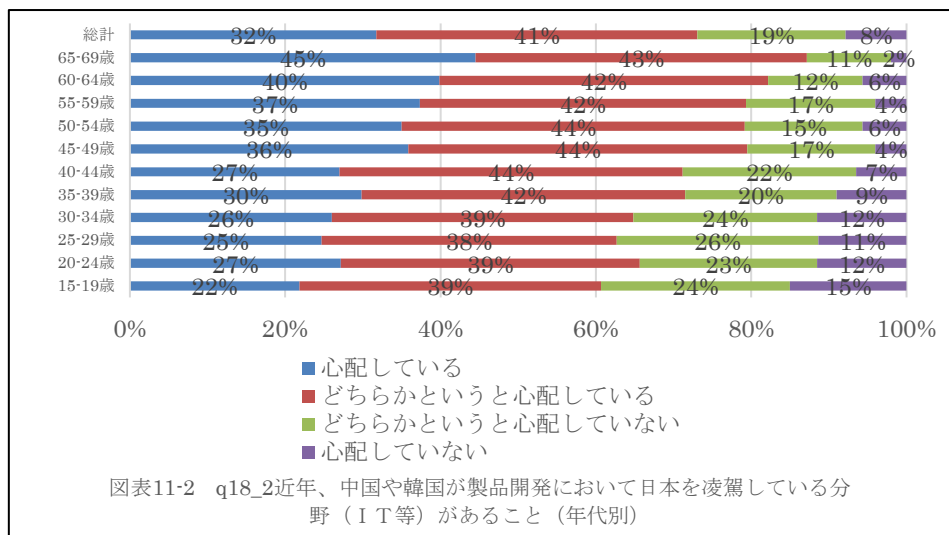
また年代別に見ると(図表 10-2)年代が上がるほど、心配している人の割合が高くなっていることが分かる。



⑩ 中国や韓国が製品開発において日本を凌駕している分野(IT等)があること  
次に近年、中国や韓国が製品開発において日本を凌駕している分野(IT等)があることについて訊いたところ、図表 11-1 となり、男性((どちらかという)心配している 74%)は女性((どちらかという)心配している 73%)とほぼ同じであるが、全体で7割を超える人が(どちらかという)心配している。

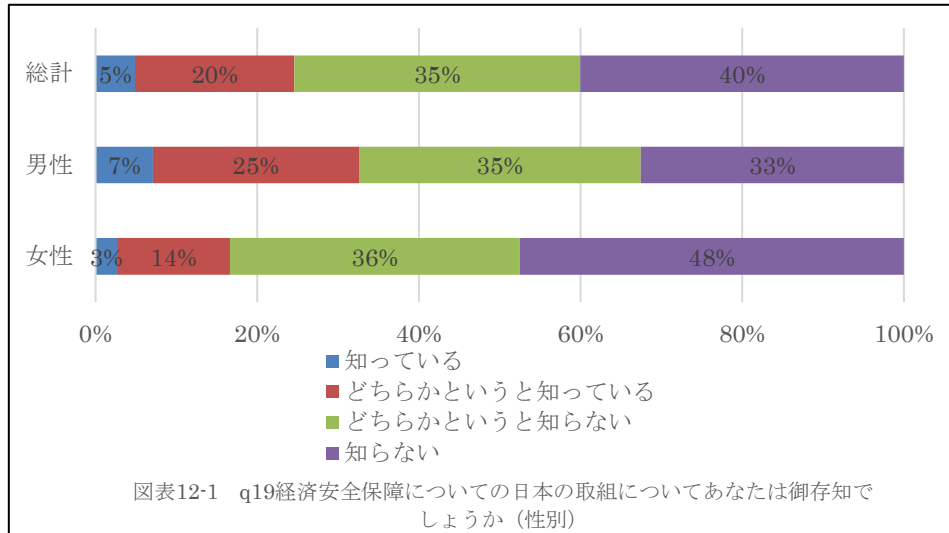


また年代別に見ると(図表 11-2)年代が上がるほど、心配している人の割合が高くなっていることが分かる。

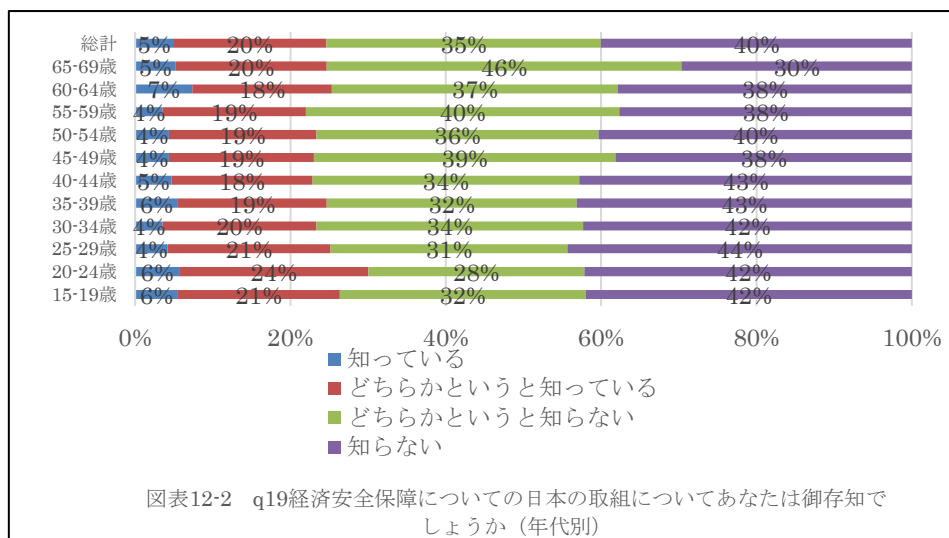


⑩ 経済安全保障についての日本の取組

次に経済安全保障についての日本の取組についてあなたは御存知でしょうかについて訊いたところ、図表 12-1 とおり、全体では 75%の人が(どちらかという)知らない。男性((どちらかという)知っている 32%)は割合としては低いものの、女性((どちらかという)知っている 17%)よりかは高いことが分かる。



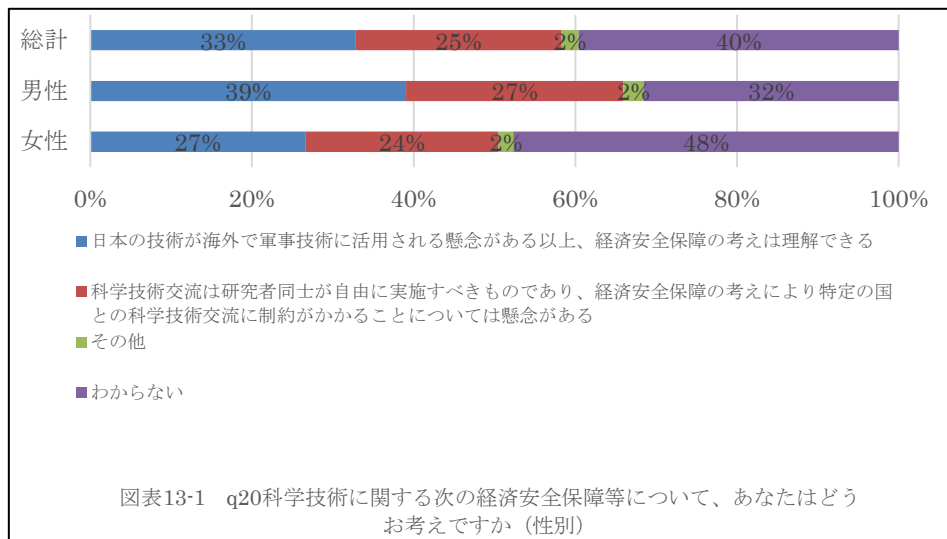
年代別に見ると図表 12-2 となり、世代間の差はあまり見られないことが分かる。



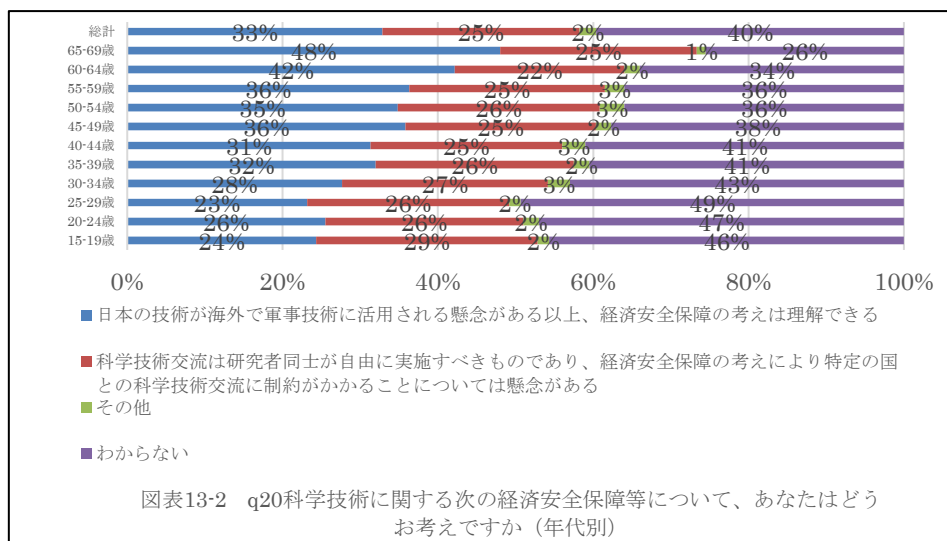
### ⑫ 科学技術に関する経済安全保障

次に、科学技術に関する次の経済安全保障等について、あなたはどうお考えですかを訊いたところ、図表 13-1 となり、「わからない」が最多を占める一方、「日本の技術が海外で軍事技術に活用される懸念がある以上、経済安全保障の考えは理解できる」が男性では 39%、女性では 27%がそのように考えている。「科学技術交流は研究者同士が自由に実施すべきものであり、経済安全保障の考えにより特定の国との科学技術交流に制約がかかることについては懸念がある」が男性では 27%、女性では 24%がそのように考えている。



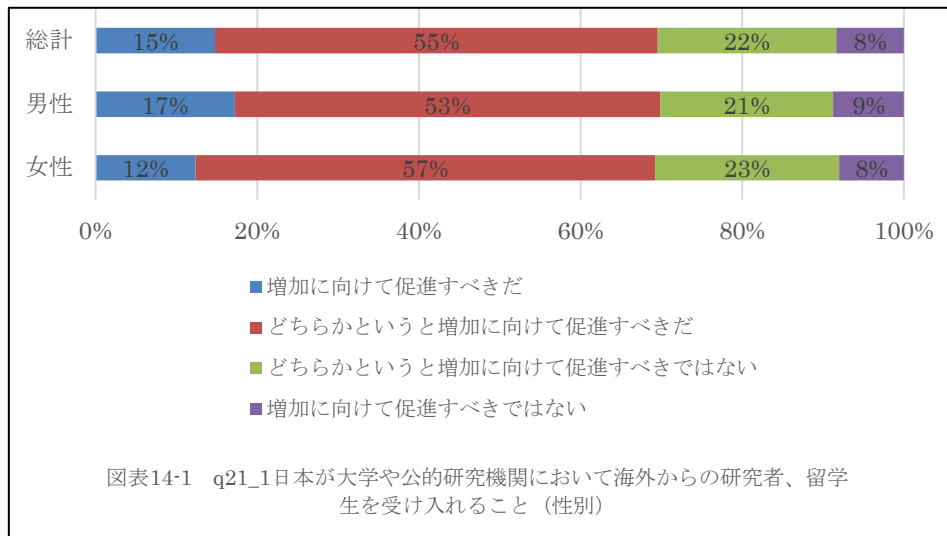


年代別に見ると図表 13-2 となり、年代が上がるにつれて、「日本の技術が海外で軍事技術に活用される懸念がある以上、経済安全保障の考えは理解できる」と回答する者の割合が高くなっていることが分かる。

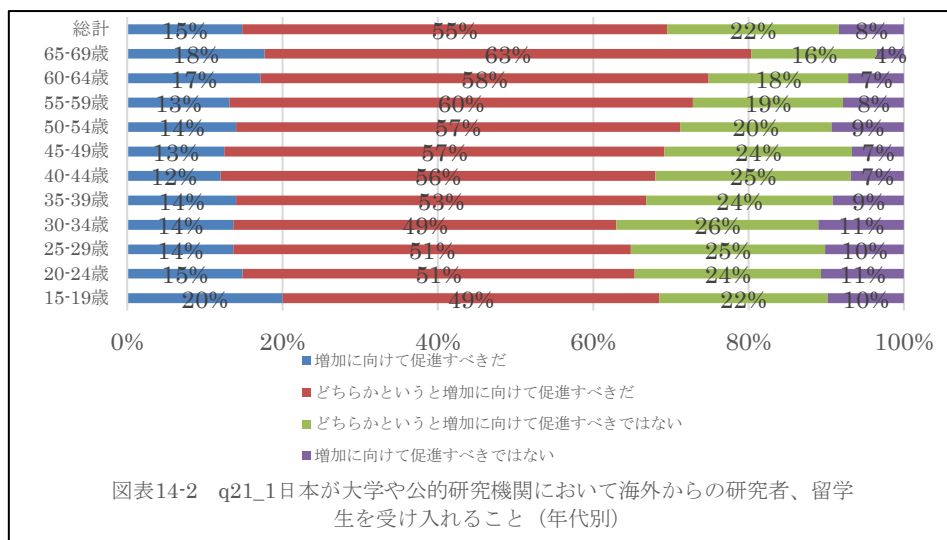


### ⑬ 海外からの研究者、留学生の受け入れ

次に、日本が大学や公的研究機関において海外からの研究者、留学生を受け入れることについて訊いたところ、図表 14-1 となり、男性（(どちらかというと)増加に向けて促進すべきだ 70%）は女性（(どちらかというと)増加に向けて促進すべきだ 69%）とほぼ変わらない。

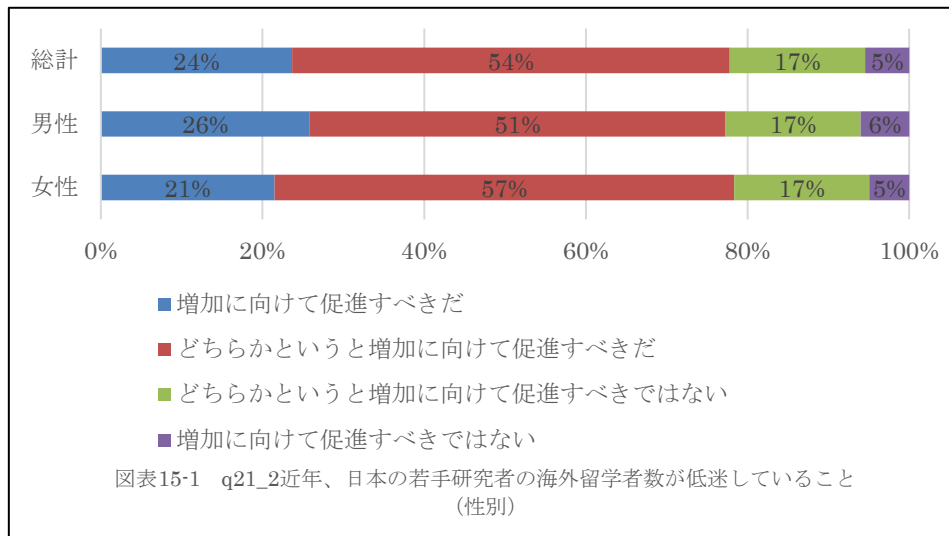


年代別に見ると、図表 14-2 となり、年代が上がるにつれて（どちらかという）増加に向けて促進すべきだという考えを持った人の割合が高くなっていることが分かる。

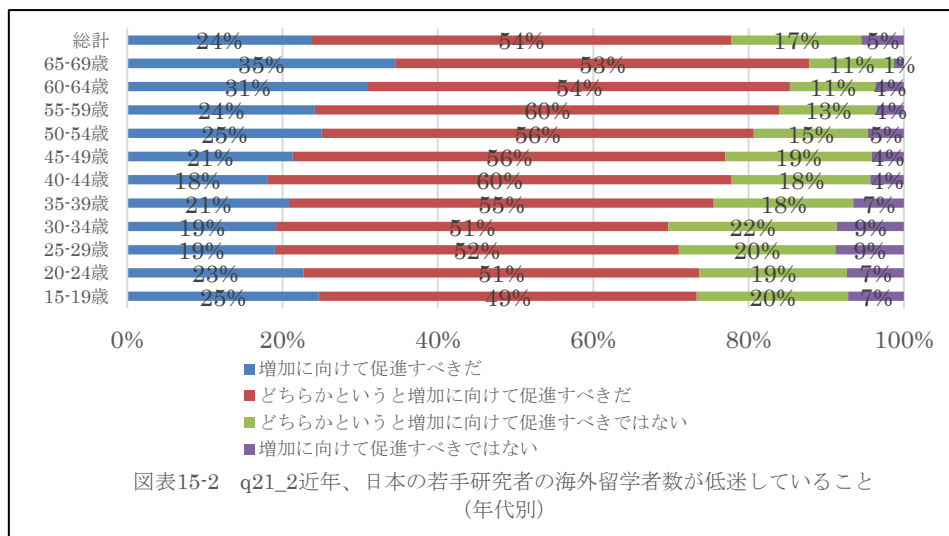


⑭ 日本の若手研究者の海外留学者数の低迷

次に、近年、日本の若手研究者の海外留学者数が低迷していることについて訊いたところ、図表 15-1 となり、男性（（どちらかという）増加に向けて促進すべきだ 77%）は女性（（どちらかという）増加に向けて促進すべきだ 78%）とほぼ変わらない。

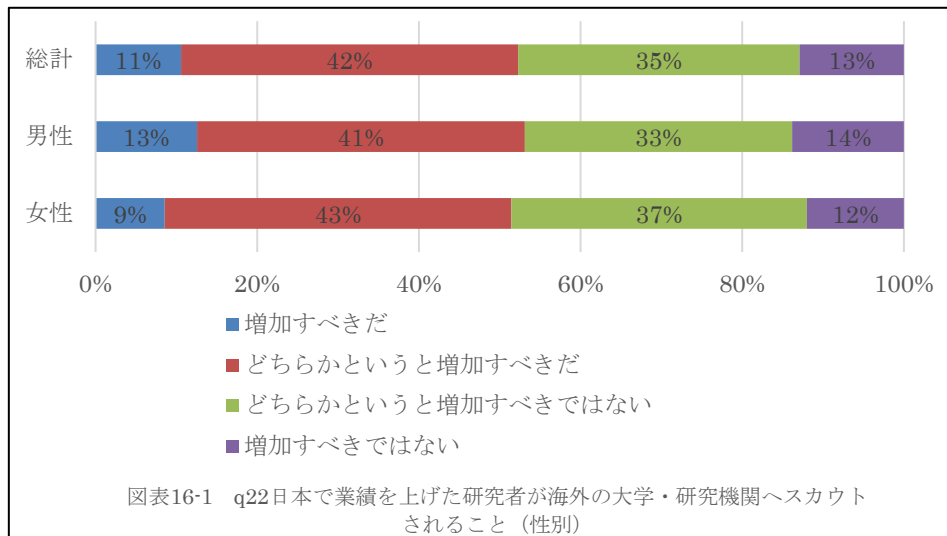


年代別に見ると、図表 15-2 となり、年代が上がるにつれて(どちらかという)増加に向けて促進すべきだという考えを持った人の割合が高くなっていることが分かる。

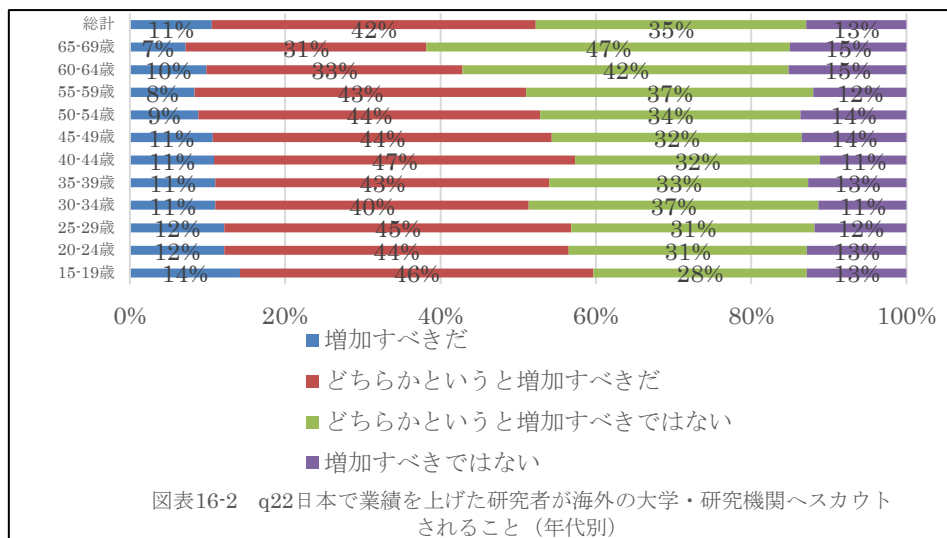


### ⑮ 海外の大学・研究機関へのスカウト

日本で業績を上げた研究者が海外の大学・研究機関へスカウトされることについて訊いたところ、図表 16-1 となり、男性((どちらかという)増加すべきだ 54%)は女性((どちらかという)増加すべきだ 52%)とほぼ変わらない。



年代別に見ると図表 16-2 となり、年代が上がるにつれて、(どちらかという)増加すべきだと回答する人の割合が低くなっていることが分かる。



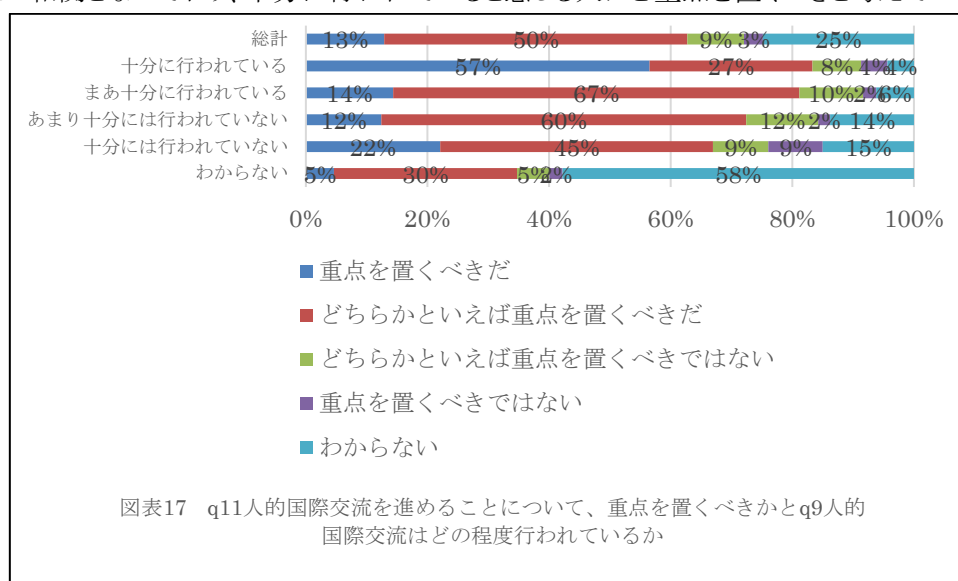
## (2) 人的国際交流の科学技術政策に関する国民の意識に関するクロス分析

以下では、クロス表の分析を行う。ここで、行列ともに順序尺度である場合、グッドマンとクラスカルのガンマ(以下、ガンマという)を行列の相関の強さの指標として導入する。ガンマは-1 から 1 までの値を得られることができ、値が大きいほど強い正の相関がある。なお、統計学的な順序性がない尺度を使っているためガンマは計算できない場合もある。

① q11 人的国際交流を進めることについて、重点を置くべきか×q9 人的国際交流はどの程度行われているか

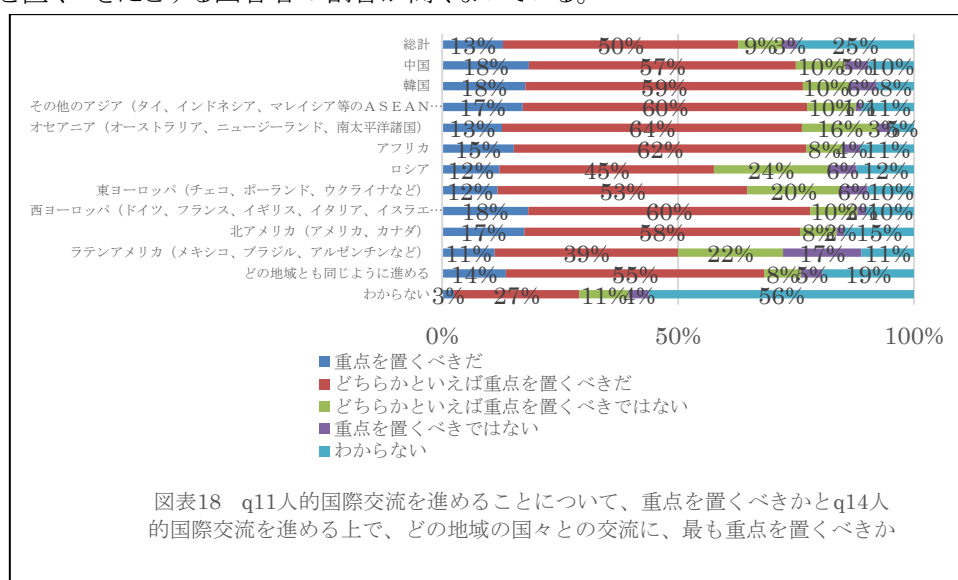
q11 人的国際交流を進めることについて、重点を置くべきか×q9 人的国際交流はどの程度行われ

ているかを調べたところ図表 17 となり、ガンマは 0.444 となった。重点を置くべきかと十分性に関しては正の相関となっており、十分に行われていると感じる人ほど重点を置くべきと考えている。



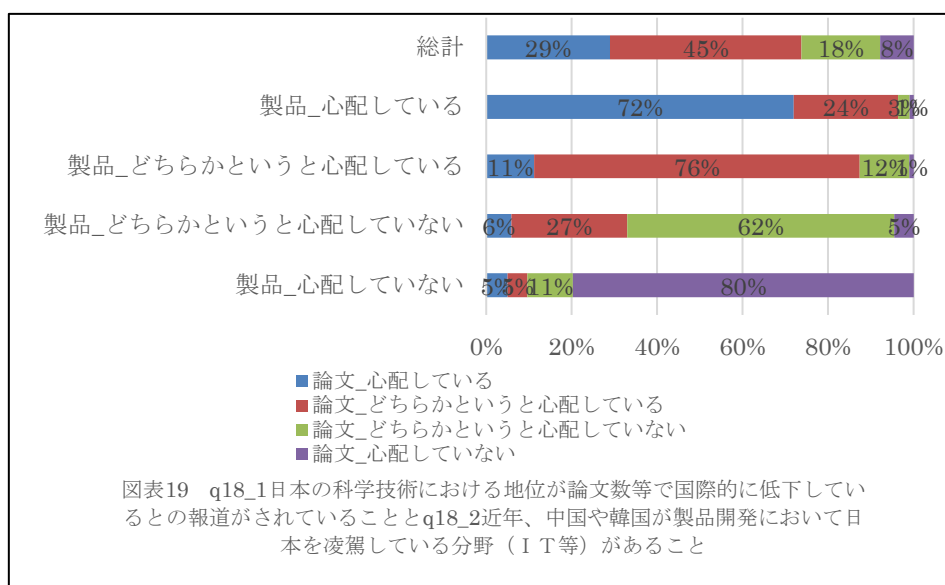
② q11 人的国際交流を進めることについて、重点を置くべきか×q14 人的国際交流を進める上で、どの地域の国々との交流に、最も重点を置くべきか

q11 人的国際交流を進めることについて、重点を置くべきか×q14 人的国際交流を進める上で、どの地域の国々との交流に、最も重点を置くべきかを調べたところ図表 18 となり、中国((どちらかといえば)重点を置くべきだ 75%)、北アメリカ((どちらかといえば)重点を置くべきだ 75%)などとなり重点を置くべきだとする回答者の割合が高くなっている。



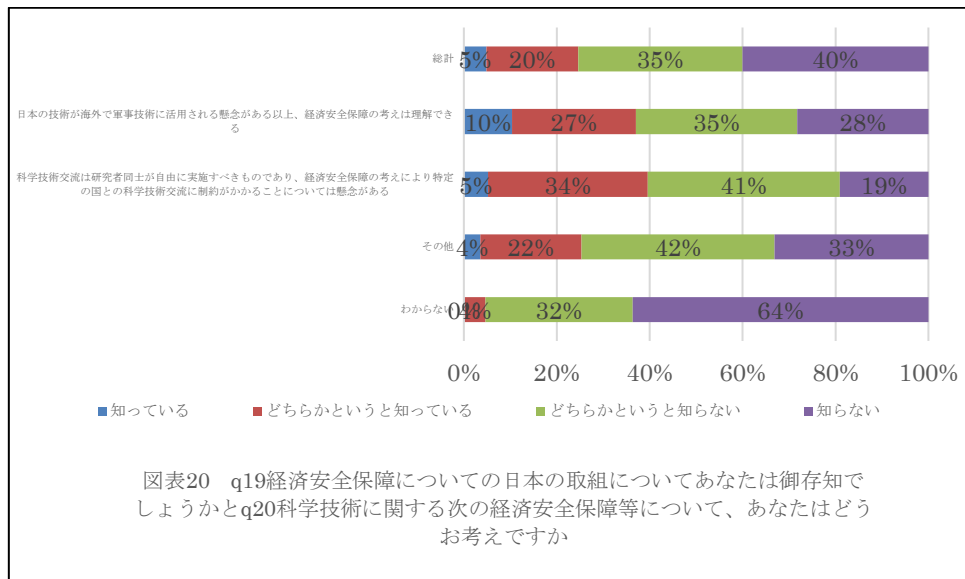
③ q18\_1 日本の科学技術における地位が論文数等で国際的に低下しているとの報道がされていること(論文)×q18\_2 近年、中国や韓国が製品開発において日本を凌駕している分野(IT等)があること(製品)

q18\_1 日本の科学技術における地位が論文数等で国際的に低下しているとの報道がされていること(論文)と q18\_2 近年、中国や韓国が製品開発において日本を凌駕している分野(IT等)があること(製品)を調べると図表 19 となり、ガンマは 0.849 と極めて高い。論文数の国際的な低下への心配と日本を凌駕している分野(IT等)があることへの心配に強い正の相関があることが分かった。



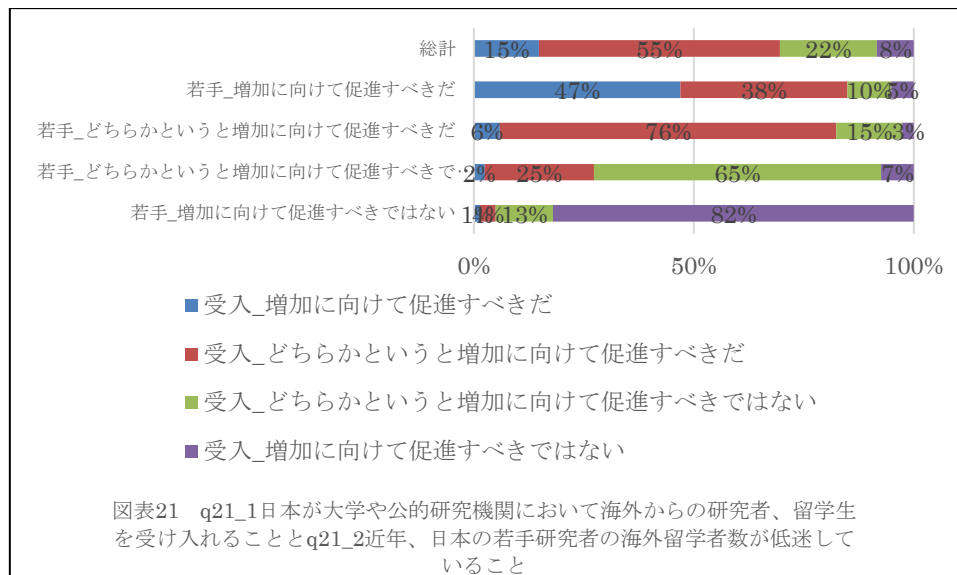
④ q19 経済安全保障についての日本の取組についてあなたは御存知でしょうか×q20 科学技術に関する次の経済安全保障等について、あなたはどうお考えですか

q19 経済安全保障についての日本の取組についてあなたは御存知でしょうかと q20 科学技術に関する次の経済安全保障等について、あなたはどうお考えですかについて調べたところ、図表 20 のようになった。経済安全保障について知っているほど経済安全保障の取組への賛同者が高まるという仮説だったが、実際は逆転している。「日本の技術が海外で軍事技術に活用される懸念がある以上、経済安全保障の考えは理解できる」((どちらかという)知っている 37%)、「科学技術交流は研究者同士が自由に実施すべきものであり、経済安全保障の考えにより特定の国との科学技術交流に制約がかかることについては懸念がある」((どちらかという)知っている 39%)。差は僅かなのと、「知っている」では「考えは理解できる」は 10%と「懸念がある」の 5%よりも大きいことも配慮すべきかもしれない。



⑤ q21\_1 日本が大学や公的研究機関において海外からの研究者、留学生を受け入れること(受入) × q21\_2 近年、日本の若手研究者の海外留学者数が低迷していること(若手)

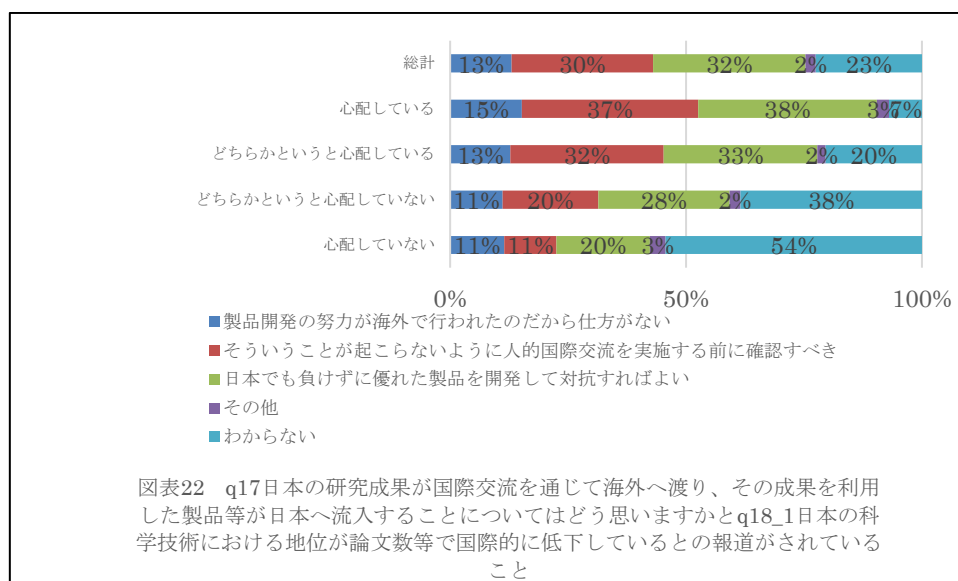
q21\_1 日本が大学や公的研究機関において海外からの研究者、留学生を受け入れること(受入)と q21\_2 近年、日本の若手研究者の海外留学者数が低迷していること(若手)について調べたところ、図表 21 となり、ガンマは 0.720 と高い。よって、海外からの研究者、留学生の受け入れ数と日本の若手研究者の海外留学者数を双方とも増加すべきとの意見は③ほど強力ではないが強い。逆に両方とも増加すべきではないとする意見も強くなっていることが分かる。



⑥ q17 日本の研究成果が国際交流を通じて海外へ渡り、その成果を利用した製品等が日本へ流入することについてはどう思いますか × q18.1 日本の科学技術における地位が論文数等で国際的に低下しているとの報道がされていること

q17 日本の研究成果が国際交流を通じて海外へ渡り、その成果を利用した製品等が日本へ流入することについてはどう思いますかと q18\_1 日本の科学技術における地位が論文数等で国際的に低下しているとの報道がされていることについて調べたところ、図表 22 となった。

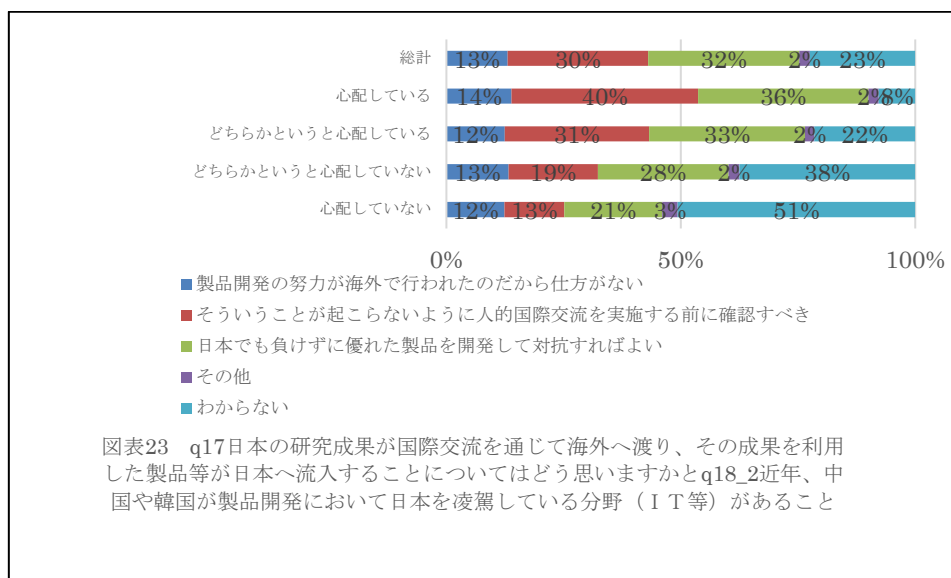
論文数等で国際的に低下していることを「心配している」回答者の 38%が「日本でも負けずに優れた製品を開発して対抗すればよい」と考えており、37%が「そういうことが起こらないように人的国際交流を実施する前に確認すべき」と考えている。これらの割合は心配の程度が下がるにつれて軽減しており、論文数に関する心配度と研究成果の日本への流入に関しては相関があるように思われる。しかしここでは、行が順序尺度にならないためガンマによる評価は行わないものとする。



⑦ q17 日本の研究成果が国際交流を通じて海外へ渡り、その成果を利用した製品等が日本へ流入することについてはどう思いますか×q18\_2 近年、中国や韓国が製品開発において日本を凌駕している分野(IT等)があること

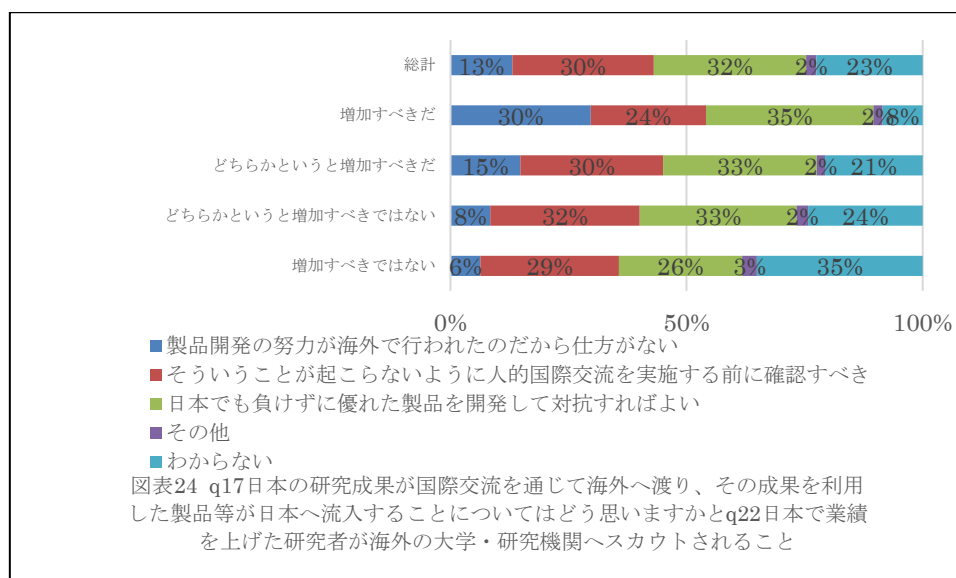
⑥と類似の分析として、q17 日本の研究成果が国際交流を通じて海外へ渡り、その成果を利用した製品等が日本へ流入することについてはどう思いますかと q18\_2 近年、中国や韓国が製品開発において日本を凌駕している分野(IT等)があることとの関係を調べた(図表 23)。⑥の結果と同じく、中国や韓国が製品開発において日本を凌駕している分野(IT等)があることを「心配している」回答者の 36%が「日本でも負けずに優れた製品を開発して対抗すればよい」と考えており、40%が「そういうことが起こらないように人的国際交流を実施する前に確認すべき」と考えている。これらの割合は心配の程度が下がるにつれて軽減しており、日本を凌駕している分野に関する心配度と研究成果の日本への流入に関しては相関があるように思われる。





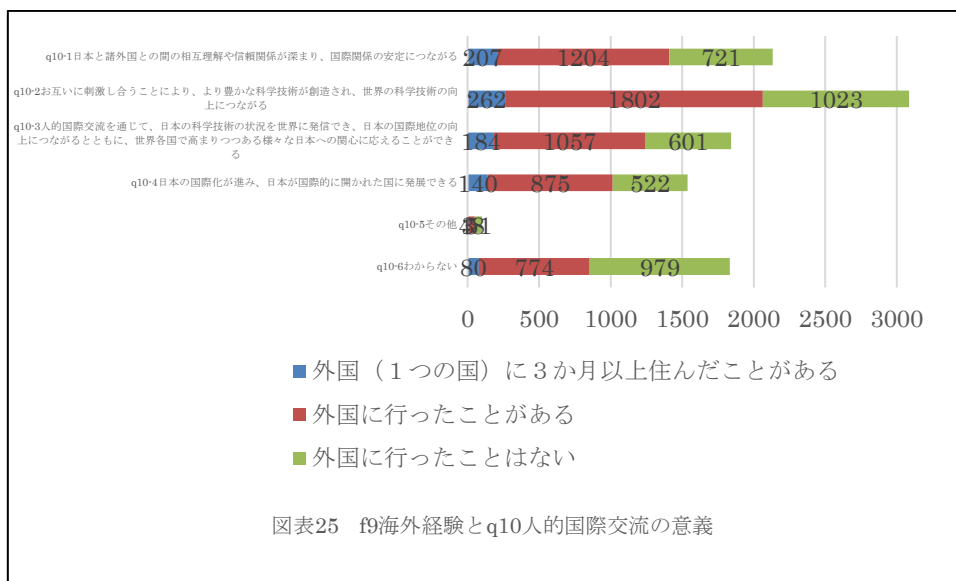
⑧ q17 日本の研究成果が国際交流を通じて海外へ渡り、その成果を利用した製品等が日本へ流入することについてはどう思いますか×q22 日本で業績を上げた研究者が海外の大学・研究機関へスカウトされること

q17 日本の研究成果が国際交流を通じて海外へ渡り、その成果を利用した製品等が日本へ流入することについてはどう思いますかと q22 日本で業績を上げた研究者が海外の大学・研究機関へスカウトされることを調べたところ、図表 24 となり、海外の大学・研究機関へスカウトされることを「増加すべきだ」と回答した者の 35%が「日本でも負けずに優れた製品を開発して対抗すればよい」と考えており、30%が「製品開発の努力が海外で行われたのだから仕方がない」と考えている。「増加すべきではない」と回答した者の 35%が「わからない」としており、次いで 29%が「そういうことが起こらないように人的国際交流を実施する前に確認すべき」としている。



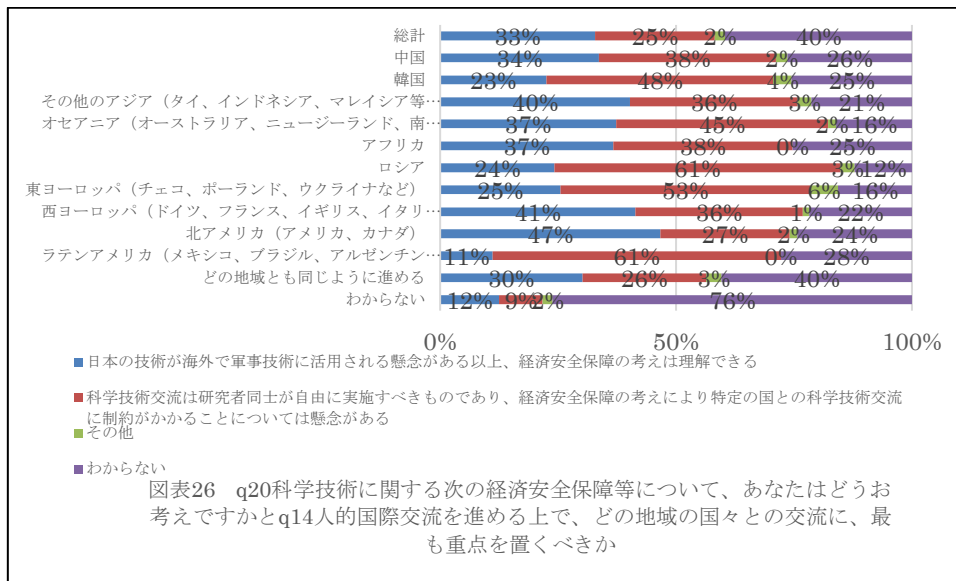
⑨ f9 海外経験×q10 人的国際交流の意義

海外在住経験のある人は国際交流の便益に理解があると思われるため、f9 海外経験と q10 人的国際交流の意義について、分析を行った。結果、図表 25 となった。国際交流を進めることについて、海外経験の有無に関わらず、「お互いに刺激し合うことにより、より豊かな科学技術が創造され、世界の科学技術の向上につながる」が最多となっていることが分かる。次いで、「日本と諸外国との間の相互理解や信頼関係が深まり、国際関係の安定につながる」となっていることが分かる。



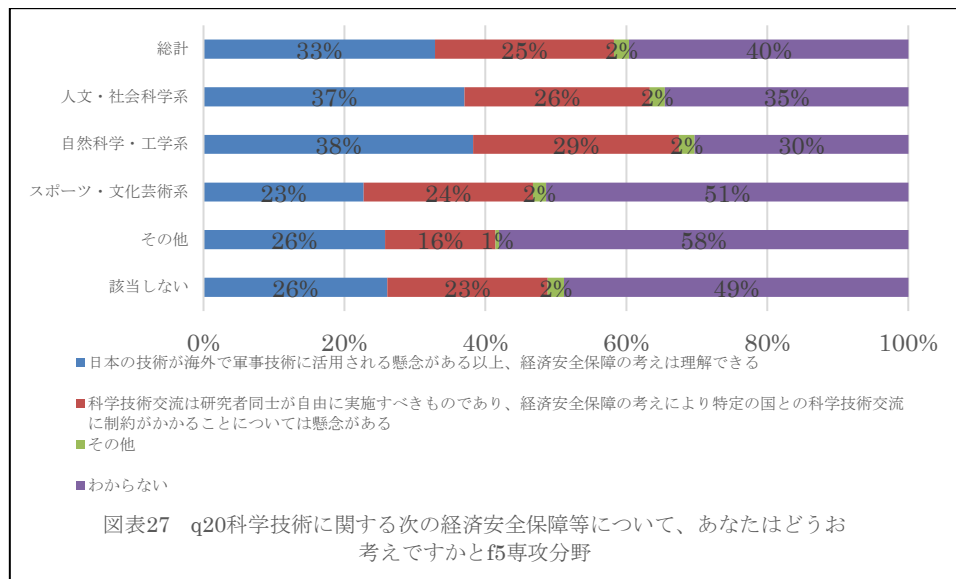
⑩ q20 科学技術に関する次の経済安全保障等について、あなたはどうか×q14 人的国際交流を進める上で、どの地域の国々との交流に、最も重点を置くべきか

経済安全保障では主に中国への技術流出防止を主に念頭に置いていることから、q14 で中国を選んだ人は q20 で「経済安全保障の考えは理解できる」を選ぶ可能性が高いのではないかと考えられる。実際のデータを見ると図表 26 のように「経済安全保障の考えは理解できる」国別に見ると中国は 34%となっており全体平均の 33%よりは少し高いがそれほどでもないことが分かる。



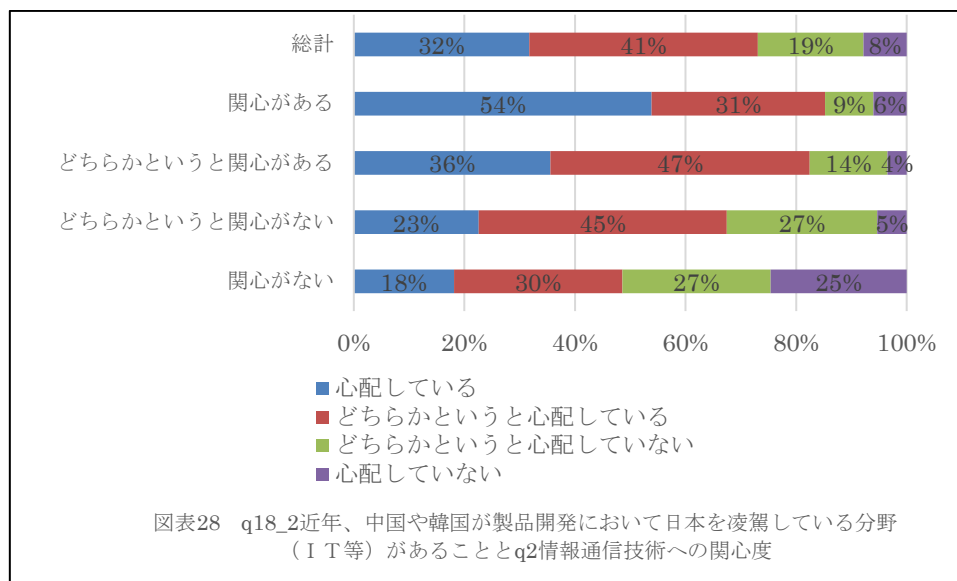
⑪ q20 科学技術に関する次の経済安全保障等について、あなたはどうお考えですか×f5 専攻分野

平均すると理工系出身の方が経済安全保障の考えは理解できるのではないかという仮説を立てた。q20 科学技術に関する次の経済安全保障等について、あなたはどうお考えですかと f5 専攻分野について示したのが図表 27 である。確かに「経済安全保障の考えは理解できる」割合が最も高いのは「自然科学・工学系」となっており、38%である。次いで、「人文・社会科学系」でも 37%は「経済安全保障の考えは理解できる」としており、両者の差は小さい。なお、ここでは統計学的な順序性がない尺度を使っているためガンマは計算できない。



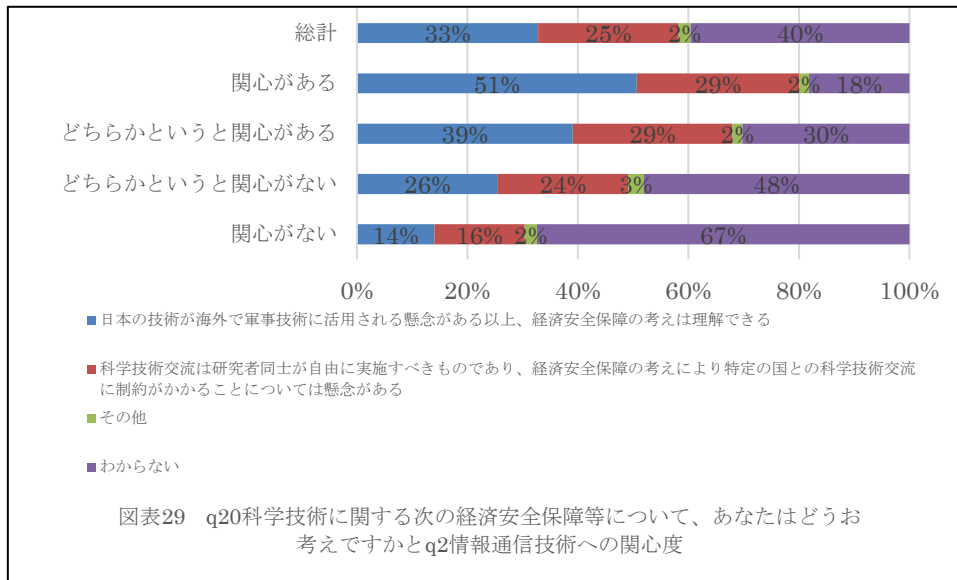
⑫ q18.2 近年、中国や韓国が製品開発において日本を凌駕している分野(IT等)があることと q2 情報通信技術への関心度

一般的に、IT、AI、量子、創薬などに関心のある人は国際競争を意識することが多いと思われるため、q2 で情報通信技術への関心が高い人は q18.2 で「心配している」を選ぶ可能性が高いのではないかという仮説がある。それを確かめるために q2 と q18.2 を調べたところ、図表 28 となり、ガンマは 0.383 と僅かに高く、正の相関となっている。即ち、情報通信技術への関心が高い人は q18.2 で「心配している」を選ぶ可能性が高い。



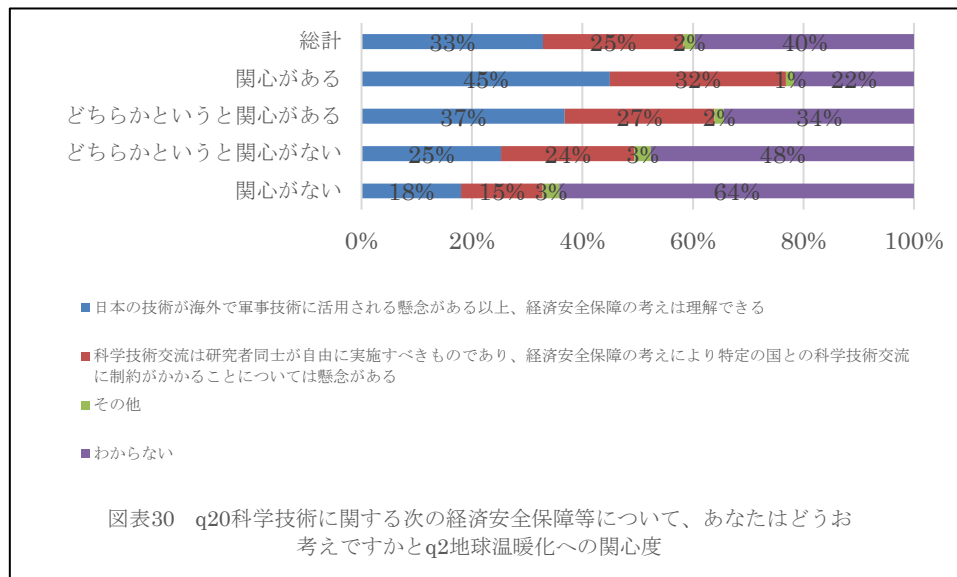
⑬ q20 科学技術に関する次の経済安全保障等について、あなたはどうお考えですかと q2 情報通信技術への関心度

一般的に、IT、AI、量子、創薬などに関心のある人は国際競争を意識することが多いと思われるため、q2 で情報通信技術への関心が高い人は q20 で「経済安全保障の考えは理解できる」を選ぶ可能性が高いのではないかという仮説も立てられる。図表 29 に分析結果を示した。列が順序尺度にならないためガンマは算出できないが、関心が高いほど「経済安全保障の考えは理解できる」が高くなっていることは明らかである。「関心がある」で「経済安全保障の考えは理解できる」51%などとなっている。



⑭ q20 科学技術に関する次の経済安全保障等について、あなたはどうお考えですかと q2 地球温暖化への関心度

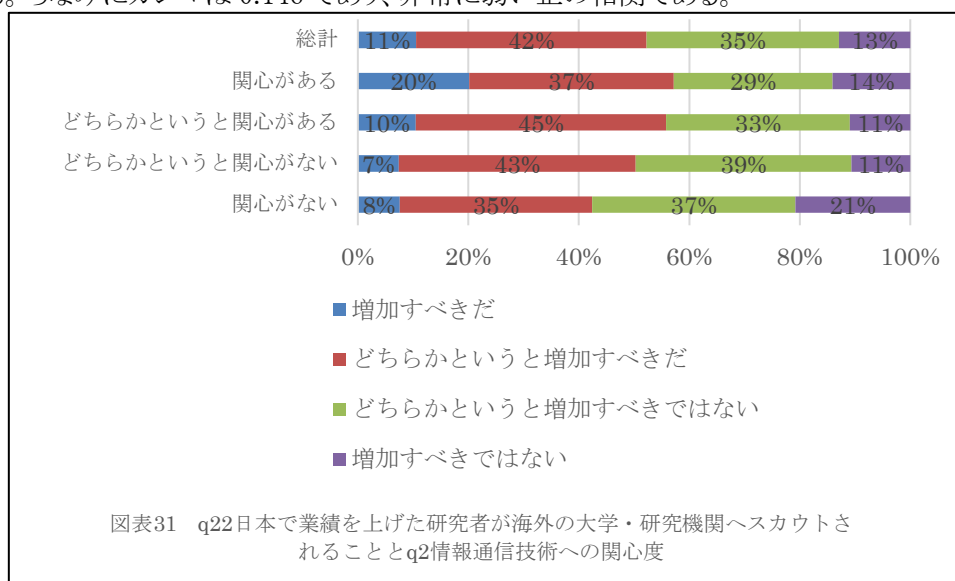
一般的に、環境問題などに関心のある人は国際協調を意識することが多いと思われる。そこで q2 で地球温暖化を選んだ人は、q20 で「懸念がある」を選ぶ可能性が高いのではないかとこの仮説が立てられる。実際のデータを見てみると図表 30 となり、「関心がある」ほど「経済安全保障の考えは理解できる」ようになっており、仮説と相反していることが判明した。なお、列は順序尺度ではないためガンマの算出は行っていない。



⑮ q22 日本で業績を上げた研究者が海外の大学・研究機関へスカウトされることと q2 情報通信技術への関心度

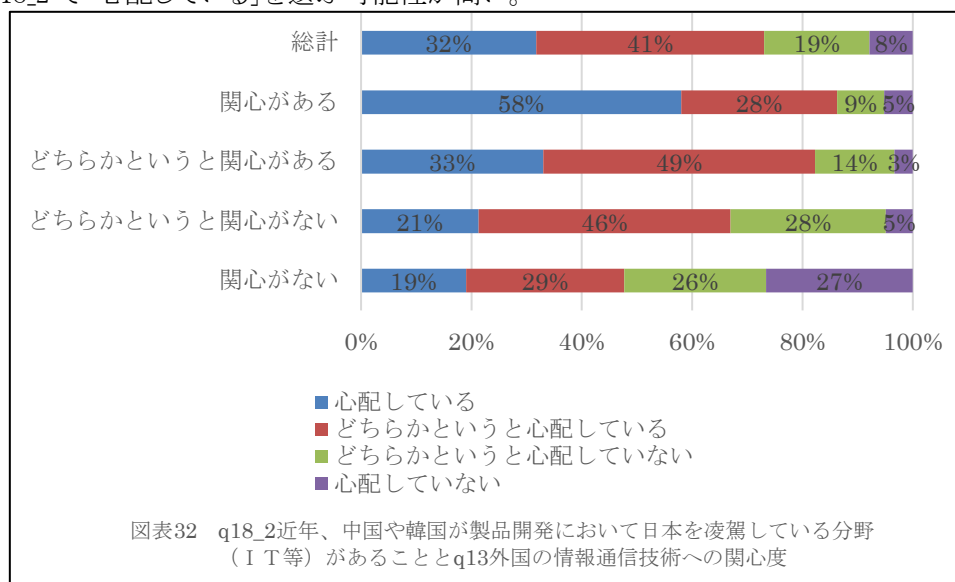
一般的に、IT、AI、量子、創薬などに関心のある人は国際競争を意識することが多いと思われるため、q2 で情報通信技術への関心が高い人は q22 で「増加すべきではない」を選ぶ可能性が高

いのではないかという仮説も立てられる。実際にデータを見てみると図表 31 となり、q2 で情報通信技術への関心が高い人は q22 で「増加すべきではない」を選ぶ可能性が高いとは言えないことが分かる。ちなみにガンマは 0.146 であり、非常に弱い正の相関である。



⑩ q18.2 近年、中国や韓国が製品開発において日本を凌駕している分野 (IT 等) があることと q13 外国の情報通信技術への関心度

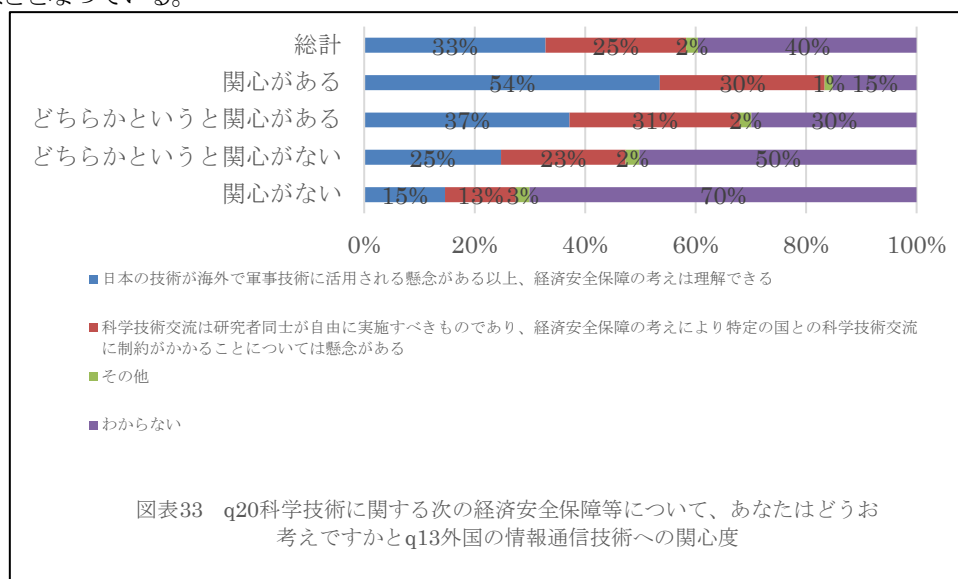
一般的に、IT、AI、量子、創薬などに関心のある人は国際競争を意識することが多いと思われるため、q13 で外国の情報通信技術への関心が高い人は q18.2 で「心配している」を選ぶ可能性が高いのではないかという仮説がある。それを確かめるために q13 と q18.2 を調べたところ、図表 32 となり、ガンマは 0.408 と僅かに高く、正の相関となっている。即ち、情報通信技術への関心が高い人は q18.2 で「心配している」を選ぶ可能性が高い。



⑪ q20 科学技術に関する次の経済安全保障等について、あなたはどうお考えですかと q13 外国の情報通信技術への関心度

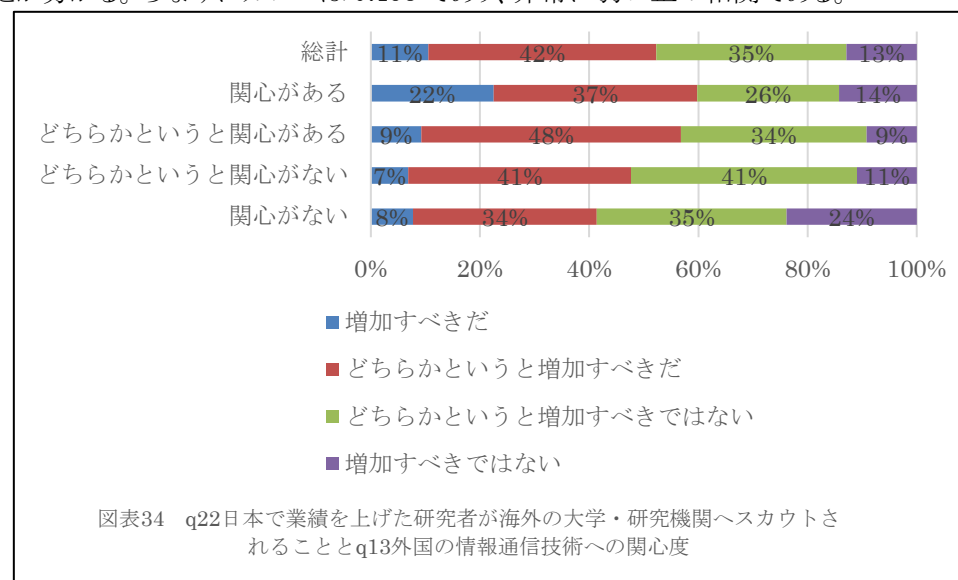
一般的に、IT、AI、量子、創薬などに関心のある人は国際競争を意識することが多いと思われるため、q13 で外国の情報通信技術への関心が高い人は q20 で「経済安全保障の考えは理解できる」を選ぶ可能性が高いのではないかという仮説も立てられる。図表 33 に分析結果を示した。列が

順序尺度にならないためガンマは算出できないが、関心が高いほど「経済安全保障の考えは理解できる」が高くなっていることは明らかである。「関心がある」で「経済安全保障の考えは理解できる」54%などとなっている。



⑱ q22 日本で業績を上げた研究者が海外の大学・研究機関へスカウトされることと q13 外国の情報通信技術への関心度

一般的に、IT、AI、量子、創薬などに関心のある人は国際競争を意識することが多いと思われるため、q13で外国の情報通信技術への関心が高い人はq22で「増加すべきではない」を選ぶ可能性が高いのではないかという仮説も立てられる。実際にデータを見てみると図表34となり、q13で情報通信技術への関心が高い人はq22で「増加すべきではない」を選ぶ可能性が高いとは言えないことが分かる。ちなみにガンマは0.193であり、非常に弱い正の相関である。

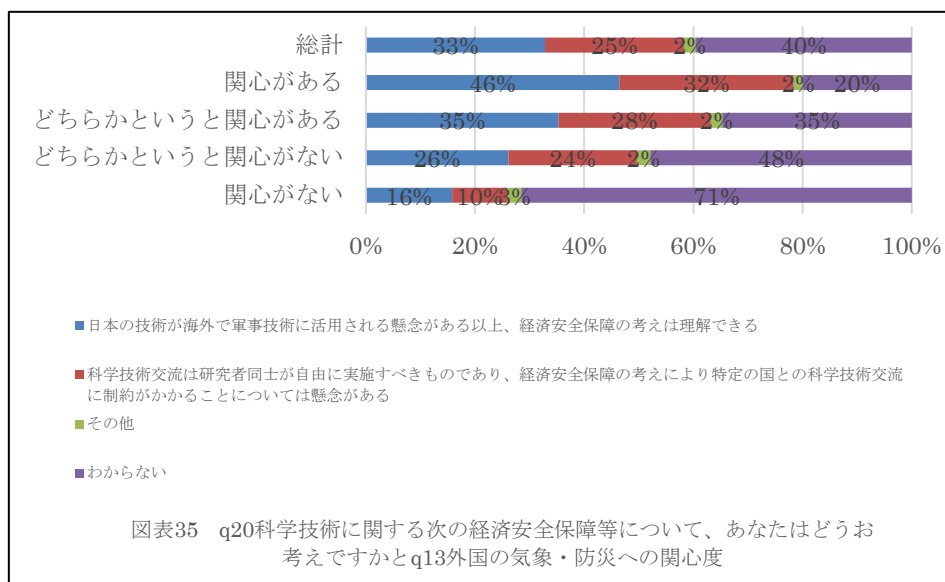


⑲ q20 科学技術に関する次の経済安全保障等について、あなたはどのようにお考えですかと q13 外国の気象・防災への関心度

一般的に、環境問題などに関心のある人は国際協調を意識することが多いと思われる。そこでq13で外国の気象・防災を選んだ人は、q20で「懸念がある」を選ぶ可能性が高いのではないかという仮説が立てられる。実際のデータを見てみると図表35となり、「関心がある」ほど「経済

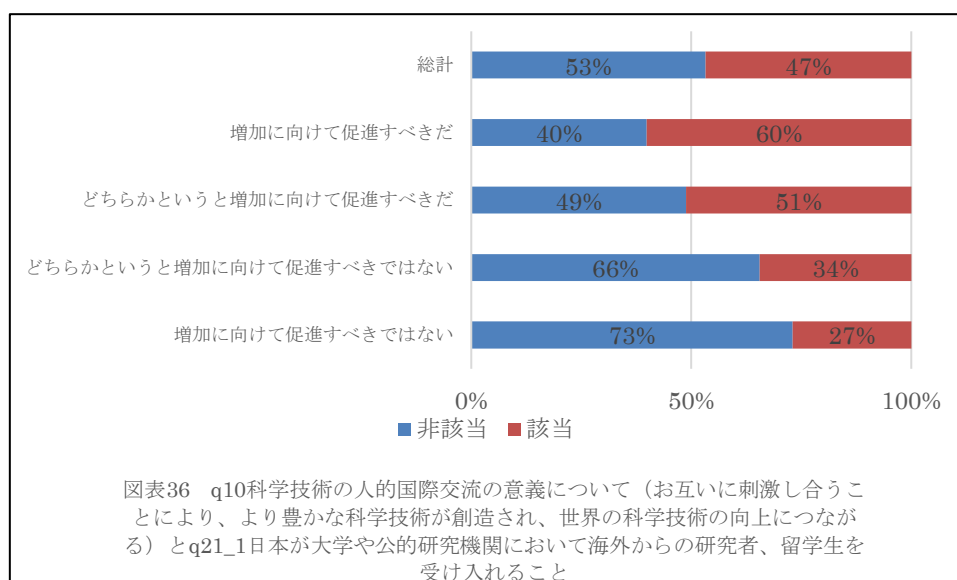


安全保障の考えは理解できる」ようになっており、仮説の逆であることが判明した。なお、列は順序尺度ではないためガンマの算出は行っていない。



⑩ q10 科学技術の人的国際交流の意義について(お互いに刺激し合うことにより、より豊かな科学技術が創造され、世界の科学技術の向上につながる)とq21\_1 日本が大学や公的研究機関において海外からの研究者、留学生を受け入れること

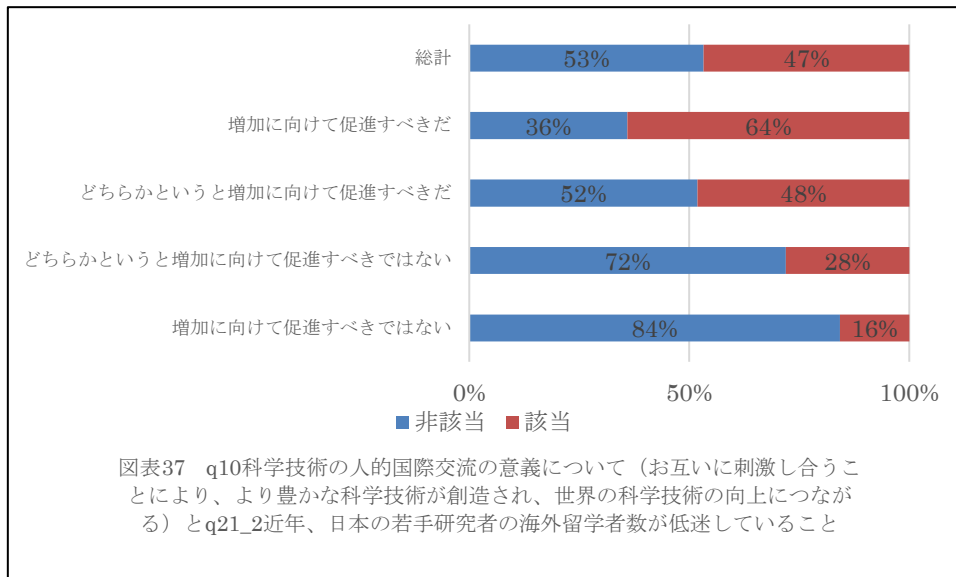
国際交流による知的触発が研究を進めるうえで重要と考える人は、派遣・招聘が重要と考えているはずであるという仮説から、q10で「お互いに刺激」を選んだ人はq21\_1,q21\_2で「促進すべきだ」を選ぶ可能性が高いのではないかと仮説を立てられる。実際のデータを見ると、図表36となっており、該当する割合が高いほど、「促進すべきだ」を選ぶ可能性が高くなっている。ガンマは0.336と弱いが正の相関を示している。



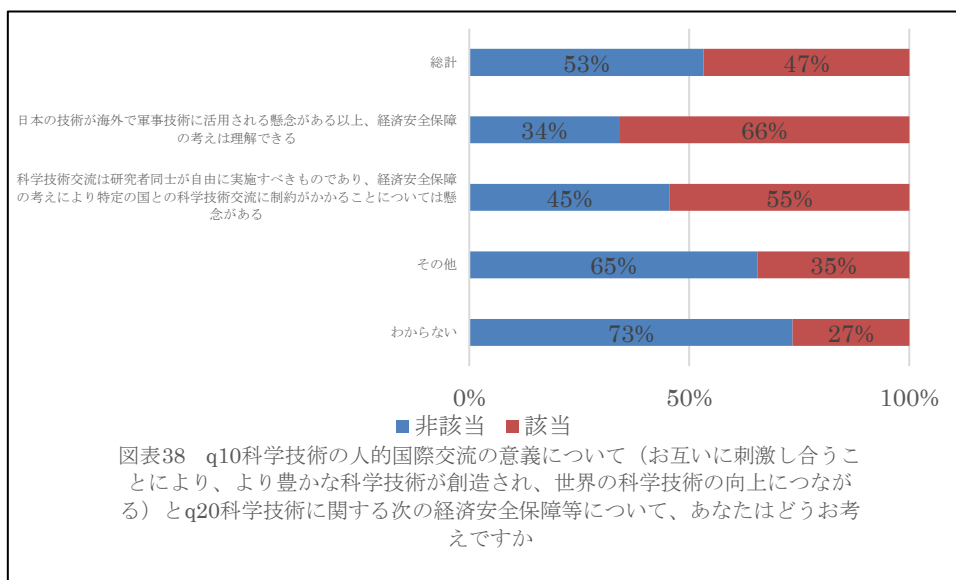
⑪ q10 科学技術の人的国際交流の意義について(お互いに刺激し合うことにより、より豊かな科学技術が創造され、世界の科学技術の向上につながる)とq21\_2 近年、日本の若手研究者の海外留学者数が低迷していること



次に q21\_2 との関係を示すと図表 37 となり、ガンマは 0.445 となり比較的低いが正の相関を示している。

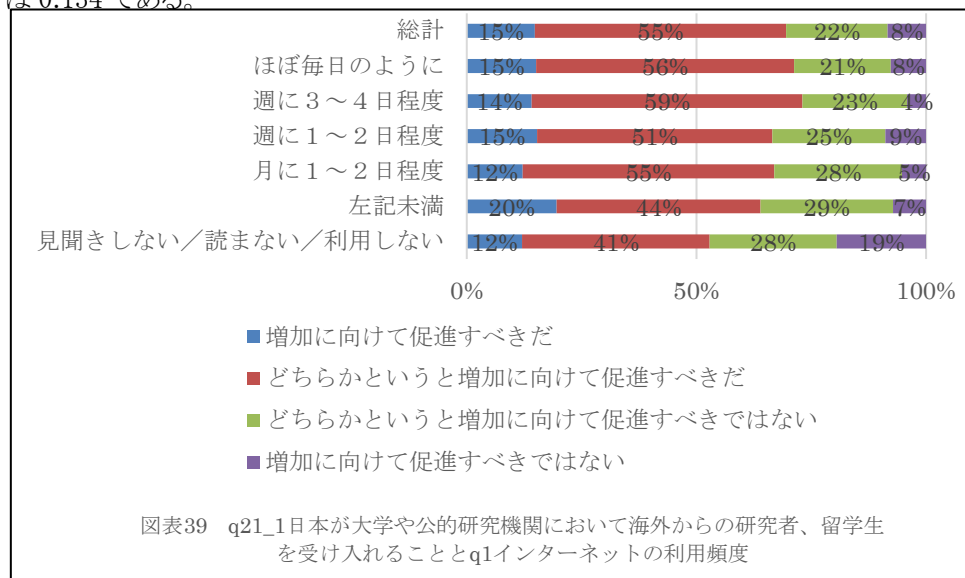


② q10 科学技術の人的国際交流の意義について（お互いに刺激し合うことにより、より豊かな科学技術が創造され、世界の科学技術の向上につながる）と q20 科学技術に関する次の経済安全保障等について、あなたはどうお考えですか  
国際交流による知的触発が研究を進めるうえで重要と考える人は、経済安全保障のマイナス面を心配すると思われるため q10 で「お互いに刺激」を選んだ人は q20 で「懸念がある」を選ぶ可能性が高いのではないかという仮説が考えられる。実際のデータを見ると図表 38 となり、「経済安全保障の考えは理解できる」の割合が最も高く、「懸念がある」よりも大きくなっている。



③ q21\_1 日本が大学や公的研究機関において海外からの研究者、留学生を受け入れることと q1 インターネットの利用頻度

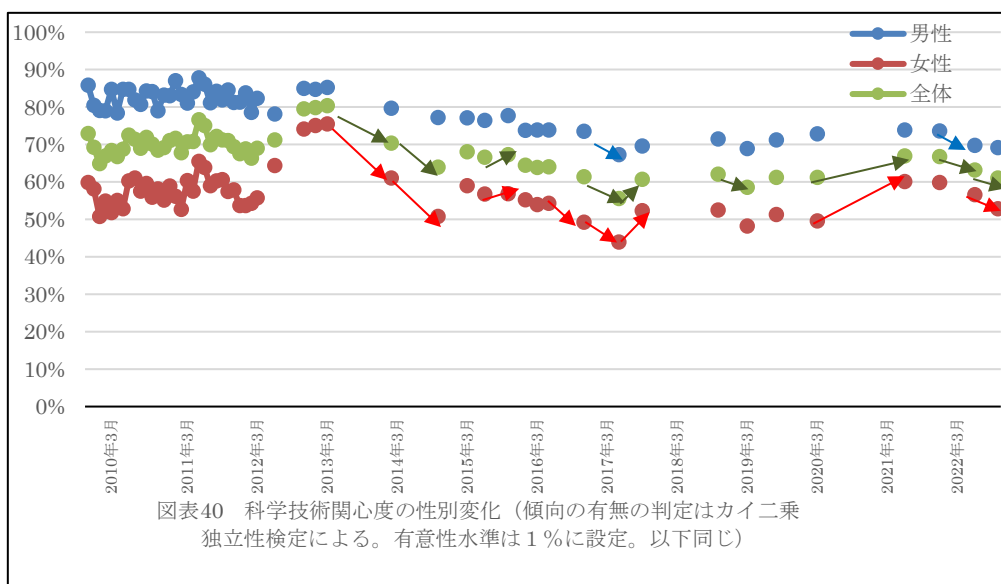
最近、留学生 30 万人計画を上方修正するという方針が出されて、(特にネット上で)賛否の声が上がっているようなので、q21\_1 に関して、q1 においてインターネット、SNS の利用頻度が高い人ほど反対する傾向があるかという仮説が立てられる。実際のデータを見ると、図表 39 となりインターネットの利用頻度と海外からの研究者、留学生を受け入れることの促進度とはあまり関係しない。ガンマは 0.134 である。

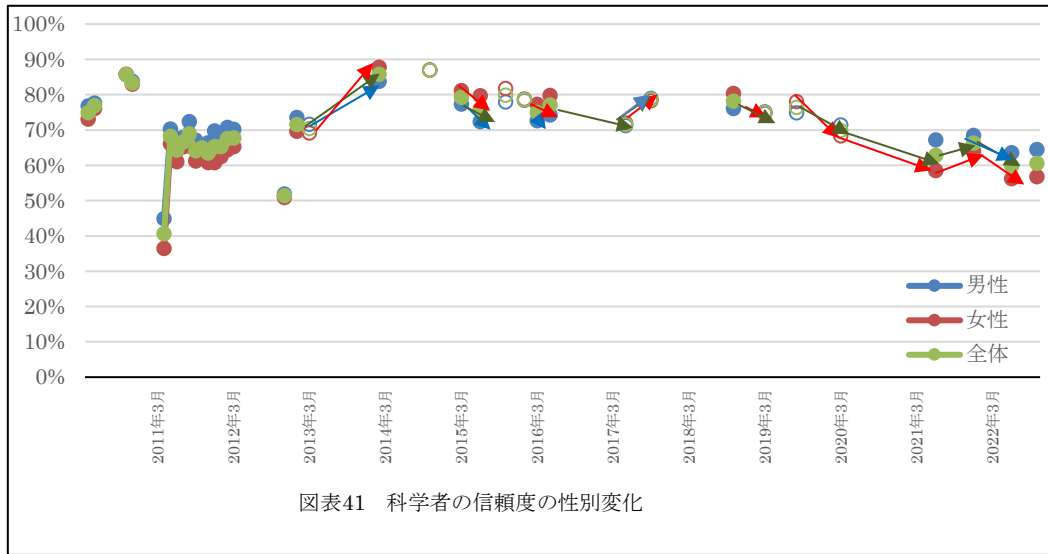


### (3) 人的国際交流以外の科学技術政策に関する国民の意識

#### ① 科学技術に対する関心・科学者への信頼度

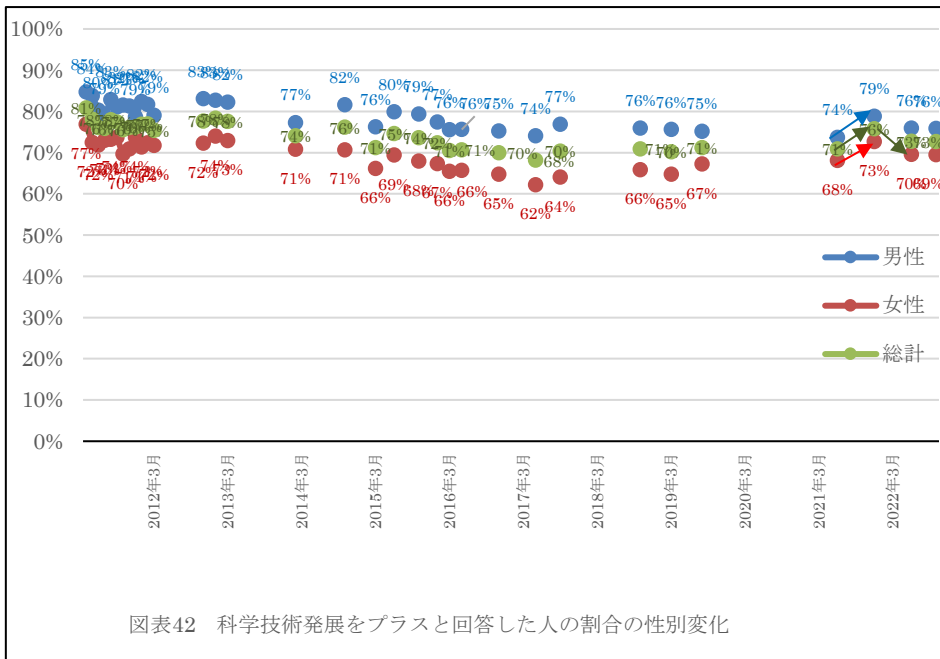
科学技術関心度(図表 40)は女性と全体傾向が低下傾向にある。科学者の信頼度(図表 41)は少し回復している。

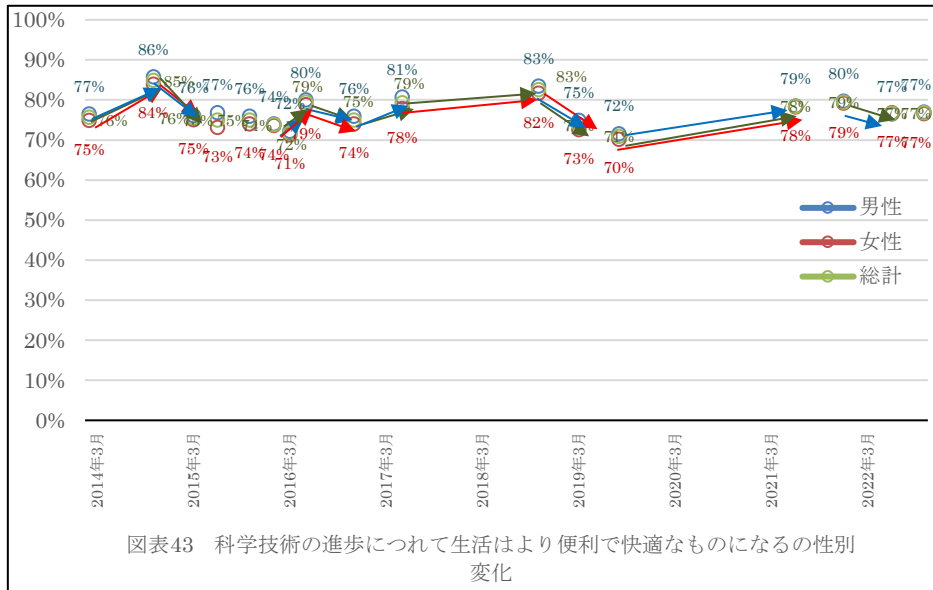




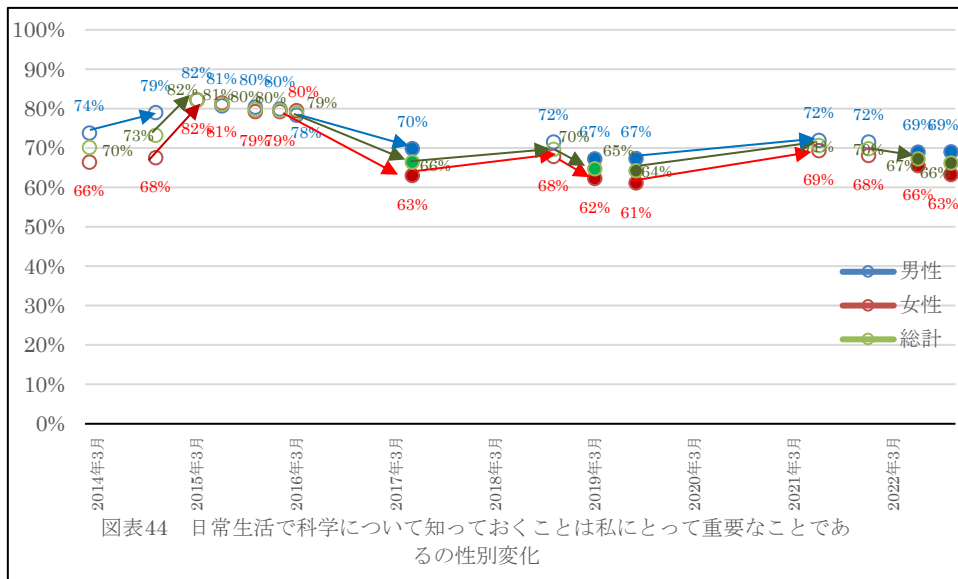
② 科学技術に対する評価

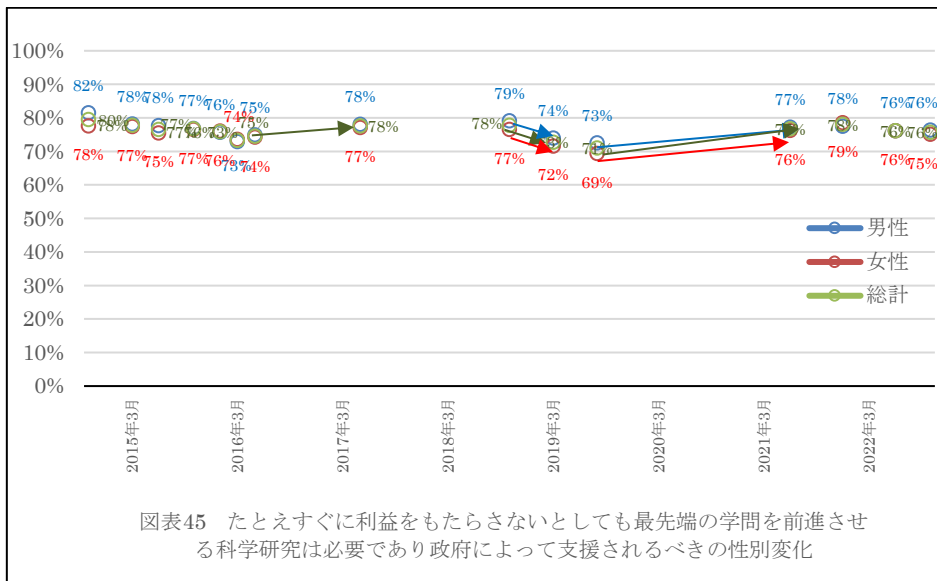
科学技術発展をプラスと回答した人の割合(図表 42)、「科学技術の進歩につれて生活はより便利で快適なものになる」(図表 43)では横ばいである。





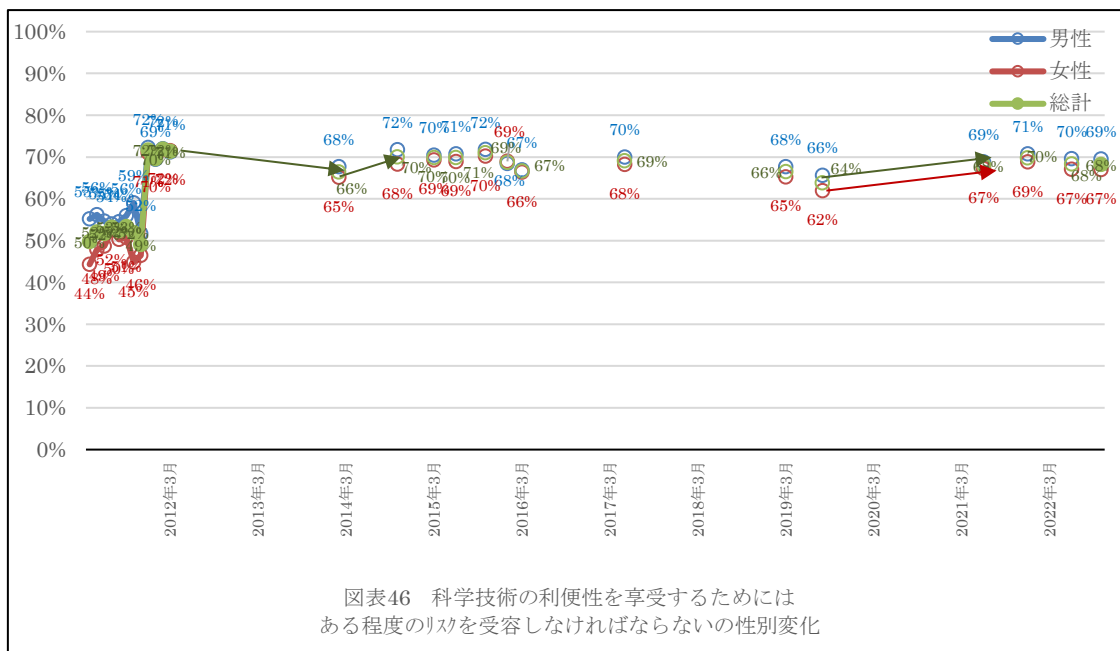
また、「日常生活で科学について知っておくことは私にとって重要なことである」(図表 44)、「たとえすぐに利益をもたらさないとしても最先端の学問を前進させる科学研究は必要であり政府によって支援されるべき」(図表 45)では男女ともに変化は見られない傾向にある。

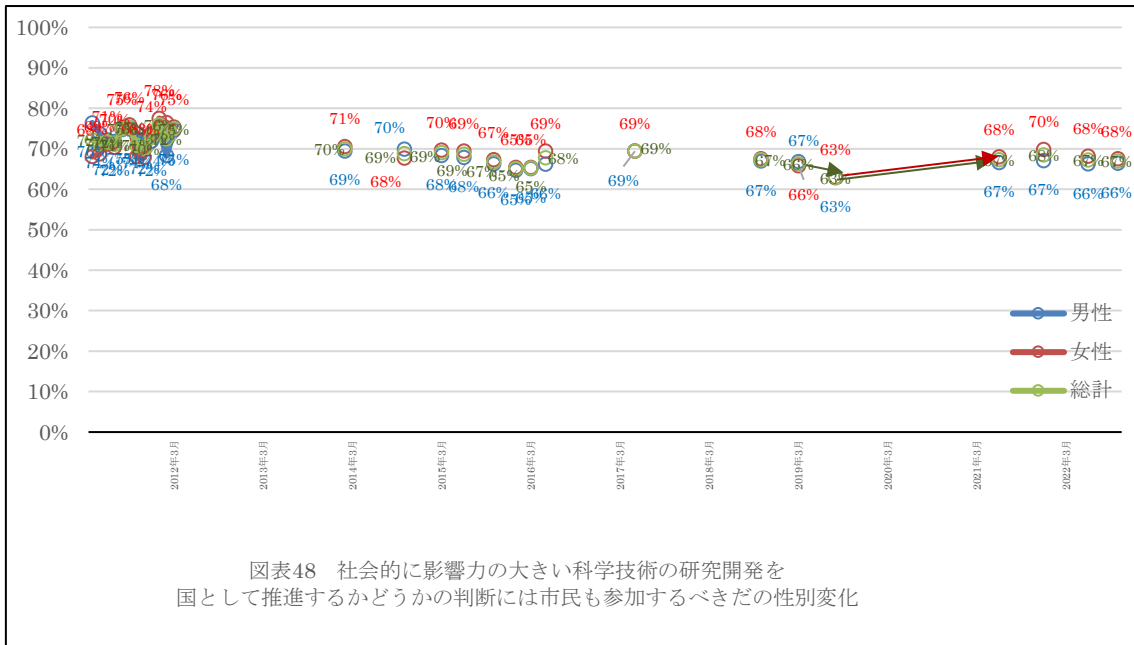
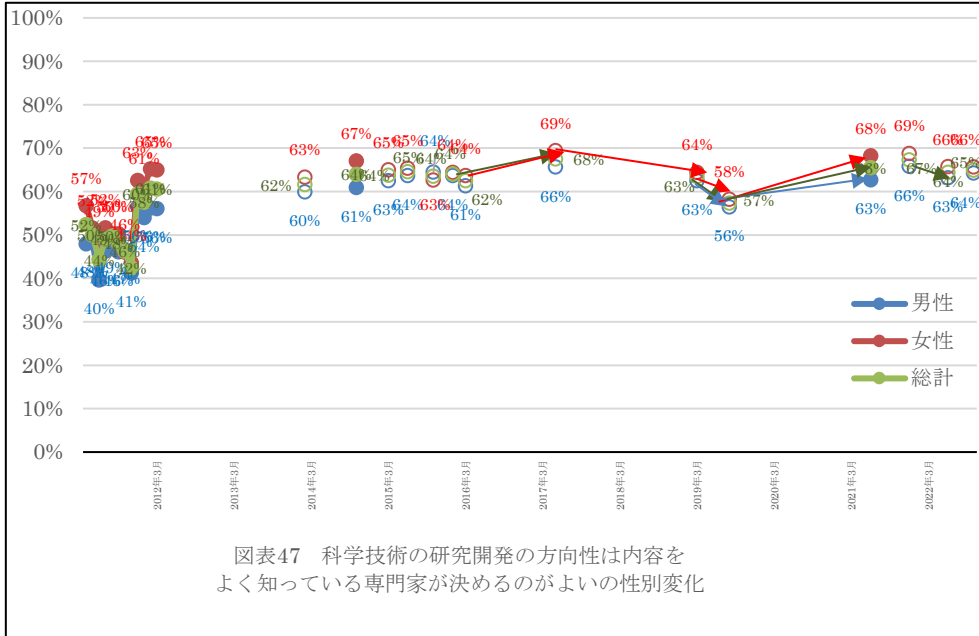


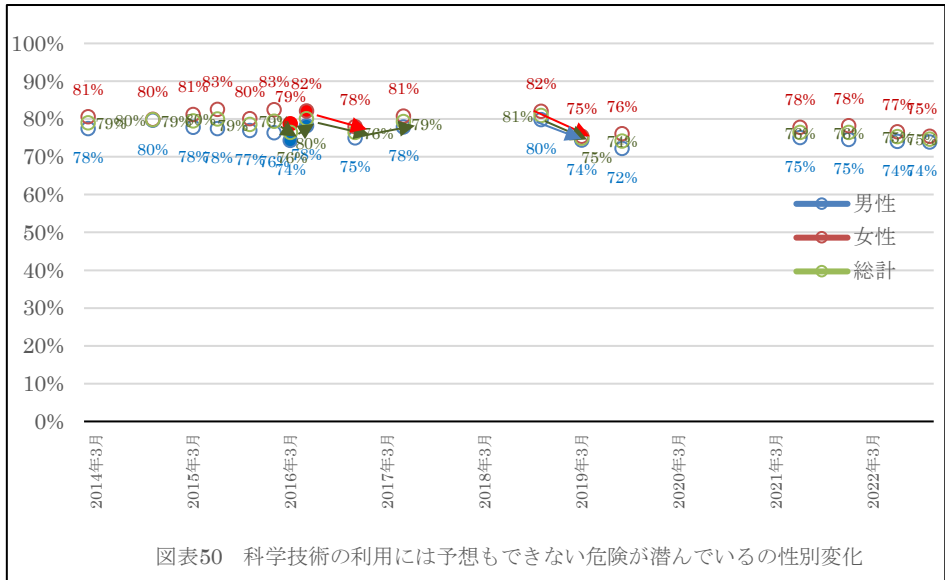
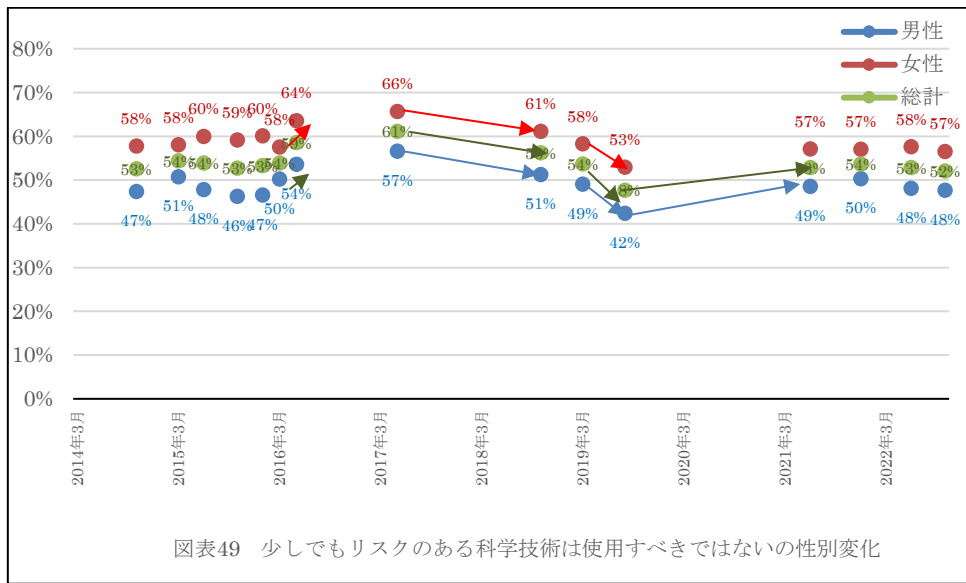


### ③ 科学技術に対する意見の変遷

さらに、科学技術に対する意見の変遷を見ると(図表 46 から図表 50 まで)、特に総計、男性、女性別の時間変化は観察されていなかった。







#### ④ 科学技術に対する関心の性別変化

科学技術に対する関心の性別の経年変化を見ると(図表 51 から図表 70 まで)、

男性:統計的に有意な時間変化なし

女性:減少(「新しい技術や発明の利用(既存の知識を用いた新製品の開発など)に関心がある」(図表 63),「新しい科学的発見(観察や実験思考などに基づいた新事実や理論の発見など)に関心がある」(図表 64))

全体:統計的に有意な時間変化なし

などとなっており、全体的に減少傾向が見られた。

また、女性より男性の方の観測値が高いものは、

- ・「科学技術イノベーションによる経済、景気、国際競争力の向上に関心がある」(図表 51)、
- ・「資源・エネルギー問題対策に関心がある」(図表 53)、
- ・「新しい技術や発明の利用(既存の知識を用いた新製品の開発など)に関心がある」(図表 63)、
- ・「新しい科学的発見(観察や実験思考などに基づいた新事実や理論の発見など)に関心がある」(図表 64)、
- ・「新しい医学的発見(生体や疾病などに関する発見など)に関心がある」(図表 65)、
- ・「宇宙探査開発に関心がある」(図表 66)、
- ・「海洋探査開発に関心がある」(図表 67)、
- ・「原子力開発に関心がある」(図表 68)、
- ・「情報通信技術(インターネットや電子商取引情報、セキュリティ、ビッグデータなどの技術)に関心がある」(図表 69)、
- ・「数理科学(最近の数学の成果を応用した技術開発など)に関心がある」(図表 70)

である。

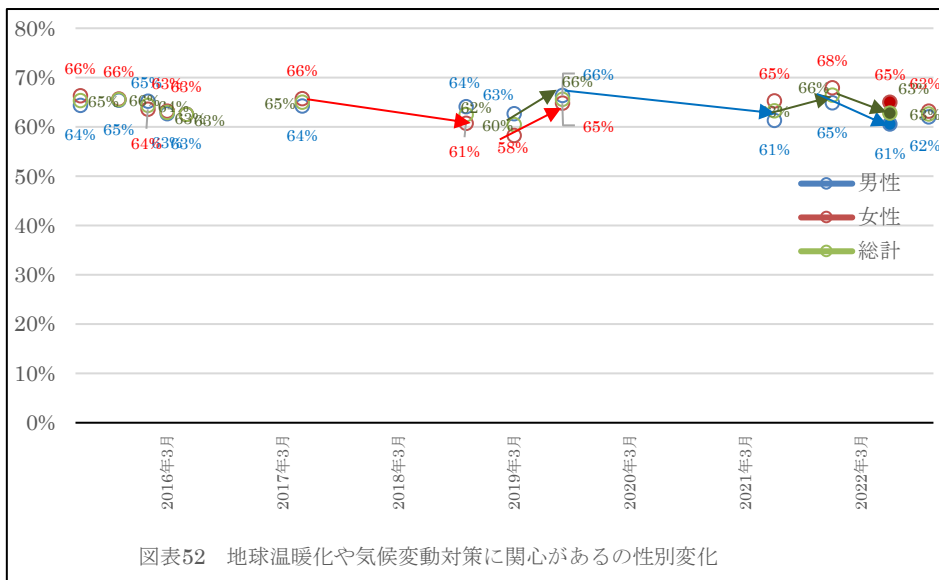
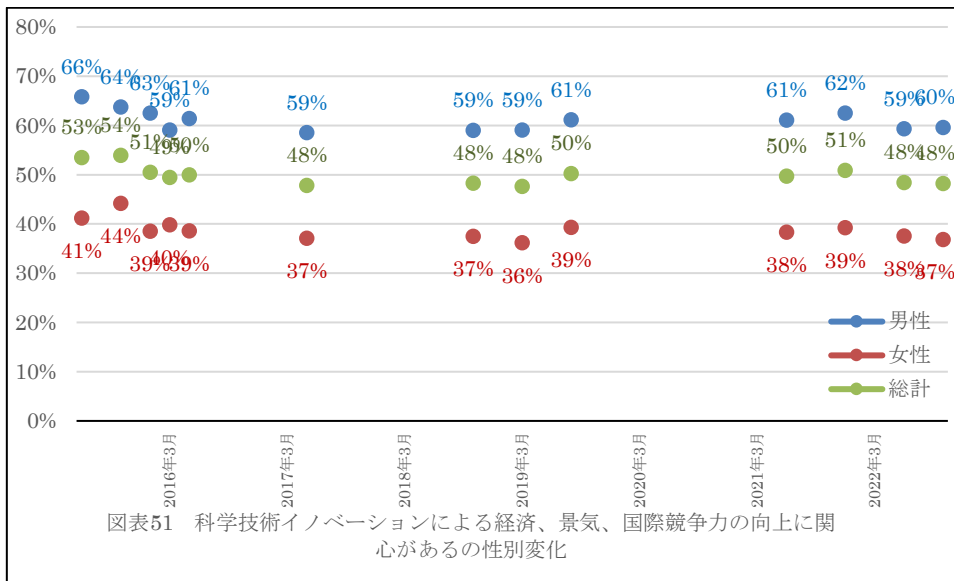
一方、男性より女性の方の観測値が高いものは、

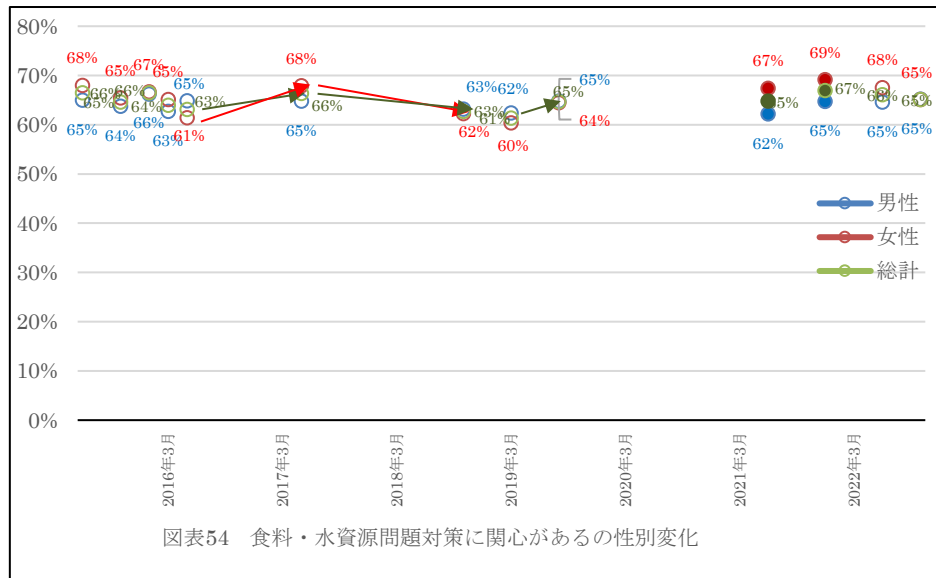
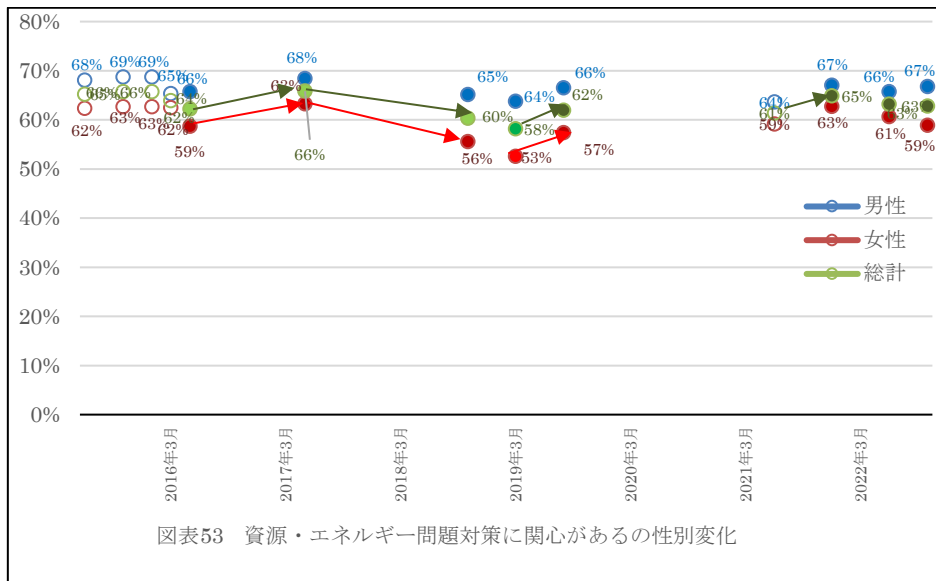
- ・「自然災害に対する防災・減災に関心がある」(図表 55)、
- ・「少子高齢化社会対策に関心がある」(図表 56)、
- ・「食の安全確保に関心がある」(図表 57)、
- ・「教育に関心がある」(図表 58)、
- ・「高水準医療の提供など健康や医療に関心がある」(図表 60)、
- ・「生活環境の保全に関心がある」(図表 61)、
- ・「自然環境の保全に関心がある」(図表 62)

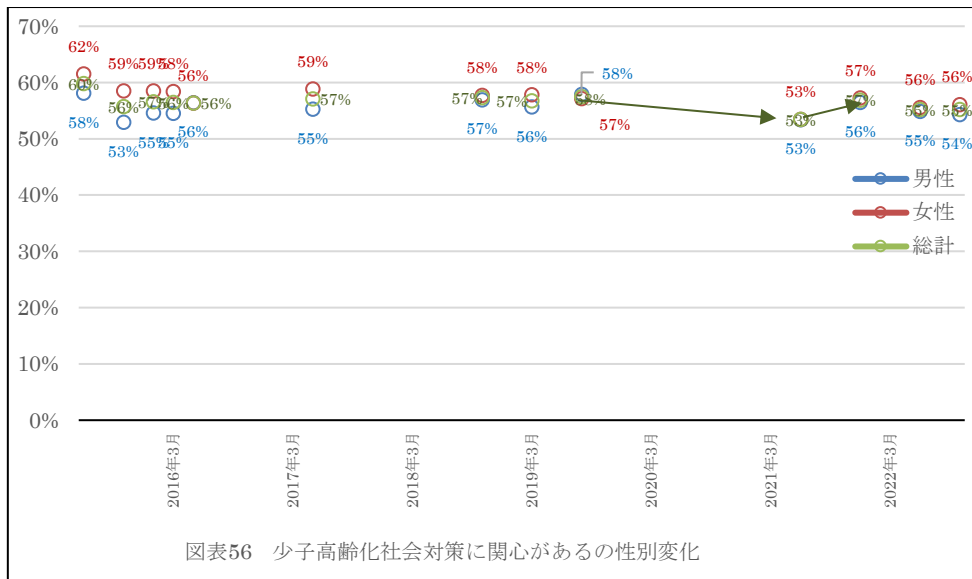
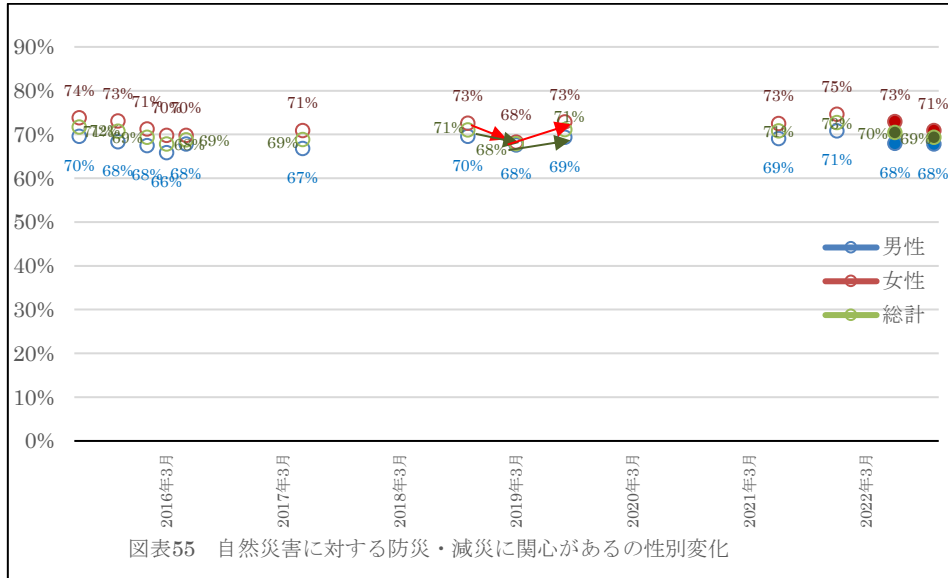
である。

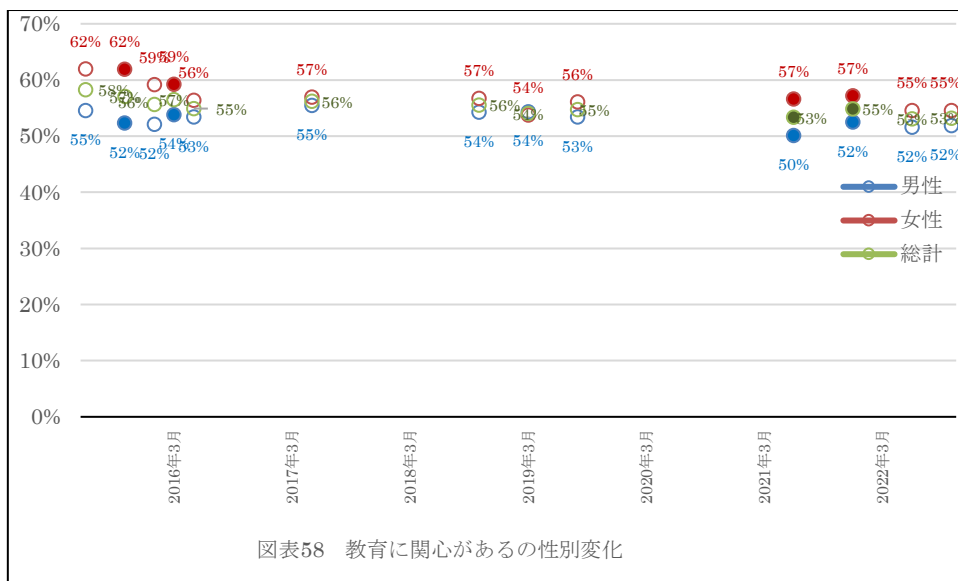
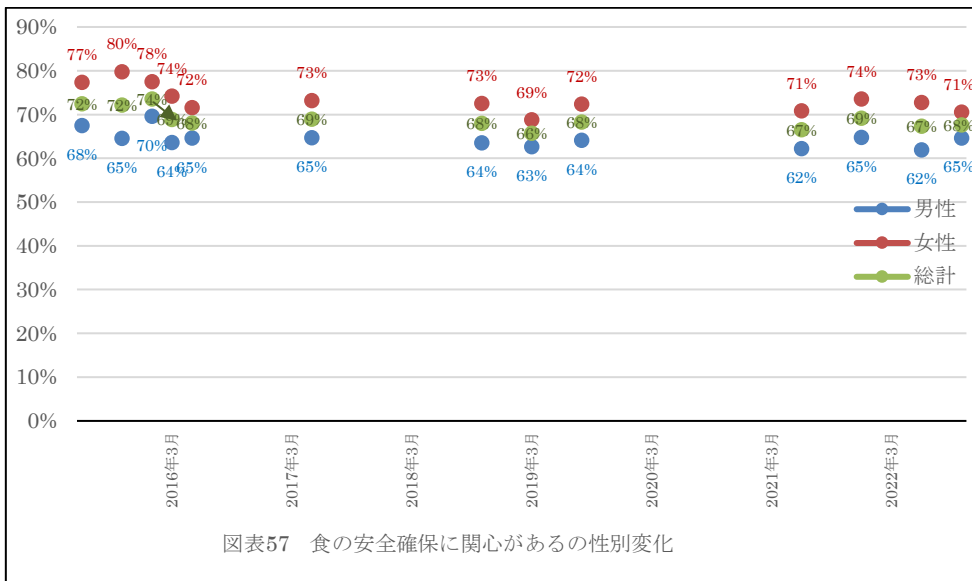
女性の方の観測値が高いものは、より社会的な課題が多く見られた。一方、男性の方の観測値が高いものは、より挑戦的でフロンティアな課題が多く見られた。

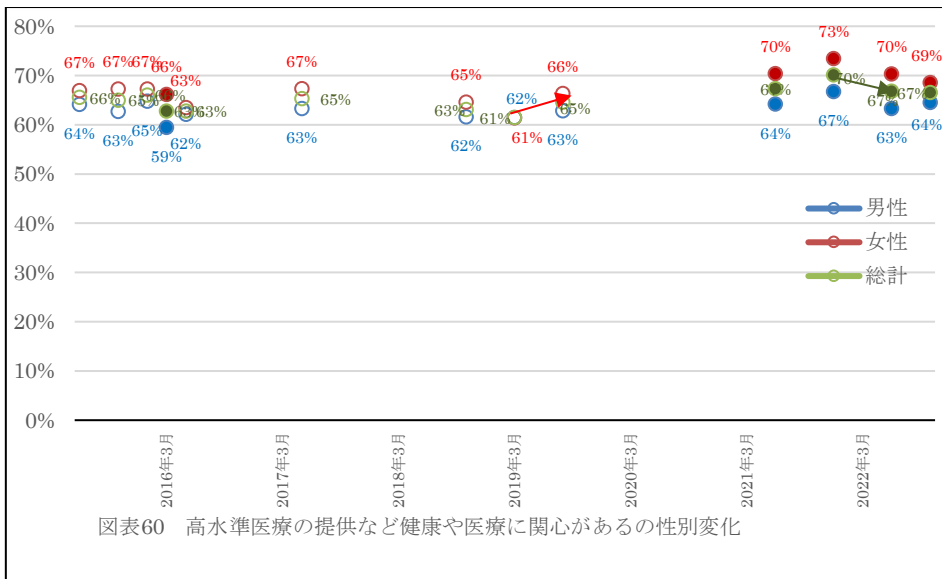
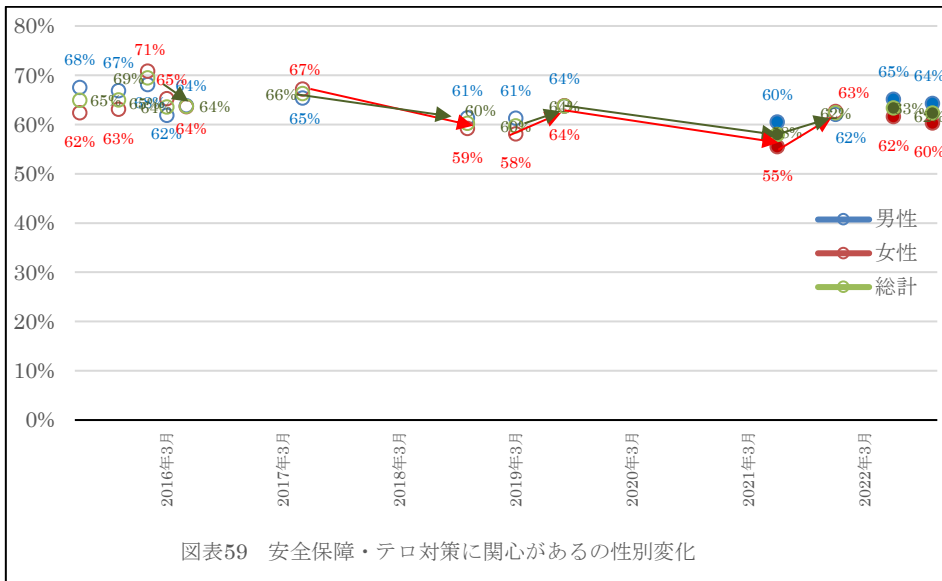


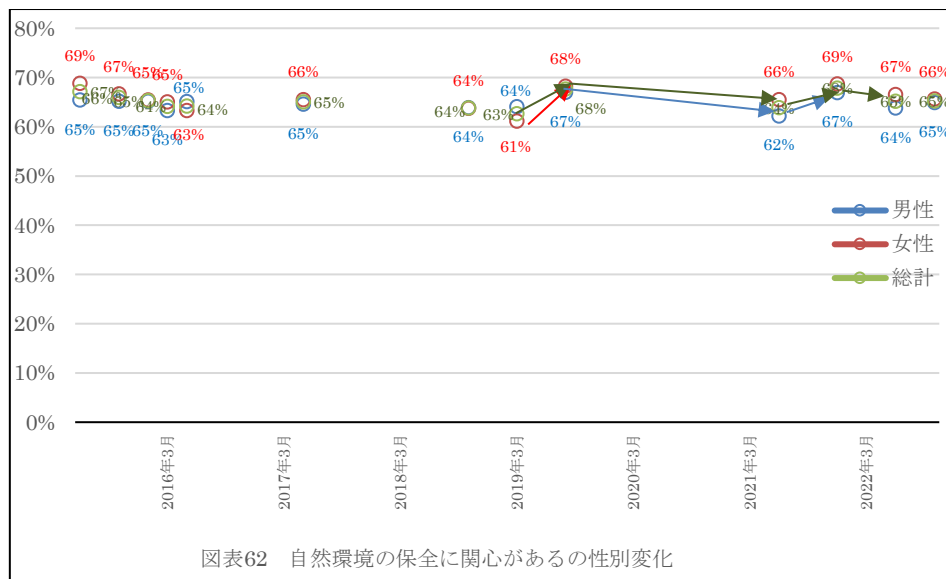
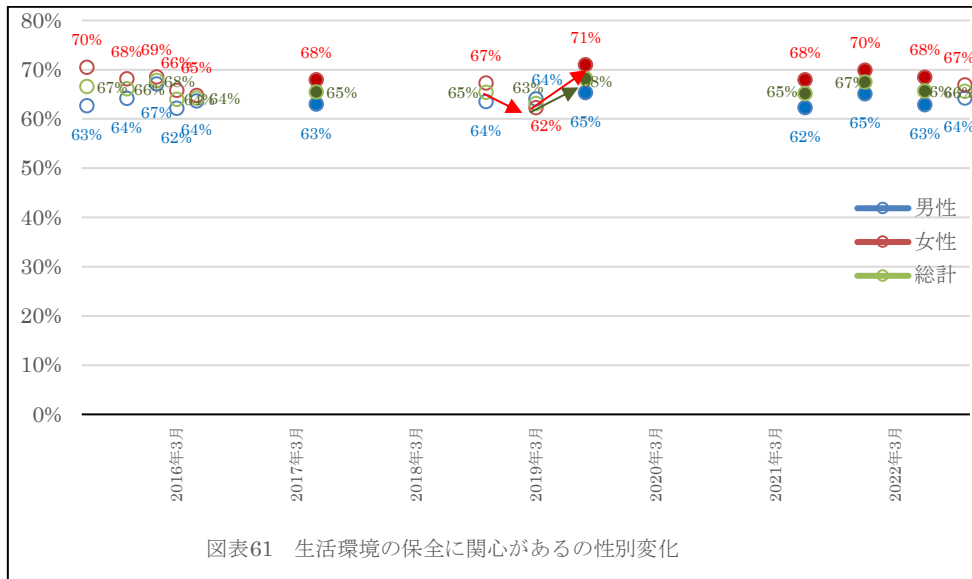


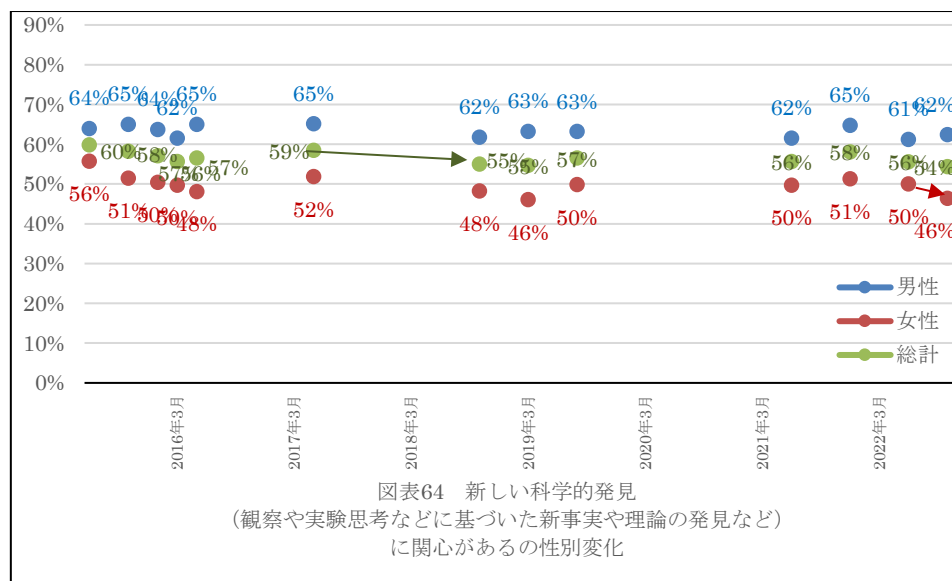
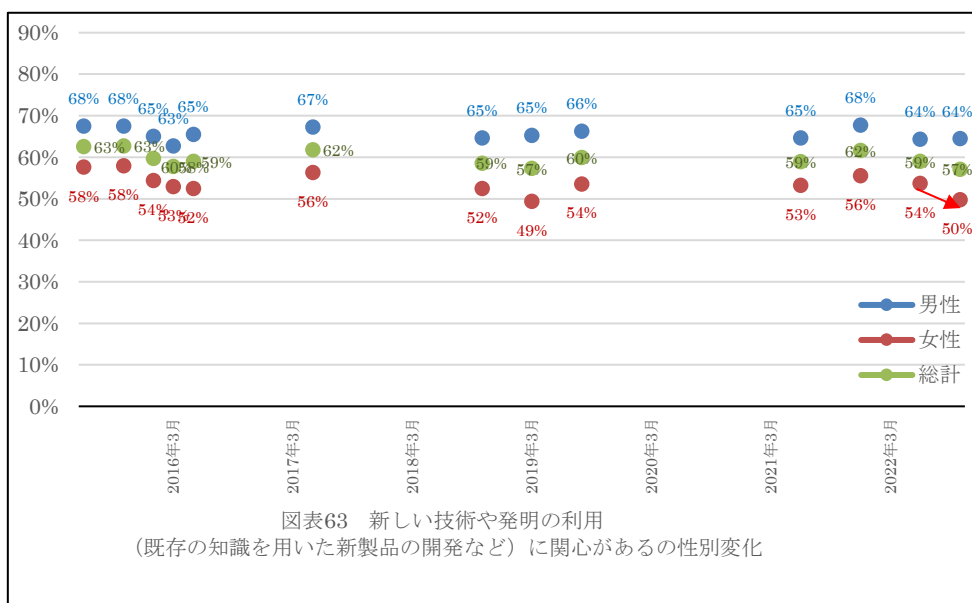


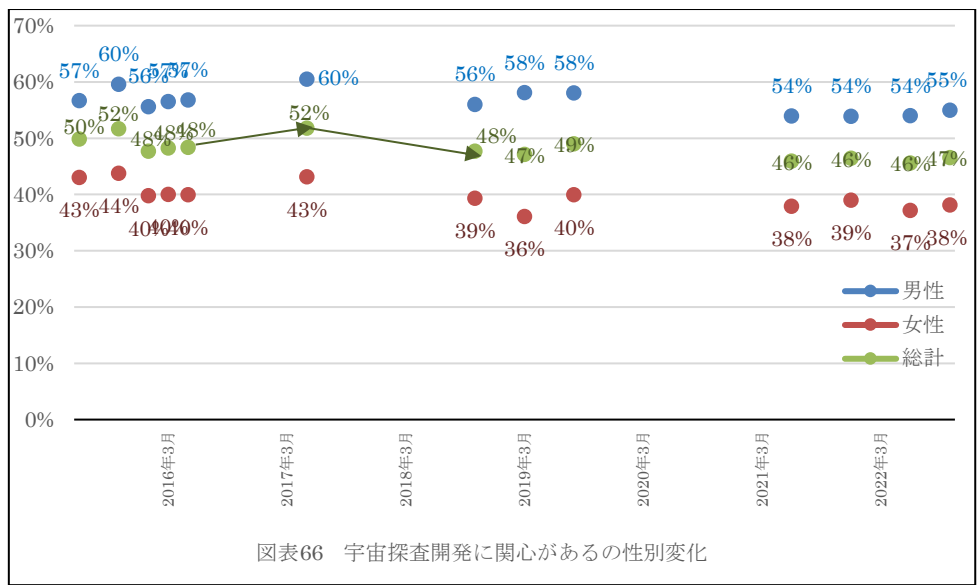
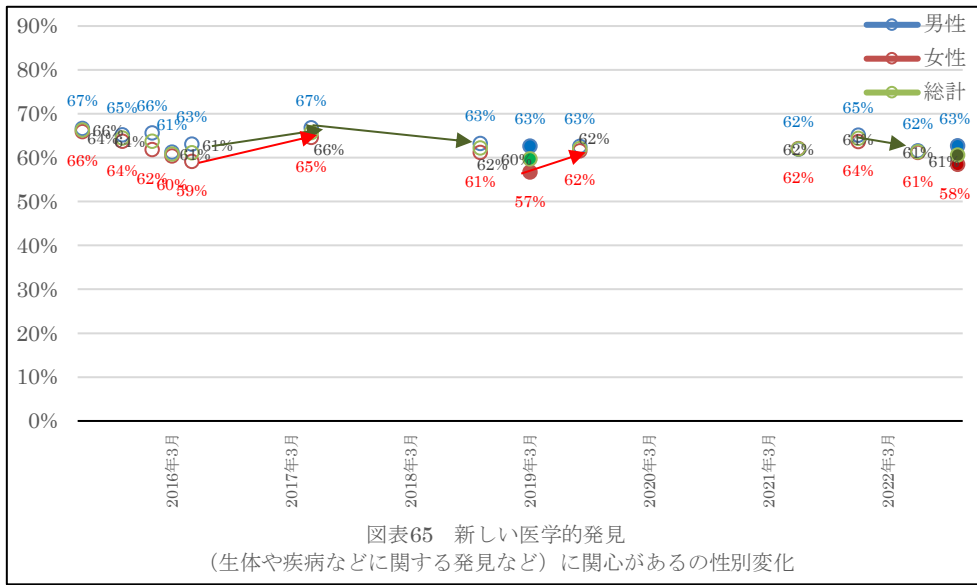




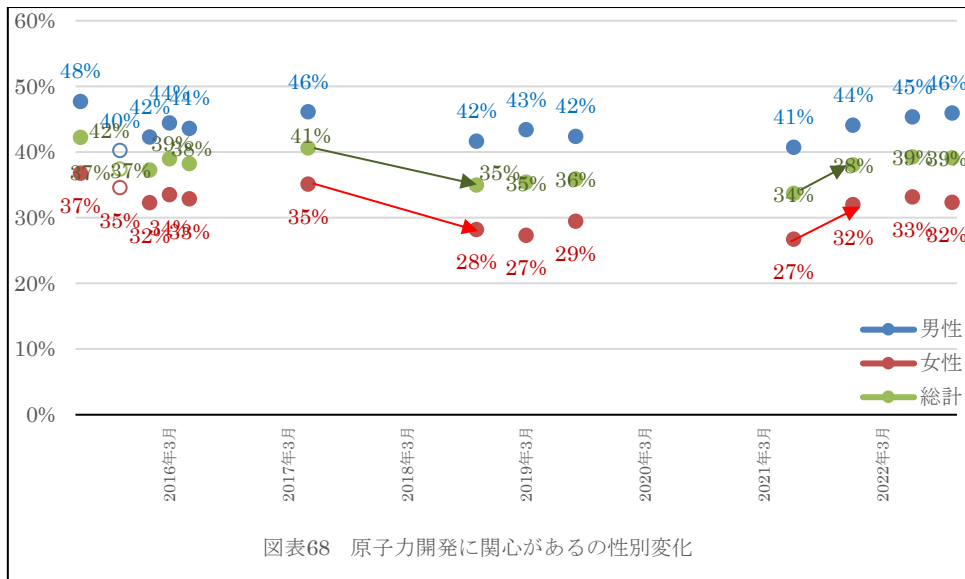
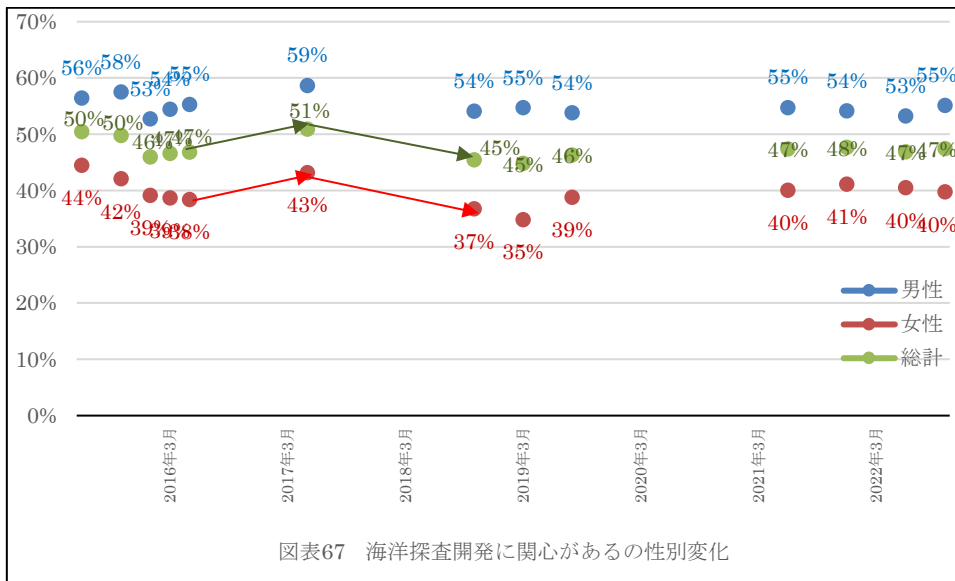


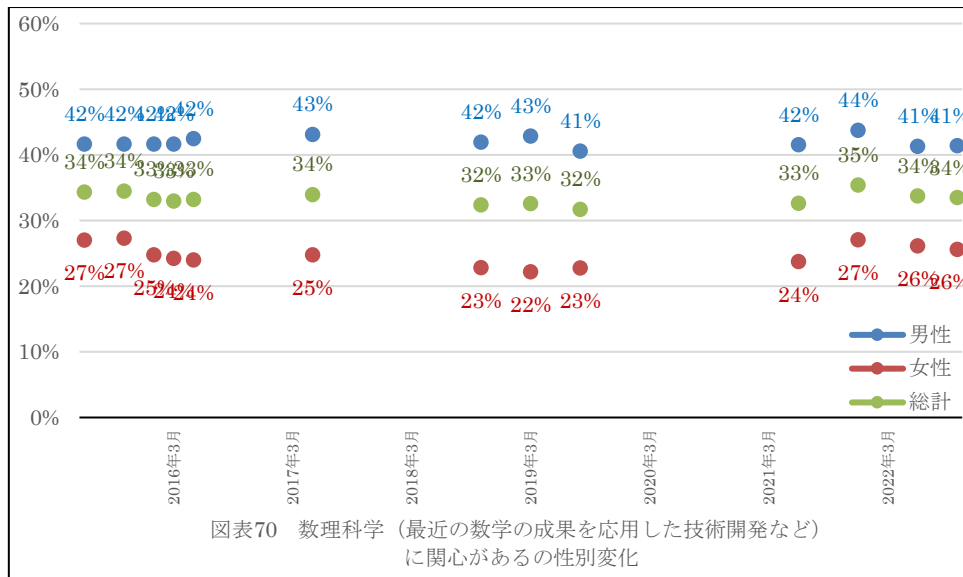
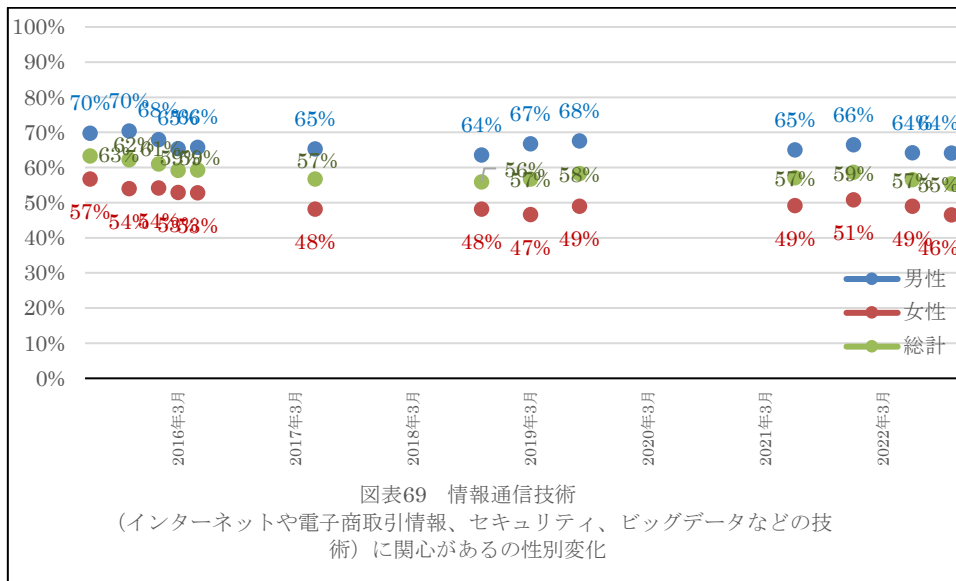










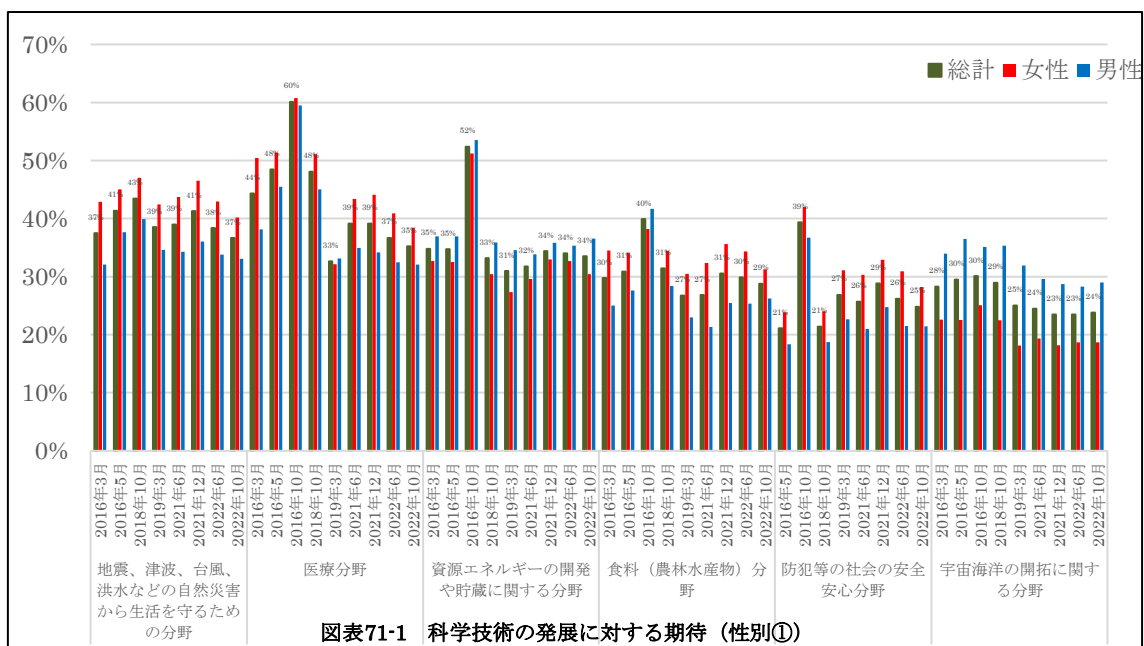


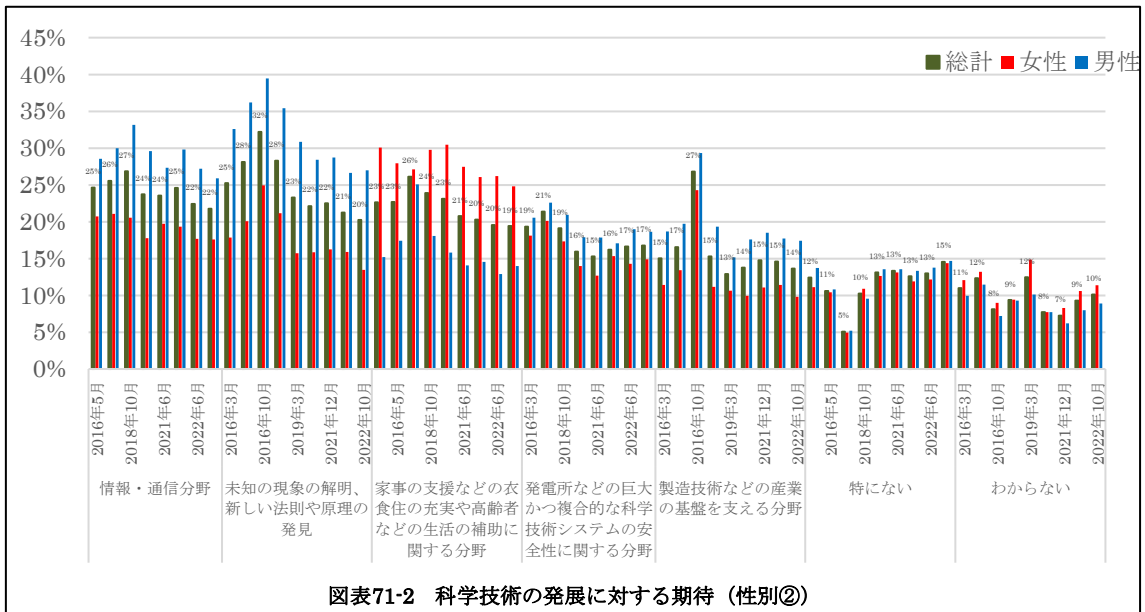
⑤ 科学技術の発展に対する期待と不安

次に、科学技術の発展に対する期待を調べる(図表 71-1、図表 71-2。ここでは、横軸の項目は、2022年10月調査時点の観測値(回答で得られた値)が高い順に項目を並び替えている(以降同じ))。「地震、津波、台風、洪水などの自然災害から生活を守るための分野」への期待が最も高く、次いで「医療分野」などとなっている。

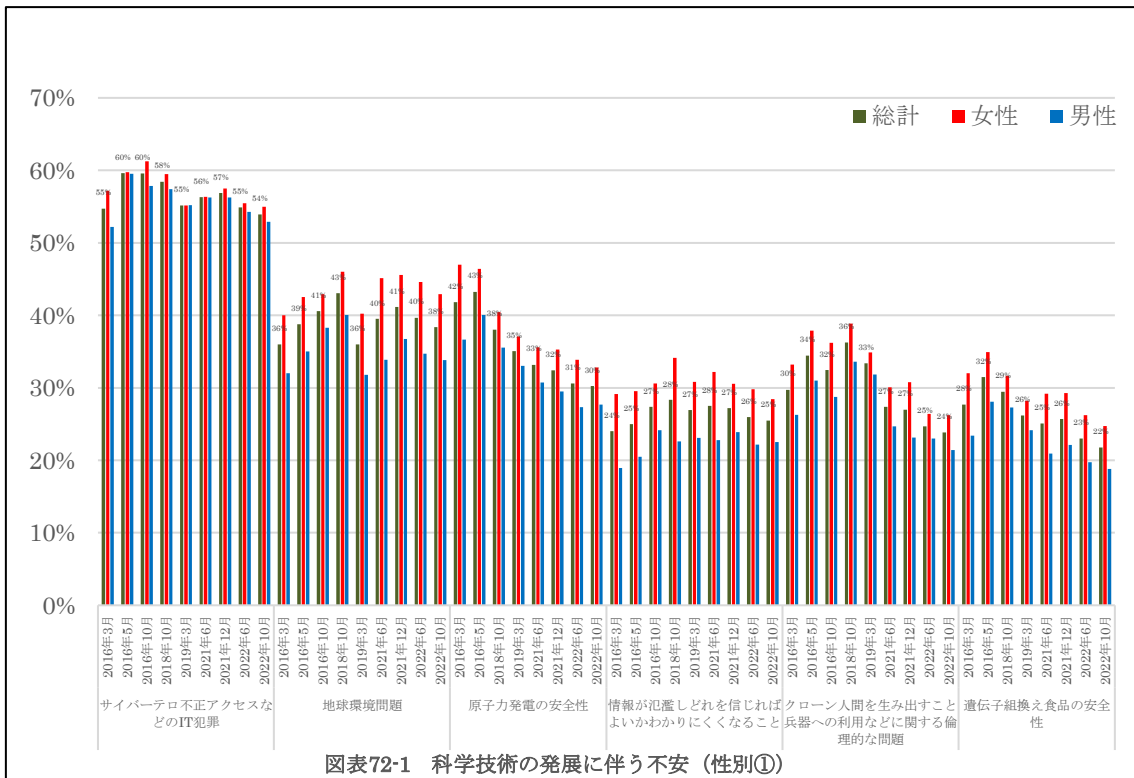
性別で見ると、「地震、津波、台風、洪水などの自然災害から生活を守るための分野」も「医療分野」、「食料(農林水産物)分野」、「防犯等の社会の安全安心分野」、「家事の支援などの衣食住の充実や高齢者などの生活の補助に関する分野」、「わからない」、も女性の期待が高いことが分かる。

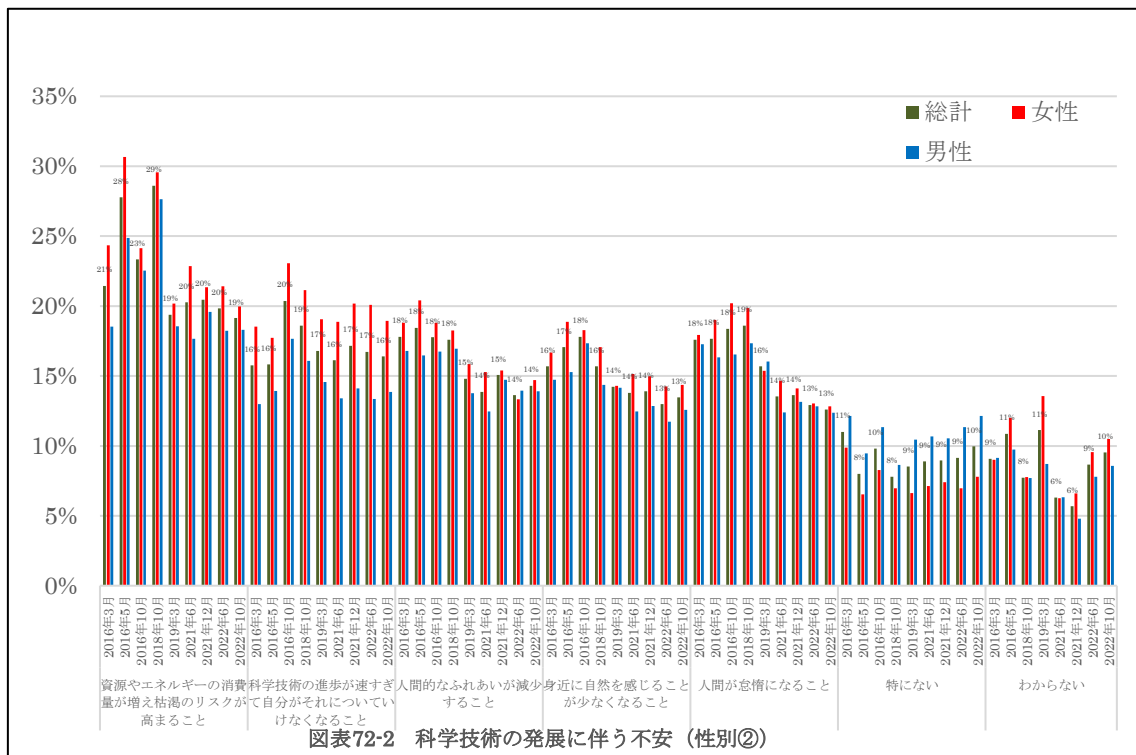
逆に男性の期待が高いのは、「資源エネルギーの開発や貯蔵に関する分野」、「宇宙海洋の開拓に関する分野」、「情報・通信分野」、「未知の現象の解明、新しい法則や原理の発見」、「発電所などの巨大かつ複合的な科学技術システムの安全性に関する分野」、「特にない」、となっている。





さらに、科学技術の発展に伴う不安を調べる(図表 72-1、図表 72-2)。「サイバーテロ不正アクセスなどの IT 犯罪」への不安が最も高く、次いで「地球環境問題」などとなっている。性別で見ると、いずれの場合も、女性の不安が高いことが分かる。逆に男性の不安が高いのは、「特になし」となっている。

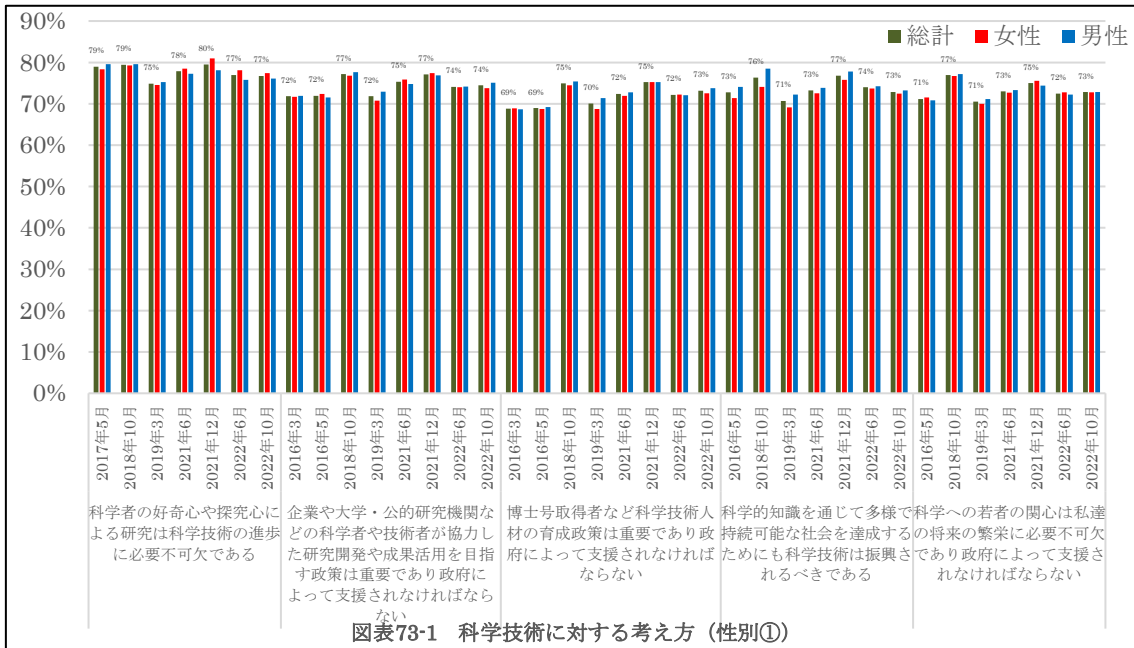




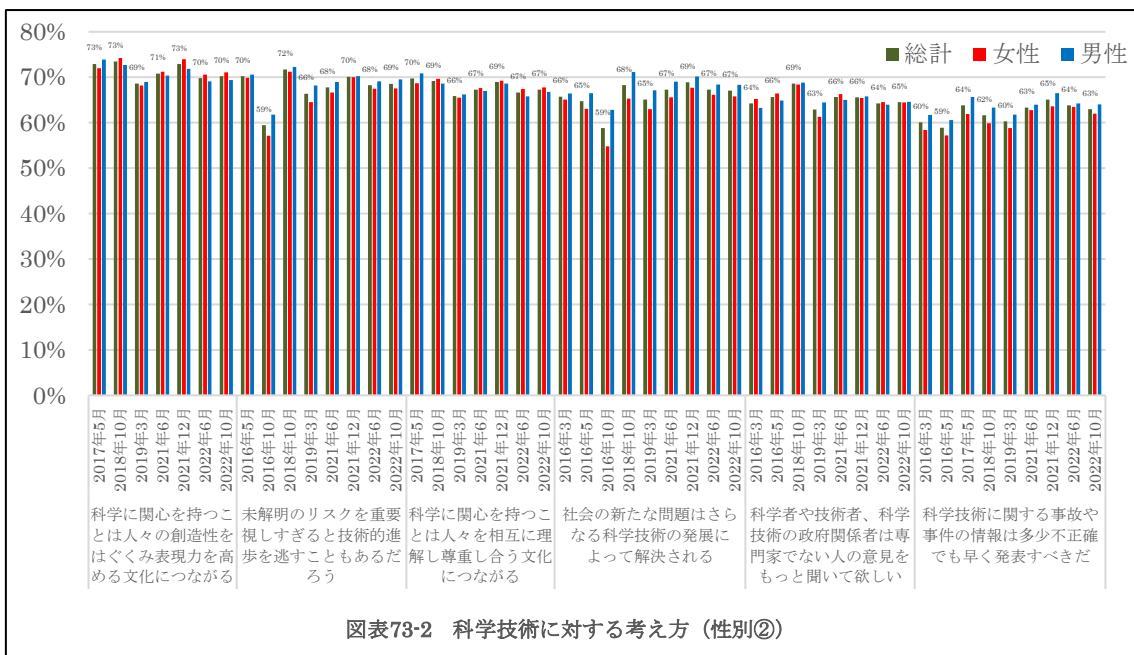
### ⑥ 科学技術に関する考え方

最後に、科学技術に対する考え方を調べる(図表 73-1、図表 73-2)。「科学者の好奇心や探求心による研究は科学技術の進歩に必要不可欠である」が最も高く、次いで「企業や大学・公的研究機関などの科学者や技術者が協力した研究開発や成果活用を目指す政策は重要であり政府によって支援されなければならない」などとなっている。

性別で見ると、女性が一貫して男性より高い数値はあまり見当たらないが、逆に男性が高いのは、「科学的知識を通じて多様で持続可能な社会を達成するためにも科学技術は振興されるべきである」、「未解明のリスクを重要視しすぎると技術的進歩を逃すこともあるだろう」、「社会の新たな問題はさらなる科学技術の発展によって解決される」、「科学技術に関する事故や事件の情報は多少不正確でも早く発表すべきだ」、となっている。



図表73-1 科学技術に対する考え方（性別①）



図表73-2 科学技術に対する考え方（性別②）

#### 4. おわりに

本調査の実施に際し、多大な御協力を頂いた皆様をはじめとする関係者の方々に心から感謝申し上げます。

#### 5. 参考文献

[1] 「国際文化交流に関する世論調査」(平成5年2月27日～平成5年3月9日)、内閣府

# 質 問 票





(インターネット調査質問票その1)

F1

あなたの性別をお答えください。

- 男性
- 女性

次へ

F2

あなたのお年は満でいくつですか。

歳

次へ

F3

あなたのお住まいの都道府県をお答えください。

--- ▼

次へ

F4

あなたが最後に卒業された学校(現在在学中の場合は所属している学校)は、次のどれに当てはまりますか。

なお、中退した場合は卒業とみなしてお答えください。

- 中学校
- 高等学校、または専修学校高等課程
- 高等専門学校
- 短期大学
- 専門学校、または専修学校専門課程
- 大学
- 専門職学位
- 大学院修士課程
- 大学院博士課程
- その他

次へ

F5

あなたが最後に卒業された学校(現在在学中の場合は所属している学校)での専攻分野は次のうちどれに当てはまりますか。

なお、F4で「中学校」又は「高等学校、又は専修学校高等課程」をお選びの方は、「該当しない」をお選びください。

- 人文・社会科学系  
(政治学、経済学、経営学、法学、文学、語学、歴史学、心理学、教育学など)
- 自然科学・工学系  
(数学、物理学、化学、生物学、理学、医学、歯学、薬学、看護学、栄養学、農学、工学、建築学、土木学など)
- スポーツ・文化芸術系(体育、音楽、美術、造形、デザインなど)
- その他
- 該当しない

次へ

#### 職種の分類

分類における注意事項又は具体的な職種の事例

(1) 農林漁業

農林漁業従事による収入を生計の主としている者

(2) 自営の商工サービス業

家族的な経営による商工サービス業を営んでいる者及び家族従事者

(3) 自由業

俳優、プロスポーツ選手等、成果主義的な収入を主としている者

(4) 管理的職業

管理職の公務員(議会議員を含む)、会社・団体の役員、会社・団体の管理職員、その他の管理的職業に従事する者

(5) 科学技術的職業

科学研究者、機械・電気技術者、建築・土木・測量技術者、情報処理技術者、医師・看護師その他医療技術者、保健婦(士)、栄養士、教員(大学等の教員)、その他の科学技術的職業に従事する者

(6) その他専門的・技術的職業

保育士、弁護士、会計士、教員(小・中・高の教員)、文芸家、著述家、記者、編集者、図書館司書・学芸員、その他の専門的・技術的職業に従事する者

(7) 事務的職業

総務・企画事務、受付・案内事務、秘書、窓口事務、予算・経理事務、事務用機器操作、タイピスト、その他の事務的職業に従事する者

(8) 労務的職業

生産・製造工程の職員、定置機械・建設機械運転員、電機作業の職員、採掘・建設労務の職員、鉄道機関士、車両運転手、郵便物の集配・配達、その他の労務的職業に従事する者

(9) 販売的職業

百貨店・スーパー・小売店・ガソリンスタンド等の販売員、商品仕入・販売外交員、保険セールスマン、不動産仲介、有価証券仲売人、その他の販売的職業に従事する者

(10) サービス的職業

家政婦、ホームヘルパー、理容・美容師、飲食物の調理士、接客・給仕、居住施設・ビル等の管理、旅行添乗員、その他のサービスの職業に従事する者

(11) 保安的職業

自衛官、警察官、刑務官、消防士、警備員、その他の保安的職業に従事する者

(12) 家事

主婦、主として家事を務めている夫等

(13) 学生

学業を主としている者(アルバイト等による収入のある学生を含む)

(14) 無職

就職の希望を有している者

(15) 無職(退職等)

定年退職等により、就職の希望を有していない者

(16) その他

上記に該当しない者

F7

あなたの現在の職業(学生等を含む)は、次のどの分類に当てはまりますか。

- 農林漁業
- 自営の商工サービス業
- 自由業
- 管理的職業

- 科学技術的職業
- その他専門的・技術的職業
- 事務的職業
- 労務的職業
- 販売的職業
- サービス的職業
- 保安的職業
- 家事
- 学生
- 無職
- 無職(退職等)
- その他

次へ

F8

あなたは、お子さんがいらっしゃいますか。  
次のうち、当てはまるものをすべてお答えください。(いくつでも)

- 同居している小学生未満の子どもがいる
- 同居している小学生の子どもがいる
- 同居している中学生の子どもがいる
- 同居している高校生(専修学校高等課程を含む)の子どもがいる
- 同居している大学生(高等専門学校、短期大学、専修学校専門課程を含む)の子どもがいる
- 同居している大学院生の子どもがいる
- 同居している社会人の子どもがいる
- 上記以外の同居している子どもがいる
- 同居している子どもはいない
- 子どもはいない

次へ

F9

あなたのお住まいの郵便番号についてお答えください。  
この情報は回答の分布を得る目的にのみ使用します。  
回答者個人を特定したり、第三者に情報提供することはありません。

郵便番号はこちら<<http://www.post.japanpost.jp/zipcode/>>から検索して入力してください。

 - 

次へ

F10

[海外経験]あなたは、外国に行ったことがありますか、ありませんか。次の中からはどうでしょうか。

- 外国(1つの国)に3か月以上住んだことがある
- 外国に行ったことがある
- 外国に行ったことはない


次へ

Q1  
 あなたは、普段、仕事や学校の授業で行う場合を除いて、次にあげたものを、どのくらい見聞きしたり、読んだり、利用したりしますか。  
 それぞれについて、最も近いものを1つお選びください。(それぞれひとつずつ)

							見聞きしない / 読まない / 利用しない
		ほぼ毎日のように	週に3〜4日程度	週に1〜2日程度	月に1〜2日程度	左記未満	
1	新聞(印刷版)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	新聞(電子版)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3	テレビ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4	ラジオ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5	インターネット(新聞や書籍、雑誌の電子版、SNS及び電子メールを除く)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6	SNS(FacebookやTwitter、LINEなど)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7	電子メール(ウェブメールを含む)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8	一般向け書籍(電子版を含む)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9	週刊誌や情報誌など雑誌(電子版を含む)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10	専門書籍や論文雑誌(電子版を含む)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q2

次の科学技術の話題にどのくらい関心をもっていますか。  
それぞれについて、当てはまるものを1つお選びください。(それぞれひとつずつ)

					
		関心がある	どちらかというに関心がある	どちらかというに関心がない	関心がない
1	科学技術イノベーションによる経済・景気・国際競争力の向上	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	地球温暖化や気候変動対策	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3	資源・エネルギー問題対策	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4	食料・水資源問題対策	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5	自然災害に対する防災・減災	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6	少子高齢化社会対策	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7	食の安全確保	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8	教育	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9	安全保障・テロ対策	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10	予防措置や医療の提供など健康や医療	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

11	生活環境の保全	○	○	○	○
12	自然環境の保全	○	○	○	○
13	新しい技術や発明の利用(既存の知識を用いた新製品の開発など)	○	○	○	○
14	新しい科学的発見(観察や実験、思考などに基づいた新事実や理論の発見など)	○	○	○	○
15	新しい医学的発見(新たな疾病や治療薬などに関する発見など)	○	○	○	○
16	宇宙探査・開発	○	○	○	○
17	海洋探査・開発	○	○	○	○
18	原子力開発	○	○	○	○
19	情報通信技術(インターネットや電子商取引、情報セキュリティ、ビッグデータなどの技術)	○	○	○	○
20	数理科学(最近の数学の成果を応用した技術開発など)	○	○	○	○



Q3

発展や改善が進むことへの期待が高まっている科学技術の分野がありますか。  
この中から、あなたの期待が高まっているものをいくつかあげてください。(いくつでも)

- 未知の現象の解明、新しい法則や原理の発見
- 宇宙、海洋の開拓に関する分野
- 地球環境の保全に関する分野
- 資源・エネルギーの開発や貯蔵に関する分野
- 医療分野など生命に関する科学技術
- 食料(農林水産物)分野
- 家事の支援などの衣食住の充実や高齢者などの生活の補助に関する分野
- 製造技術などの産業の基盤を支える分野
- 地震・津波、台風、洪水などの自然災害から生活を守るための分野
- 発電所などの巨大かつ複合的な科学技術システムの安全性に関する分野
- 情報・通信分野
- 防災、防犯などの社会の安全・安心に関する分野
- その他
- 特にない
- わからない

次へ

Q4

科学技術の発展にともなう不安が高まっていると感じていることがありますか。  
ここに示した中から不安が高まっていると感じているものをいくつかもお選びください。(いくつでも)

- サイバーテロ、不正アクセスなどのIT犯罪
- 遺伝子組換え食品の安全性
- 原子力発電の安全性
- 資源やエネルギーの無駄遣いが増えること
- 地球温暖化や自然環境破壊などの地球環境問題
- 身近に自然を感じる事が少なくなる事
- 情報が氾濫し、どれを信じればよいかわかりにくくなること
- 人間的なふれあいが減少すること
- クローン人間を生み出すこと、兵器への利用などに関する倫理的な問題
- 人間が怠惰になること
- 科学技術の進歩が速すぎて、自分がそれについていけなくなる事
- 人工知能(AI)などの発達により、人間の仕事が奪われること
- 新たな医療技術などが普及しても、一部のしか恩恵を受けられないこと
- その他
- 特に不安を感じない
- わからない

次へ

Q5

科学技術に関するニュースや話題に関心がありますか。  
次のうち、当てはまるものを1つお選びください。

- 関心がない
- どちらかというに関心がない
- どちらかというに関心がある
- 関心がある

次へ

Q6

あなたは、科学者の話は信頼できると思いますか。  
次のうち、当てはまるものを1つお選びください。

- わからない
- 信頼できない
- どちらかという信頼できない
- どちらかという信頼できる
- 信頼できる

次へ

Q7

科学技術の発展には、プラス面とマイナス面があると言われておりますが、全体的に見た場合、あなたはそのどちらが多いと思いますか。  
次のうち、当てはまるものを1つお選びください。

- マイナス面が多い
- どちらかというともマイナス面が多い
- 両方同じくらいである
- どちらかというともプラス面が多い
- プラス面が多い

次へ

Q8

科学技術に関する次の意見や考えについて、どうお考えですか。  
あなたのお考えに当てはまるものを1つお選びください。(それぞれひとつずつ)

		そう思う	どちらかというと思う	どちらともいえない	どちらかというと思う	そう思わない
						
1	科学者や技術者、科学技術の政府関係者は、専門家でない人の意見をもっと聞いて欲しい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	科学技術の進歩につれて、生活はより便利で快適なものになる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3	日常生活で科学について知っておくことは、私にとって重要なことである	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4	たとえすぐに利益をもたらさないとしても、最先端の学問を前進させる科学研究は必要であり、政府によって支援されなければならない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5	博士号取得者など科学技術人材の育成政策は重要であり、政府によって支援されなければならない。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6	企業や大学、公的研究機関などの科学者や技術者が協力した研究開発や成果活用を目指す政策は重要であり、政府によって支援されなければならない。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7	少しでもリスクのある科学技術は使用すべきではない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8	科学技術の研究開発の方向性は、内容をよく知っている専門家が決めるのがよい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9	科学技術の利用には、予想もできない危険が潜んでいる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10	科学技術の利便性を享受するためには、ある程度リスクを受容しなければならない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11	社会的影響力の大きい科学技術の評価には、市民も参加すべきだ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12	科学技術に関する事故や事件の情報は、多少不正確でも早く発表すべきだ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

13	資源・エネルギー問題、環境問題、水・食糧問題、感染症問題などの社会の新たな問題は、さらなる科学技術の発展によって解決される	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
14	科学的知識を通じて多様で持続可能な社会を達成するためにも科学技術は振興されるべきである	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
15	未解明のリスクを重要視しすぎると技術的進歩を逃すこともあるだろう	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
16	科学への若者の関心は私達の将来の繁栄に必要不可欠であり政府によって支援されなければならない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
17	科学者の好奇心や探究心による研究は科学技術の進歩に必要不可欠である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
18	科学に関心を持つことは人々を相互に理解し尊重し合う文化につながる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
19	科学に関心を持つことは人々の創造性をはぐくみ表現力を高める文化につながる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
20	現在の日本の科学技術は諸外国に比べ進んでいる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
21	10年後の日本の科学技術は諸外国に比べ進んでいる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
22	学校での理科や数学の授業は、生徒の科学的センスを育てるのに役立っている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
23	科学技術に関する政策の検討には、科学者や政府だけでなく、一般の国民の関わりがより一層必要となってくる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
24	人間の様々な組織や臓器に成長するiPS細胞など、再生医療に関する科学技術イノベーションにより、病気やけがなどの治療技術が進歩する	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

#### Q9

科学技術に関する人的国際交流の現状についてお伺いします。日本は諸外国との間で、様々な科学技術に関する人的国際交流を行っていますが、あなたは、現在、日本と諸外国との科学技術に関する人的国際交流は、どの程度行われていると思いますか。この中から1つだけあげてください。

- 十分に行われている
- まあ十分に行われている
- あまり十分には行われていない
- 十分には行われていない
- わからない

次へ

Q10

次に、科学技術の人的国際交流の意義についてお伺いします。あなたは、日本と諸外国との科学技術に関する人的国際交流を進めることは、どのような意義があるとお考えですか。この中からいくつかあげてください。(いくつかでも)

- 日本と諸外国との間の相互理解や信頼関係が深まり、国際関係の安定につながる
- お互いに刺激し合うことにより、より豊かな科学技術が創造され、世界の科学技術の向上につながる
- 人的国際交流を通じて、日本の科学技術の状況を世界に発信でき、日本の国際地位の向上につながるとともに、世界各国で高まりつつある様々な日本への関心に応えることができる
- 日本の国際化が進み、日本が国際的に開かれた国に発展できる
- その他
- わからない

次へ

Q11

次に、科学技術の人的国際交流の日本の科学技術政策における位置づけについてのお考えをお伺いします。あなたは、日本の科学技術政策において、日本と諸外国との科学技術の人的国際交流を進めることについて、重点を置くべきだと思いますか。この中から1つあげてください。

- 重点を置くべきだ
- どちらかといえば重点を置くべきだ
- どちらかといえば重点を置くべきではない
- 重点を置くべきではない
- わからない

次へ

Q12

あなたは、外国の科学技術の取組に関心がありますか。この中から1つあげてください。

- 関心がある
- どちらかというに関心がある
- どちらかというに関心がない
- 関心がない

次へ



Q13

あなたは、外国の科学技術の取組について、以下のそれぞれの分野に関心がありますか。  
この中から1つずつあげてください。(それぞれひとつずつ)

		関心がある	どちらかというに関心がある	どちらかというに関心がない	関心がない
1	情報通信技術	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	生命科学(感染症対策を含む)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3	宇宙・海洋	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4	気象・防災	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5	エネルギー(原子力を含む)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6	当該国固有の科学技術	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

次へ

Q14

次に、科学技術に関する人的国際交流の重点地域についてお伺いします。あなたは、日本と諸外国との科学技術に関する人的国際交流を進める上で、どの地域の国々との交流に、最も重点を置くべきだと思いますか。この中から1つだけあげてください。

- 中国
- 韓国
- その他のアジア(タイ、インドネシア、マレーシア等のASEAN諸国、インド、中近東など)
- オセアニア(オーストラリア、ニュージーランド、南太平洋諸国)
- アフリカ
- ロシア
- 東ヨーロッパ(チェコ、ポーランド、ウクライナなど)
- 西ヨーロッパ(ドイツ、フランス、イギリス、イタリア、イスラエルなど)
- 北アメリカ(アメリカ、カナダ)
- ラテンアメリカ(メキシコ、ブラジル、アルゼンチンなど)
- どの地域とも同じように進める
- わからない

次へ

Q15\_1

それは、どうしてでしょうか。この中から1つだけあげてください。

- 日本はアジアの一員であり、地理的にも近いから
- 歴史的なつながりが深いから
- 水準の高い科学技術を持つ地域だから
- 科学技術的に共通するところが多いから
- 古くから科学技術が栄え、貴重な遺産がたくさんあるから
- 日本は、この地域の自由化、民主化に向けて、科学技術面で貢献すべきだから
- 日本の科学技術に対する理解が十分でないから
- その他
- わからない

Q15\_2

それは、どうしてでしょうか。この中から1つだけあげてください。

- 日本はアジアの一員であり、地理的にも近いから
- 歴史的なつながりが深いから
- 水準の高い科学技術を持つ地域だから
- 科学技術的に共通するところが多いから
- 古くから科学技術が栄え、貴重な遺産がたくさんあるから
- 日本は、この地域の自由化、民主化に向けて、科学技術面で貢献すべきだから
- 日本の科学技術に対する理解が十分でないから
- その他
- わからない

Q15\_3

それは、どうしてでしょうか。この中から1つだけあげてください。

- 日本はアジアの一員であり、地理的にも近いから
- 歴史的なつながりが深いから
- 水準の高い科学技術を持つ地域だから
- 科学技術的に共通するところが多いから
- 古くから科学技術が栄え、貴重な遺産がたくさんあるから
- 日本は、この地域の自由化、民主化に向けて、科学技術面で貢献すべきだから

- 日本の科学技術に対する理解が十分でないから
- その他
- わからない

Q15.4

それは、どうしてでしょうか。この中から1つだけあげてください。

- 水準の高い科学技術を持つ地域だから
- これまで、他の地域に比べて科学技術の国際交流が少なかったから
- 日本の科学技術に対する理解が十分でないから
- その他
- わからない

Q15.5

それは、どうしてでしょうか。この中から1つだけあげてください。

- 水準の高い科学技術を持つ地域だから
- これまで、他の地域に比べて科学技術の国際交流が少なかったから
- 日本は、この地域の自由化,民主化に向けて,科学技術面で貢献すべきだから
- 日本の科学技術に対する理解が十分でないから
- その他
- わからない

Q15.6

それは、どうしてでしょうか。この中から1つだけあげてください。

- 水準の高い科学技術を持つ地域だから
- これまで、他の地域に比べて科学技術の国際交流が少なかったから
- 日本は、この地域の自由化、民主化に向けて、科学技術面で貢献すべきだから
- 日本の科学技術に対する理解が十分でないから
- その他
- わからない

Q15.7

それは、どうしてでしょうか。この中から1つだけあげてください。

- 水準の高い科学技術を持つ地域だから
- これまで、他の地域に比べて科学技術の国際交流が少なかったから
- 日本は、この地域の自由化、民主化に向けて、科学技術面で貢献すべきだから
- 日本の科学技術に対する理解が十分でないから
- その他

- わからない

Q15\_8

それは、どうしてでしょうか。この中から1つだけあげてください。

- 水準の高い科学技術を持つ地域だから
- 古くから科学技術が栄え、貴重な遺産がたくさんあるから
- 科学技術的に共通するところが多いから
- これまで、他の地域に比べて科学技術の国際交流が少なかったから
- 日本の科学技術に対する理解が十分でないから
- その他
- わからない

Q15\_9

それは、どうしてでしょうか。この中から1つだけあげてください。

- 水準の高い科学技術を持つ地域だから
- 自由な雰囲気があり、交流を進めやすいから
- 科学技術的に共通するところが多いから
- 日米関係は重要であり、科学技術面でも相互理解と信頼関係を深めることが大切であるから
- 日本の科学技術に対する理解が十分でないから
- その他
- わからない

Q15\_10

それは、どうしてでしょうか。この中から1つだけあげてください。

- 水準の高い科学技術を持つ地域だから
- これまで、他の地域に比べて科学技術の国際交流が少なかったから
- 日本は、この地域の自由化、民主化に向けて、科学技術面で貢献すべきだから
- 日本の科学技術に対する理解が十分でないから
- その他
- わからない

次へ

Q16

日本の科学技術に関する人的国際交流についてお伺いします。あなたは、諸外国の科学技術の発展に協力するために、日本は、どのようなことを行うべきだと思いますか。この中から1つだけあげてください。

- 日本の水準の高い科学技術を世界に広める
- 日本の広い分野をカバーする科学技術を世界に広める
- 諸外国との科学者の国際交流を拡大して、人材の育成を支援する
- 諸外国の科学技術・教育の発展のための支援を行う
- その他
- わからない

次へ

Q17


逆に、日本の研究成果が国際交流を通じて海外へ渡り、その成果を利用した製品等が日本へ流入することについてはどう思いますか。この中から1つだけあげてください。

- 製品開発の努力が海外で行われたのだから仕方がない
- そうということが起こらないように人的国際交流を実施する前に確認すべき
- 日本でも負けずに優れた製品を開発して対抗すればよい
- その他
- わからない

次へ

Q18

(1) 日本の科学技術における地位が論文数等で国際的に低下しているとの報道がされていますが、このことに対してあなたはどのようにお考えでしょうか。  
 (2) 近年、中国や韓国が製品開発において日本を凌駕している分野(IT等)があることについてあなたはどのようにお考えでしょうか。(それぞれひとつずつ)

		心配している	どちらかという心配している	どちらかという心配していない	心配していない
					
1	(1) 日本の科学技術における地位が論文数等で国際的に低下しているとの報道がされていること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	(2) 近年、中国や韓国が製品開発において日本を凌駕している分野(IT等)があること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

次へ

経済安全保障の概念は、「外部からの経済的な手段による脅威から国家レベルの安全を守るために経済面での施策を講じるもの」と一般化できます(三菱総合研究所webより引用)。

Q19

経済安全保障についての日本の取組(経済安全保障推進法の立法など)についてあなたは御存知でしょうか。あなたのお考えに当てはまるものを1つお選びください。

- 知っている
- どちらかという知っている
- どちらかという知らない
- 知らない

次へ

Q20

科学技術に関する次の経済安全保障等について、あなたはどうお考えですか。あなたのお考えに当てはまるものを1つお選びください。

- 日本の技術が海外で軍事技術に活用される懸念がある以上、経済安全保障の考えは理解できる
- 科学技術交流は研究者同士が自由に実施すべきものであり、経済安全保障の考えにより特定の国との科学技術交流に制約がかかることについては懸念がある
- その他
- わからない

次へ

Q21

海外からの研究者、留学生の受け入れや日本の海外留学数等に係る施策についてどうお考えですか。あなたのお考えに当てはまるものをそれぞれ1つお選びください。(それぞれひとつずつ)

		増加に向けて促進すべきだ	どちらかという増加に向けて促進すべきだ	どちらかという増加に向けて促進すべきではない	増加に向けて促進すべきではない
					
1	(1) 日本が大学や公的研究機関において海外からの研究者、留学生を受け入れることに対してあなたはどのようにお考えでしょうか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	(2) 近年、日本の若手研究者の海外留学数が低迷している(2013年度: 922人→2019年度: 729人)ことに対してあなたはどのようにお考えでしょうか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

次へ



Q22

日本で業績を上げた研究者が海外の大学・研究機関へスカウトされることに対してあなたはどのようにお考えでしょうか。

- 増加すべきだ
- どちらかという増加すべきだ
- どちらかという増加すべきではない
- 増加すべきではない

送信

(インターネット調査質問票その2)

Q1

あなたは、普段、仕事や学校の授業で行う場合を除いて、次にあげたものを、どのくらい見聞きしたり、読んだり、利用したりしますか。それぞれについて、最も近いものを1つお選びください。

それぞれひとつだけ

必須

		ほぼ毎日のように	週に3〜4日程度	週に1〜2日程度	月に1〜2日程度	左記未滿	見聞きしない／読まない／利用しない
新聞（印刷版）	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
新聞（電子版）	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
テレビ	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ラジオ	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
インターネット（新聞や書籍、雑誌の電子版、SNS及び電子メールを除く）	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
SNS（FacebookやTwitter、LINEなど）	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
電子メール（ウェブメールを含む）	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
一般向け書籍（電子版を含む）	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
週刊誌や情報誌など雑誌（電子版を含む）	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
専門書籍や論文雑誌（電子版を含む）	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q2

次の科学技術の話題にどのくらい関心をもっていますか。それぞれについて、当てはまるものを1つお選びください。

それぞれひとつだけ

必須

		関心がある	どちらかというに関心がある	どちらかというに関心がない	関心がない
科学技術イノベーションによる経済・景気・国際競争力の向上	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
地球温暖化や気候変動対策	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
資源・エネルギー問題対策	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
食料・水資源問題対策	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自然災害に対する防災・減災	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
少子高齢化社会対策	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
食の安全確保	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
教育	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
安全保障・テロ対策	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
予防措置や医療の提供など健康や医療	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
生活環境の保全	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自然環境の保全	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
新しい技術や発明の利用（既存の知識を用いた新製品の開発など）	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
新しい科学的発見（観察や実験、思考などに基づいた新事実や理論の発見など）	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

新しい医学的発見（新たな疾病や治療薬などに関する発見など）	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
宇宙探査・開発	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
海洋探査・開発	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
原子力開発	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
情報通信技術（インターネットや電子商取引、情報セキュリティ、ビッグデータなどの技術）	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
数理科学（最近の数学の成果を応用した技術開発など）	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

### Q3

発展や改善が進むことへの期待が高まっている科学技術の分野がありますか。この中から、あなたの期待が高まっているものをいくつかあげてください。

いくつでも

必須

未知の現象の解明、新しい法則や原理の発見

宇宙、海洋の開拓に関する分野

地球環境の保全に関する分野

資源・エネルギーの開発や貯蔵に関する分野

医療分野など生命に関する科学技術

食料（農林水産物）分野

家事の支援などの衣食住の充実や高齢者などの生活の補助に関する分野

製造技術などの産業の基盤を支える分野



地震・津波、台風、洪水などの自然災害から生活を守るための分野

発電所などの巨大かつ複合的な科学技術システムの安全性に関する分野

情報・通信分野

防災、防犯などの社会の安全・安心に関する分野

その他

入力してください

特になし

わからない

#### Q4

科学技術の発展にともなう不安が高まっていると感じていることがありますか。ここに示した中から不安が高まっていると感じているものをいくつかお選びください。

いくつでも

必須

サイバーテロ、不正アクセスなどのIT犯罪

遺伝子組換え食品の安全性

原子力発電の安全性

資源やエネルギーの無駄遣いが増えること

地球温暖化や自然環境破壊などの地球環境問題

身近に自然を感じる事が少なくなる事

<input type="checkbox"/>	情報が氾濫し、どれを信じればよいかわかりにくくなること	
<input type="checkbox"/>	人間的なふれあいが減少すること	
<input type="checkbox"/>	クローン人間を生み出すこと、兵器への利用などに関する倫理的な問題	
<input type="checkbox"/>	人間が怠惰になること	
<input type="checkbox"/>	科学技術の進歩が速すぎて、自分がそれについていけなくなること	
<input type="checkbox"/>	人工知能（AI）などの発達により、人間の仕事が奪われること	
<input type="checkbox"/>	新たな医療技術などが普及しても、一部の人が恩恵を受けられないこと	
<input type="checkbox"/>	その他	<input type="text" value="入力してください"/>
<input type="checkbox"/>	特に不安を感じない	
<input type="checkbox"/>	わからない	

**Q5**

科学技術に関するニュースや話題に関心がありますか。次のうち、当てはまるものを1つお選びください。

<input type="radio"/>	関心がある
<input type="radio"/>	どちらかというに関心がある
<input type="radio"/>	どちらかというに関心がない
<input type="radio"/>	関心がない

Q6

あなたは、科学者の話は信頼できると思いますか。次のうち、当てはまるものを1つお選びください。

ひとつだけ

必須

- 信頼できる
- どちらかという信頼できる
- どちらかという信頼できない
- 信頼できない
- わからない

Q7

科学技術の発展には、プラス面とマイナス面があると言われておりますが、全体的に見た場合、あなたはそのどちらが多いと思いますか。次のうち、当てはまるものを1つお選びください。

ひとつだけ

必須

- プラス面が多い
- どちらかというプラス面が多い
- 両方同じくらいである
- どちらかというマイナス面が多い
- マイナス面が多い



Q8

科学技術に関する次の意見や考えについて、どうお考えですか。あなたのお考えに当てはまるものを1つお選びください。

それぞれひとつだけ

必須

	→	そう思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	全く思わない
科学者や技術者、科学技術の政府関係者は、専門家でない人の意見をもっと聞いて欲しい。	→	○	○	○	○
科学技術の進歩につれて、生活はより便利で快適なものになる	→	○	○	○	○
日常生活で科学について知っておくことは、私にとって重要なことである	→	○	○	○	○
たとえすぐに利益をもたらさないとしても、最先端の学問を前進させる科学研究は必要であり、政府によって支援されなければならない	→	○	○	○	○
博士号取得者など科学技術人材の育成政策は重要であり、政府によって支援されなければならない。	→	○	○	○	○
企業や大学、公的研究機関などの科学者や技術者が協力した研究開発や成果活用を目指す政策は重要であり、政府によって支援されなければならない。	→	○	○	○	○
少しでもリスクのある科学技術は使用すべきではない	→	○	○	○	○
科学技術の研究開発の方向性は、内容をよく知っている専門家が決めるのがよい	→	○	○	○	○
科学技術の利用には、予想もできない危険が潜んでいる	→	○	○	○	○
科学技術の利便性を享受するためには、ある程度のリスクを受容しなければならない	→	○	○	○	○
社会的影響力の大きい科学技術の評価には、市民も参加すべきだ	→	○	○	○	○
科学技術に関する事故や事件の情報は、多少不正確でも早く発表すべきだ	→	○	○	○	○
資源・エネルギー問題、環境問題、水・食糧問題、感染症問題などの社会の新たな問題は、さらなる科学技術の発展によって解決される	→	○	○	○	○
科学的知識を通じて多様で持続可能な社会を達成するためにも科学技術は振興されるべきである	→	○	○	○	○
未解明のリスクを重要視しすぎると技術的進歩を逃すこともあるだろう	→	○	○	○	○
科学への若者の関心は私達の将来の繁栄に必要不可欠であり政府によって支援されなければならない	→	○	○	○	○
科学者の好奇心や探究心による研究は科学技術の進歩に必要不可欠である	→	○	○	○	○
科学に関心を持つことは人々を相互に理解し尊重し合う文化につながる	→	○	○	○	○
科学に関心を持つことは人々の創造性をはぐくみ表現力を高める文化につながる	→	○	○	○	○
現在の日本の科学技術は諸外国に比べ進んでいる	→	○	○	○	○
10年後の日本の科学技術は諸外国に比べ進んでいる	→	○	○	○	○
学校での理科や数学の授業は、生徒の科学的センスを育てるのに役立っている	→	○	○	○	○
科学技術に関する政策の検討には、科学者や政府だけでなく、一般の国民の関わりがより一層必要となってくる	→	○	○	○	○
人間の様々な組織や臓器に成長するiPS細胞など、再生医療に関する科学技術イノベーションにより、病気やけがなどの治療技術が進歩する	→	○	○	○	○



Q9

科学技術に関する人的国際交流の現状についてお伺いします。日本は諸外国との間で、様々な科学技術に関する人的国際交流を行っていますが、あなたは、現在、日本と諸外国との科学技術に関する人的国際交流は、どの程度行われていると思いますか。この中から1つだけあげてください。

ひとつだけ

必須

十分に行われている

まあ十分に行われている

あまり十分には行われていない

十分には行われていない

わからない

Q10

次に、科学技術の人的国際交流の意義についてお伺いします。あなたは、日本と諸外国との科学技術に関する人的国際交流を進めることは、どのような意義があるとお考えですか。この中からいくつでもあげてください。

いくつでも

必須

日本と諸外国との間の相互理解や信頼関係が深まり、国際関係の安定につながる

お互いに刺激し合うことにより、より豊かな科学技術が創造され、世界の科学技術の向上につながる

人的国際交流を通じて、日本の科学技術の状況を世界に発信でき、日本の国際地位の向上につながるとともに、世界各国で高まりつつある様々な日本への関心に応えることができる

日本の国際化が進み、日本が国際的に開かれた国に発展できる

その他

わからない

Q11

次に、科学技術の人的国際交流の日本の科学技術政策における位置づけについてのお考えをお伺いします。あなたは、日本の科学技術政策において、日本と諸外国との科学技術の人的国際交流を進めることについて、重点を置くべきだと思いますか。この中から1つあげてください。

ひとつだけ

必須

- 重点を置くべきだ
- どちらかといえば重点を置くべきだ
- どちらかといえば重点を置くべきではない
- 重点を置くべきではない
- わからない

Q12

あなたは、外国の科学技術の取組に関心がありますか。この中から1つあげてください。

ひとつだけ

必須

- 関心がある
- どちらかというに関心がある
- どちらかというに関心がない
- 関心がない

Q13

あなたは、外国の科学技術の取組について、以下のそれぞれの分野に関心がありますか。この中から1つずつあげてください。

それぞれひとつだけ

必須

関 と と 関

		心がある	さらさらかというくらい関心がある	ちらかというくらい関心がない	心がない
情報通信技術	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
生命科学（感染症対策を含む）	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
宇宙・海洋	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
気象・防災	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
エネルギー（原子力を含む）	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
当該国固有の科学技術	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

#### Q14

次に、科学技術に関する人的国際交流の重点地域についてお伺いします。あなたは、日本と諸外国との科学技術に関する人的国際交流を進める上で、どの地域の国々との交流に、最も重点を置くべきだと思いますか。この中から1つだけあげてください。

ひとつだけ

必須

中国

韓国

その他のアジア（タイ、インドネシア、マレーシア等のASEAN諸国、インド、中近東など）

オセアニア（オーストラリア、ニュージーランド、南太平洋諸国）

アフリカ

ロシア

東ヨーロッパ（チェコ、ポーランド、ウクライナなど）

西ヨーロッパ（ドイツ、フランス、イギリス、イタリア、イスラエルなど）

北アメリカ（アメリカ、カナダ）

ラテンアメリカ（メキシコ、ブラジル、アルゼンチンなど）

どの地域とも同じように進める

わからない

Q15S1

それは、どうしてでしょうか。この中から1つだけあげてください。

ひとつだけ

必須

日本はアジアの一員であり、地理的にも近いから

歴史的なつながりが深いから

水準の高い科学技術を持つ地域だから

科学技術的に共通するところが多いから

古くから科学技術が栄え、貴重な遺産がたくさんあるから

日本は、この地域の自由化、民主化に向けて、科学技術面で貢献すべきだから

日本の科学技術に対する理解が十分でないから

その他

わからない

Q15S2

それは、どうしてでしょうか。この中から1つだけあげてください。

ひとつだけ

必須

日本はアジアの一員であり、地理的にも近いから

歴史的なつながりが深いから

水準の高い科学技術を持つ地域だから

科学技術的に共通するところが多いから

古くから科学技術が栄え、貴重な遺産がたくさんあるから

日本は、この地域の自由化、民主化に向けて、科学技術面で貢献すべきだから

日本の科学技術に対する理解が十分でないから

その他

わからない

Q15S3

それは、どうしてでしょうか。この中から1つだけあげてください。

ひとつだけ

必須

日本はアジアの一員であり、地理的にも近いから



歴史的なつながりが深いから

水準の高い科学技術を持つ地域だから

科学技術的に共通するところが多いから

古くから科学技術が栄え、貴重な遺産がたくさんあるから

日本は、この地域の自由化、民主化に向けて、科学技術面で貢献すべきだから

日本の科学技術に対する理解が十分でないから

その他

わからない

#### Q15S4

それは、どうしてでしょうか。この中から1つだけあげてください。

ひとつだけ

必須

水準の高い科学技術を持つ地域だから

これまで、他の地域に比べて科学技術の国際交流が少なかったから

日本の科学技術に対する理解が十分でないから

その他

わからない

Q1555

それは、どうしてでしょうか。この中から1つだけあげてください。

ひとつだけ

必須

- 水準の高い科学技術を持つ地域だから
- これまで、他の地域に比べて科学技術の国際交流が少なかったから
- 日本は、この地域の自由化、民主化に向けて、科学技術面で貢献すべきだから
- 日本の科学技術に対する理解が十分でないから
- その他
- わからない

Q1556

それは、どうしてでしょうか。この中から1つだけあげてください。

ひとつだけ

必須

- 水準の高い科学技術を持つ地域だから
- これまで、他の地域に比べて科学技術の国際交流が少なかったから
- 日本は、この地域の自由化、民主化に向けて、科学技術面で貢献すべきだから
- 日本の科学技術に対する理解が十分でないから
- その他
- わからない

Q15S7

それは、どうしてでしょうか。この中から1つだけあげてください。

ひとつだけ

必須

水準の高い科学技術を持つ地域だから

これまで、他の地域に比べて科学技術の国際交流が少なかったから

日本は、この地域の自由化、民主化に向けて、科学技術面で貢献すべきだから

日本の科学技術に対する理解が十分でないから

その他

わからない

Q15S8

それは、どうしてでしょうか。この中から1つだけあげてください。

ひとつだけ

必須

水準の高い科学技術を持つ地域だから

古くから科学技術が栄え、貴重な遺産がたくさんあるから

科学技術的に共通するところが多いから

これまで、他の地域に比べて科学技術の国際交流が少なかったから

日本の科学技術に対する理解が十分でないから

その他

わからない



Q15S9

それは、どうしてでしょうか。この中から1つだけあげてください。

ひとつだけ

必須

- 水準の高い科学技術を持つ地域だから
- 自由な雰囲気があり、交流を進めやすいから
- 科学技術的に共通するところが多いから
- 日米関係は重要であり、科学技術面でも相互理解と信頼関係を深めることが大切であるから
- 日本の科学技術に対する理解が十分でないから
- その他
- わからない

Q15S10

それは、どうしてでしょうか。この中から1つだけあげてください。

ひとつだけ

必須

- 水準の高い科学技術を持つ地域だから
- これまで、他の地域に比べて科学技術の国際交流が少なかったから
- 日本は、この地域の自由化、民主化に向けて、科学技術面で貢献すべきだから
- 日本の科学技術に対する理解が十分でないから
- その他
- わからない

Q16

日本の科学技術に関する人的国際交流についてお伺いします。あなたは、諸外国の科学技術の発展に協力するために、日本は、どのようなことを行うべきだと思いますか。この中から1つだけあげてください。

ひとつだけ

必須

日本の水準の高い科学技術を世界に広める

日本の広い分野をカバーする科学技術を世界に広める

諸外国との科学者の国際交流を拡大して、人材の育成を支援する

諸外国の科学技術・教育の発展のための支援を行う

その他

わからない

Q17

逆に、日本の研究成果が国際交流を通じて海外へ渡り、その成果を利用した製品等が日本へ流入することについてはどう思いますか。この中から1つだけあげてください。

ひとつだけ

必須

製品開発の努力が海外で行われたのだから仕方がない

そういうことが起こらないように人的国際交流を実施する前に確認すべき

日本でも負けずに優れた製品を開発して対抗すればよい

その他

わからない

Q18

- (1) 日本の科学技術における地位が論文数等で国際的に低下しているとの報道がされていますが、このことに対してあなたはどのようにお考えでしょうか  
 (2) 近年、中国や韓国が製品開発において日本を凌駕している分野（IT等）があることについてあなたはどのようにお考えでしょうか

それぞれひとつだけ

必須

	心配していません	やや心配しています	かなり心配しています	とても心配しています
(1) 日本の科学技術における地位が論文数等で国際的に低下しているとの報道がされていますが、このことに対してあなたはどのようにお考えでしょうか	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(2) 近年、中国や韓国が製品開発において日本を凌駕している分野（IT等）があることについてあなたはどのようにお考えでしょうか	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

経済安全保障の概念は、「外部からの経済的な手段による脅威から国家レベルの安全を守るために経済面での施策を講じるもの」と一般化できます(三菱総合研究所webより引用)。

Q19

経済安全保障についての日本の取組（経済安全保障推進法の立法など）についてあなたは御存知でしょうか。あなたのお考えに当てはまるものを1つお選びください。

ひとつだけ

必須

- 知っている
- どちらかという知っている
- どちらかという知らない
- 知らない

Q20

科学技術に関する次の経済安全保障等について、あなたはどのようにお考えですか。あなたのお考えに当てはまるものを1つお選びください。



ひとつだけ

必須

- 日本の技術が海外で軍事技術に活用される懸念がある以上、経済安全保障の考えは理解できる
- 科学技術交流は研究者同士が自由に実施すべきものであり、経済安全保障の考えにより特定の国との科学技術交流に制約がかかることについては懸念がある
- その他
- わからない

Q21

海外からの研究者、留学生の受け入れや日本の海外留学数等に係る施策についてどうお考えですか。あなたのお考えに当てはまるものをそれぞれ1つお選びください。

それぞれひとつだけ

必須

		増加に向けて促進すべきだ	どちらかという増加に向けて促進すべきだ	どちらかという増加に向けて促進すべきではない	増加に向けて促進すべきではない
(1) 日本が大学や公的研究機関において海外からの研究者、留学生を受け入れることに対してあなたはどのようにお考えでしょうか。	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(2) 近年、日本の若手研究者の海外留学数が低迷している(2013年度：922人→2019年度：729人)ことに対してあなたはどのようにお考えでしょうか。	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q22

日本で業績を上げた研究者が海外の大学・研究機関へスカウトされることに対してあなたはどのようにお考えでしょうか。

ひとつだけ

必須

増加すべきだ

どちらかという増加すべきだ

どちらかという増加すべきではない

増加すべきではない

F1

あなたの性別をお答えください。

ひとつだけ

必須

男性

女性

F2

あなたのお年は満でいくつですか。

必須



歳

F3

あなたのお住まいの都道府県をお答えください。

ひとつだけ

必須

選択してください



F4

あなたが最後に卒業された学校（現在在学中の場合は所属している学校）は、次のどれに当てはまりますか。なお、中退した場合は卒業とみなしてお答えください。

ひとつだけ

必須

1. 中学校

2. 高等学校、または専修学校高等課程

3. 高等専門学校

4. 短期大学

5. 専門学校、または専修学校専門課程

6. 大学

7. 専門職学位

8. 大学院修士課程

9. 大学院博士課程

10. その他

入力してください

**F5**

あなたが最後に卒業された学校（現在在学中の場合は所属している学校）での専攻分野は次のうちどれに当てはまりますか。なお、F4で「1. 中学校」又は「2. 高等学校、又は専修学校高等課程」をお選びの方は、「5. 該当しない」をお選びください。

 ひとつだけ 必須

1. 人文・社会科学系（政治学、経済学、経営学、法学、文学、語学、歴史学、心理学、教育学など）
2. 自然科学・工学系（数学、物理学、化学、生物学、理学、医学、歯学、薬学、看護学、栄養学、農学、工学、建築学、土木学など）
3. スポーツ・文化芸術系（体育、音楽、美術、造形、デザインなど）
4. その他
5. 該当しない
- 入力してください

**F6**

あなたの現在の職業（学生等を含む）は、次のどの分類に当てはまりますか。



職種の分類	分類における注意事項又は具体的な職種の事例
(1)農林漁業	農林漁業従事による収入を生計の主としている者
(2)自営の商工サービス業	家族的な経営による商工サービス業を営んでいる者及び家族従事者
(3)自由業	俳優、プロスポーツ選手等、成果主義的な収入を主としている者
(4)管理的職業	管理職の公務員(議会議員を含む)、会社・団体の役員、会社・団体の管理職員、その他の管理的職業に従事する者
(5)科学技術的職業	科学研究者、機械・電気技術者、建築・土木・測量技術者、情報処理技術者、医師・看護師その他医療技術者、保健婦(士)、栄養士、教員(大学等の教員)、その他の科学技術的職業に従事する者
(6)その他専門的・技術的職業	保育士、弁護士、会計士、教員(小・中・高の教員)、文芸家、著述家、記者、編集者、図書館司書・学芸員、その他の専門的・技術的職業に従事する者
(7)事務的職業	総務・企画事務、受付・案内事務、秘書、窓口事務、予算・経理事務、事務用機器操作、タイピスト、その他の事務的職業に従事する者
(8)労務的職業	生産・製造工程の職員、定置機械・建設機械運転員、電機作業の職員、採掘・建設労務の職員、鉄道機関士、車両運転手、郵便物の集配・配達、その他の労務的職業に従事する者
(9)販売的職業	百貨店・スーパー・小売店・ガソリンスタンド等の販売員、商品仕入・販売外交員、保険セールスマン、不動産仲介、有価証券仲売人、その他の販売的職業に従事する者
(10)サービスの職業	家政婦、ホームヘルパー、理容・美容師、飲食物の調理士、接客・給仕、居住施設・ビル等の管理、旅行添乗員、その他のサービスの職業に従事する者
(11)保安的職業	自衛官、警察官、刑務官、消防士、警備員、その他の保安的職業に従事する者
(12)家事	主婦、主として家事を務めている夫等
(13)学生	学業を主としている者(アルバイト等による収入のある学生を含む)
(14)無職	就職の希望を有している者
(15)無職(退職等)	定年退職等により、就職の希望を有していない者
(16)その他	上記に該当しない者

ひとつだけ

必須

(1) 農林漁業

(2) 自営の商工サービス業

(3) 自由業

(4) 管理的職業



(5) 科学技術的職業

(6) その他専門的・技術的職業

(7) 事務的職業

(8) 労務的職業

(9) 販売的職業

(10) サービス的職業

(11) 保安的職業

(12) 家事

(13) 学生

(14) 無職

(15) 無職（退職等）

(16) その他

**F7**

あなたは、お子さんがいらっしゃいますか。次のうち、当てはまるものをすべてお答えください。

いくつでも  必須

同居している小学生未満の子どもがいる

同居している小学生の子どもがいる

同居している中学生の子どもがいる

同居している高校生（専修学校高等課程を含む）の子どもがいる

同居している大学生（高等専門学校、短期大学、専修学校専門課程を含む）の子どもがいる

同居している大学院生の子どもがいる

同居している社会人の子どもがいる

上記以外の同居している子どもがいる

同居している子どもはいない

子どもはいない

F8

あなたのお住まいの郵便番号についてお答えください。この情報は回答の分布を得る目的にのみ使用します。回答者個人を特定したり、第三者に情報提供することはありません。

必須

郵便番号左（3桁）

郵便番号右（4桁）

F9

あなたは、外国に行ったことがありますか、ありませんか。次の中からはどうでしょうか。



ひとつだけ

必須

外国（1つの国）に3か月以上住んだことがある

外国に行ったことがある

外国に行ったことはない

DISCUSSION PAPER No.218

科学技術に関する国民意識調査－人的国際交流について－

2023 年 1 月

文部科学省 科学技術・学術政策研究所  
第1調査研究グループ  
細坪護拳、加納圭、渡邊英一郎

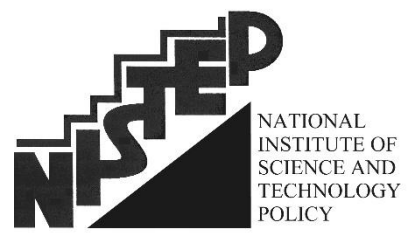
〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-2-2 中央合同庁舎第7号館 東館 16階  
TEL: 03-3581-2395 FAX: 03-3503-3996

Public Attitudes to Science and Technology - About international human exchange -

January 2023

HOSOTSUBO Moritaka, KANO Kei, WATANABE Eiichiro  
1st Policy-Oriented Research Group  
National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP)  
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT), Japan

<http://doi.org/10.15108/dp218>



<https://www.nistep.go.jp>